

「辞書を置かない考える英語教室」

前座の英語

2023 年度上期（合本）

Pre & Prep. English

2023 half A full ver.



物書き

うときゅういっき



ネパールカレー屋「ナマステ」別館堂

& 英語教室「すすき野留学」主人

辞書を置かない

考える英語教室

「前座の英語」

2023 年上期（合本）

“Pre & prep. English” 2023 half A full ver.

「日本の人は日本語みたいに、ひらがな、カタカナ、漢字と三通りも在るようなメチャクチャ難しい言葉を難なく喋っている。すごいよなあ」

と横浜市青葉区すすき野の街の外国人さん。

「だったら英語みたいに難しくない言葉を、それこそお茶の子さいさいで喋れても良いはずなのに、なんで誰もしゃべれないんだろう？英語みたいにいい加減な言葉を喋るのはプライドが許さないのかもしれないなあ」

と、外国人さんは答えに困って妙な誤解答を引き出しているようです。

本書の願いは、その我々自身が生み出してしまっている謎の答えを解き明かし、成る丈多

くの我が国同朋が英語のみならず我が国国語会話においても臆することなく「正々堂々と」話してみようかなという気持ちになって戴ける事です。

2021/6/26

(序)

何故、大方の我が国国民は頓悟がしゃべれないのか？

(仮説1)

前にいる外国人より、後ろの我が国同朋のチェック目線やひそひそ話が怖いから。

(仮説2)

学校の規則と一緒に、学習内容が細目に渡って細かすぎるから。

何故細かいのか？

受験英語だから。

受験英語は落とすための英語。簡単に言うとあら探し英語だから。

(仮説3)

結果、失敗を怖れて何かをする前からビビりまくって手も足も出ない「だるまさん状態が常態」だから

ではないでしょうか。

(結論)

だったら、

「失敗はない。経験があるだけ。だから失敗は成長の糧」

「ダメ元、元々ゲンキの素。開き直れば花が咲く」

で、まずはハードルをうんと低くして

「使えるものなら何でもあり」

から始めてみましょうよ。

(序 二段)

筆者は海外赴任、海外留学をした事はありません。英語学校にも通ったことはありません。

では、何処で英語を覚えたのか？

ご当地「横浜市青葉区すすき野」の地においてです。

周りに敷金礼金なしで自然環境がとてもいい UR 団地群が一杯あり、英語を話すアジア系、スラブ系外国人さんが沢山住んでおり国内にいて留学したのと同じ環境があったからです。

そこに、ひよんな事から定年退職後、ネパールカレー屋を開くことになり、従業員もお客様の一部も外国人だらけだったからなのでした。

そこで分かったことは「正しい」英語を話すことより「どうやったらたまたま隣にいる隣人（我が国国民でも外国人でも）と意思疎通を図れるか？コミュニケーションできるか」の方が遙かに大切だと言うことでした。

つまり目的が全然違ったのです。

「正しい」ではなく「分かってもらえるか、相手のことが分かるか？」だったのです。だとすれば、語学は単にその一手段でしかない。他にもジェスチャーやら表情やらハグやらイラスト、図表、ナンだって使えるんだ。何を使ったっていいんだという具合に考え方がまるで変わってきたのです。

そう思うと受験英語の正しさなんて、広い体育館の端っこの、平均台の上を後ろからナイフを突きつけられながら、恐る恐る歩いているようなもので、実につまらないというか意味の無いことのようにも思えてきました。

それって外国人から見たら「変にしかみえないよなあ。何を端っこの方でビビっているんだ？体育館はこんなに広いのに。平均台から床の上に降りて走り回れば良いのに」と言われているような気もしました。

因みに自分は大学一年次の必修英語を5年間落とし続けて6年目にやっと単位を取った位のレベルの英語学力でした。（恥ずかしながら大学院進学ではなく2年間留年したと言うことです）

それもそのはず、英語は「学力」ではなかったからです。

英語は「上から習って教わるもの、定型を覚えるもの等ではなく、考えて自分なりに創り出す事のできる極めて自由度の高いもの」

でした。

国の数だけ、もっと言うと人の数だけ個性に応じた英語の種類があってよかったのです。全く意外にも。

これらの「序」「序 二段」にご興味を感じられましたら、まずは騙されたと思って読み進めてみて下さい。

つまらなければ何時でも「ボイ」できますから。

それで一向にかまいませんので。

●目次に変えて

当合本は掌編小説集付属「オマケの英語教室」の第 1 5 集(2023/1/1)から第 2 2 集(2023/6/11)までで、2023 年上期に掌編小説付属として掲載されたものの合本で御座います。

2023/6/12

(本編)

第15集

2023/1/1-2

(オマケの英語教室 calendar)



中学生の頃「誰んだー。俺んだー。いや、彼んだー (calendar)」とか「ドイツが？こいつが。いや、あいつが」とか妙なダジャレが流行っておりました。

今の受けレベルからすると実に他愛もないレベルのもので大層みんな喜んでおりました。

オヤジギャグの源流はこの辺にあるのかもしれませんが。

と言いつつ自分の様な爺はこのレベルで十分楽しめるのですが、昨今の世間様ではそうでもない様で。正直、疲れます。

処でこの calendar という言葉。何が源流の言葉なのか？年末年始のお店の休みで、お金がなくて時間だけ山ほどある状態、詰り出かけるに出かけられず自宅本社で暇を持て余しておりますので、少々お遊びに考えてみました。

遊びですからいつも通り「敢えて」辞書は引きません。

カレンダーと言う語でまず思い浮かんだのがカレイドスコープ (kaleidoscope = 万華鏡) です。

三面ガラス張りの筒の中で色紙の切片が転がって万華を映し出すもの。

いうなれば「目くるめく」世界、から「日めくり」カレンダーを想像致しました。

次にカレンダーの「ダー (dar)」から day を想像致しました。

又カレンダーの「カレン(calen)」から L と R は違うのですが current model で聞き覚えのある current (現行の) を思い出しました。

これを連立方程式に当てはめてみますと、

「現行の目くるめく日々の世界を数字的に表すもの」それが「カレンダー」となりました。

今年もやっぱりイイカゲンで行きます。

本年もよろしくお願い申し上げます。

(追記)

此の駄弁りで calendar, kaleidoscope, current の三単語が印象付けられてスペル共々覚える事が出来ました。英単語記憶法としては合っているかどうか以前にこのように「印象付け」や「関連付け」して記憶から引き出し易くするのが一つの有効な方法であろうと思っておりますので、間違った原義解釈を承知の上で敢えて記載させていただきました。

又カッツカツの「正しい英語」ばかり追い求めますと、世界のあちこちにあるゆるフンミtainな「正しくない英語」を相手から使われた時にオタオタする羽目になり易いので、英語学習をするに際しては清濁併せ呑むが如く、ある程度幅を持って（持たせて）学ぶ姿勢をお勧めいたします。見ず知らずの相手との良好なコミュニケーションの為には。

2023/1/2-2

(オマケの英語教室 opposite returning export?)



「怖あ〜!!」

の事を外国人さんは terrible とか horror とか言っておりましたが、自分が一番言い易い fear, fear(フィヤ、フィヤ)と言いつつ attaching with the pose of chilling 震えあがってブルブルする動作をして見せた処、何となく当店では「コワイ」を表すのに此の fear が定借してしまいました。

因みに fear は「恐怖」「おそれ」の意味です。Chill は風邪での「悪寒」や「身震い」の事です。

Terrible が terror(テロル)からきており、horror は言わずと知れた horror movie のそれです。外国人さんがより具体性の高い語を使うのに対して、我々日本人はどちらかと言うと抽象的な単語、例えば fear「恐怖」という抽象語を選ぶ傾向があるようです。

ですが今回の場合は意味よりも語呂と言い易さ優先で fear を使いました。後申し訳程度に chill「身震い」という具体語の代わりをジェスチャーを使って添えました。

こんな英語がるのかどうか知りませんが日本語の「逆輸出」と言う意味で本日のオマケの英語の英語題名は「opposite returning export (反対の戻し輸出)？」と致しました。

「わかるかなあ？」

直上の是、誰かのギャグフレーズだったような記憶があります。

2023/1/4-2

(オマケの英語教室 handlings)



本編に「手間暇」という言葉が出て参りますが、この英訳にはハタと困ってしまいました。なので、日本文の「手間暇」に当たる英訳が出てくるたびに異なり、結果何種類もの言い方を用いてしまいました。

ご勘弁の程を。

処でそうこう試行錯誤をする中で、ふとある事を思い浮かべました。

それは「手間暇」は普通に考えると「手間」と「暇」つまり「時間」を掛けるという意味だが、この「手間暇」の「暇」はひょっとして音韻の当てで、本当は「手間非間（てまひま）」と書くのではなかろうか？と。

是だけでは分かり難いので少々解説を致しますと

「手間をかける事は「間＝ムダな空隙に非ず」で「手間非間」ではなかろうかとの見立て
で御座います。

このように仮に時間「も」ではなく「手間」にだけ重点が置かれているのだと解釈すれば
「手間暇」の英訳は「time and handlings」ではなく「handlings」だけでよいのではなか
ろうかとも。

因みに handling とは「手で扱う事」を指し、最もポピュラーなものでは車の「ハンドル」
が上げられます。ハンドルは「車の操作上、手で扱う（手を掛ける）部位」を「ハンドル」
と申している事になります。

又「これ、ハンドリングし易いな」

と言った場合のそれは「段取りが良く引き回しや手扱いがし易い（手を掛け易い）」状態
を表しております。

そして両方に共通する概念は「手扱い（手掛け）」で御座います。

もっと言えば今一番求められている物「惜しまず他人や物に手（や目）を掛ける事」を自
分は handlings という言葉を使って表したかったような気がしております。

2023/1/5-2

(オマケの英語教室 demand and supply unmatched)



「ヤダ」を英語に訳して取り敢えず no とか never と本編には書きましたが、どうもなんか違うような気がします。

それで自ら駄々子ならぬ駄々爺になって想像してみますに

It`s not my request one (欲しいのはそれじゃない)

No hope this, hope others (其れじゃなくて他のが、欲しい)

Concern to me before my complaining (こっちが云う前に忖度しろよ)

It`s not hit (外れだ) It`s out of my target

両者の間をとってせいぜい、がとこ

No, no!! Not it!!(ちゃう、ちゃう、それ、ちゃいまんがなあ)

とかがハラホロヒレハレと浮かびました。

要するにお互いの需要と供給があっていないコミュニケーションと会話不足の状態を想像致しました。

Shortly, demand and supply unmatched to each other, communicating and conversation not enough situation, I imaged.

Thank you so much (えら、おおきに(Era, Ookini)=In Japan, Kansai area`s Japanese Language)

2023/1/6-2

(オマケの英語教室 sudden death)



自分はゴルフを全くしませんので、これは自分のオヤジからの受け売りで御座います。

「ゴルフで～～を sudden death、突然の死というんや」

自分はゴルフに全く興味がなかったのでオヤジが「サドンデス」が何を意味するかを申し述べていた記憶を失念しております。まあ、単純に考えてあまり良い事ではない急変なのでしょう、多分。

斯くの如く世の中には急変と言うものが存在致します。と言うよりそれが日常茶飯の normal のようで御座います。我々はそれを認めたがりませんが。

しかし現実には「ある日突然風向きが変わる」「何の前触れもなく（本当は注意深く観察していれば見つかるらしいのですが）」「理由は全く分からない」事は往々にしてよく起きる事です。

昔、学生の頃に読んだカフカの「変身」に見る様に、ある日目が覚めてみたらグレゴール・ザムザ（でしたっけ）の如く、突然自らがイモ虫になっている事を発見し真っ青一色の混乱状態に陥ったりもします。

世に是を「不条理」と呼びならわしております。

自分の友達でこのカフカの「変身」が大好きな人間がおりましたが、何故か「独文」進学クラスには行かず自分と同じ「露文」進学予定教養年次クラスに入っておりました。

理由は分かりません。

そもそも自分のオヤジからしても自分のムスコが何故「理工学部」や「政経学部」ではなく「第一文学部」に進んだのかもわからなかった様で御座います。

簡単に申せば、世の中、謎だらけ。カッコよく申せば「その不条理が人間性を磨く」とか。ですが自分には「不条理は不条理」としか思えません。

「いい加減にしてほしいわ、このクソ天命共が」

と怒り「柴又に発し」ではなく「心頭に発し」毎日毒づいております。

Everyday complaining, I'm bad person!! Not maybe, but exactly, maybe.

2023/1/7-2

(オマケの英語教室 Ups)



外国人さんがよく「詰った」時に Ups と言っているのを何度か聞いた記憶がありましたので今回、本編で「うっ」に充てて Ups を使ったのですが、一応それでいいかどうかの確認の為に今回は久々に辞書を引きました処「うっ」に当たるものが出てこずに何やら U P S という電源系統の略語であるとか、なんと腕立て伏せとかばかりがずらずらと出て来て面食らいました。

自分が久々に辞書を引いて確認したかったのは「うっ」に Ax を充てた方が良いか Ups の方が良いか確認したかったからですが、まるで飛んでも八分な訳語ばかりが出て来て肝心の Ups はネットページ 2, 3 枚をめくっても出てきませんでした。

なので、今回の英訳には余り自信がないのですが、タイトルとしては Ax より Ups の方が我々日本人には連想イメージが湧き易そうに思えたので、今回間違いを承知で敢えて採用させていただきました。

(注)

自分が引いたネットの英単語帖は無料版でしたので、ひょっとするとお金を払って有料版を使うと載っているのかもしれませんが。

2023/1/8-2

(オマケの英語教室 secondary school)



中学の事を我が国では Junior High school と申しておりますが、外国人が Junior High school という謂い方をしているのを耳にしたことはありません。

外国の人は大抵 Secondary school と言っているようです。

いや、むしろそういわないと聞き返されたりもします。

Junior High school, what? と。

一体どういうことなのか？

で、またまた少し考えてみました。

其処であることに気付きました。

それは起点が何処にあるか？です。

つまり我が国の起点は高校 High school にあるからその下は Junior High school になる。

例えばアメリカの大統領にブッシュ父子がなった時には、父ブッシュを Bush father とい
い子ブッシュを Bush Jr.と言ったような関係です。

一方外国では我が国の小学校に当たる Elementary school 直訳すれば要素（教育）学校が
起点となるので、中学はその次の第二段階という事で Secondary school と言う事になりそ
うです。

此処に我が国と外国との大きな発想の違いを感じます。

外国では1の次は2という加算積上がり発想。

一方我が国では高校にはまだ届かない前段階と言う意味で減算、最高到達でもゼロの未だ
達せず発想。

他には高校進学率の差をも感じます。

我が国では高校進学が当たり前だから中学に Junior が付けることが可能ですが、外国、特
に貧しい国では必ずしも高校に進学できるとは限らないので、高校 High school を起点と
しない小学校 Elementary school を起点とした名前の付け方 Secondary school となってい
るのではなからうか？という事で御座います。

無論、是は自分の推論であって、本当の処は存じませんが。

(注)

写真は自分の母校中学の現在の姿（の様です）ネットから引っ張りましたので、実際に訪れて写真を撮ってきた訳ではありません。一度行って見たいのですが。

2023/1/9-2

(オマケの英語教室 nickname and name)



お正月明けに中学時代の友達とメールのやり取りをしていて突然中学時代の同級生の仇名がボロボロ浮かんできました。

考えてみれば我が国に於ける仇名の付け方はどちらかと言うと仇名の持ち主の欠点、弱点、ヘンな面に由来するものが多い気がします。

例えば自分の中学時代の仇名は

既に「うときゅう」はご紹介済みですが、元々は「エロ坊主」と言うものでした。

スケベな事ばかり考える丸刈り坊主頭の中学生だったからです。

他には大学卒業までの間に付けられた仇名もロクなもの無く

「弱虫かずちゃん（かずたかが自分の名前です）」「ドスケベかずちゃん」は親戚から。

「ぼんぼん」「すっぼん」「五人バケツ（5人歩いていて風が吹いてバケツが飛んでくると必ず当たるのがお前の意）」は「ご学友」から。

「おんな日照り（干ばつと同義）」「歩く事件簿」「背後霊ホルダー」は会社の先輩から。

起業して後は「不幸のデパート」「憑き物係（いきものがかりのモジリ）」「893」「danger man」

「ミョウナ奴」等を各界の皆様方から拝領仕っております。

なので、時折自分は nickname の語源は bottle neck name（その人が社会生活を送る上での隘路となりそうな側面に冠された名前）で、nickname はそれが音便化した短縮形なのではないかと思ったりもします。

それでというか、全く関係ないにもかかわらず唐突に思い浮かんだ事があります。

本編に出てくる「少年サンデー」「少年マガジン」「少年ジャンプ」他には掲載は致しませんでした「少年キング」「少年チャンピオン」等の少年漫画雑誌が自分の子供時代に始まり昨今に至るまであるのですが、各雑誌を英訳すると Sunday for boy, Boy`s jump, King of boys, Boy`s champion 迄は少年雑誌名としてスムーズになりたつのですが、マガジンだ

けは何か変な気がしました。と言うのも「少年マガジン」を和訳すると「少年雑誌」ではないからです。となれば外国の方から

OK, it`s a magazine for boys. Then what`s the name of this magazine?

「いいわ。少年向けの雑誌ね。でこの雑誌の名前は何て言うの？」と。

「少年マガジンが雑誌名だよ」

Magazine for boys is the name of this magazine.

と妙な、ややこしいばかりの会話になりそうだからです。

2023/1/10-2

(オマケの英語教室 no seed means unseeded 辺境より)



本編中に出てきます No seed（ノーシード）という単語は和製英語だそうです。正しくは unseeded とのこと。

ノーシードという言葉には聞き覚えがあったのですが、意味が判然としなかったもので、ネット検索辞書のお世話になって及ぶに至った訳です。

それにしてもなんでこんなややこしい和製英語なんて作っちゃうのでしょうか、毎度のことながら。Unseeded が言いにくかったり日本人がイメージしにくかったりするから no seed と言い換えたというなら、そんな手間をいちいち掛けなくても普通に日本語で、例えば「圏外」「枠外」「注目外」と言えば済むとおもうのですが、どうなのでしょう。

もし「外」という言葉に抵抗があるなら、いつお声がかかってもいいように、と準備万端「周辺での待機」を意味する詞を使えばいいんじゃないでしょうかね。

例えばお呼びがかからなかったに力点を置けば「予備候補」とか「次席候補」とかという謂い方で、およびはかかっていないけれど、と一歩進んだ前向きな意思を表したいなら「選抜希望者」とか「自薦立候補者」とかを使えばいいんじゃないでしょうかね。

以上、日本語が大好きな、歳のせいで早起き記録更新中爺さんのボヤキでした。

(1月10日、草木も眠る丑三つ時、川崎のチベットこと麻生区、丘の上の造成地住宅にて、記す)

2023/1/11-2

(オマケの英語教室 Shut the origin is must or Shut it from origin is must 元から絶たなきゃダメ)



昔のコマーシャルで「臭いは元から絶たなきゃダメ」という消臭剤のコマーシャルがありました。

この場合の英訳なら

Shut the source of smell is must or shut the cause of smelling si must.

が妥当なところの様な気がします。

音韻的には後半の言い方つまり cause (コース) の方が適しているような気がします。

自分は大方の場合意味よりも音で語句を選ぶ傾向が強い様です。

ですので、このオマケの英語教室の題名も意味的には後者つまり it from の方が妥当なんでしょうが、音韻から言うとも前者 the origin の方を選びます。その方が、音的にインパクトが感じられるからです。

言葉と言うのは、元々意味や文字より音の方が、遥かに歴史が長く又原型、発端でもある訳ですから、其れはそれとして当然の選択なのかもしれないなあと、個人的には思っております。

処で本日オマケの英語教室で何故「元から絶たなきゃダメ」を題材に選んだかと申しますと、本編での話ですが、自分のうつ病体験からすると「結局対症療法ではだめで、一時激痛が伴うが寛解を求めるなら一刻も早く膿を出し切らない(元を絶たないと)と長引くだけだ」という実感からこの話題を選んだ次第で御座います。

たまたま自分の場合は好むと好まざるとにかかわらずそういった状況に陥ってしまったのですが、そうでない場合にはそれに気付いたものがその施術(膿だし作業)をしないといけないのではないか?自分が寛解したからと言って自分さえ助かれば、と言う事は隣人の苦難に目を瞑り、単に「見て見ぬ振り」を自分自身ですることになるのではないかと自分自身をも併せて危惧しておる事故の起草で御座います。

傲慢と思われる向きもあるかと存じますが、これは現在自分が抱いておる偽らざる書つ直な気持ちで御座います。

2023/1/12-2

(オマケの英語教室 normal)



Normal=常態。

以前自著の「コロナ禍カレー屋ナマステ別館堂主人、ニューノーマル探索サバイバル日記」の冒頭でも書きましたが

人は何を常態とみるかによって認識に大きな差が出て参ります。

例えば非常に恵まれた「状態」が「常態」であると認識していれば、ちょっとした不具合や不運の発生でも動揺しオタオタします。

処が何をやっても上手く行かないのが世の中の常（常態）であると認識していれば、多少の事ではおたついたりせずにすみ、偶に幸運に出会えば「稀有の事」として「有難く思え」たりもする。

と言った様な趣旨の事でした

なので、本編の題名「ダメ元 normal」は「ダメで元々が常態」という事に。

「ダメ元が常態」だと思えばかなりの失敗数でも、余りめげないで済むような気がしております。いやむしろ失敗の数だけ持ち駒、手持ち札、詰り「切り札」の数が増えるような気さえしております。経験則上。

なので、題名を最終的に

「ダメ元 normal, KFS(=Key For Success)」

と致した次第でございます。

誠に僭越では御座いますが。

2023/1/13-2

(オマケの英語教室 Today my twitting with Boo!!)



大変厳しい状況下において、へらへらしていると会社勤めをしていた折には「緊張感が足りない」とよく叱られました。が、当店の店員の極楽とんぼさんと脳天気さんチームは台風の如き大風吹き荒れる状況下に於いてさえ「その風どこ吹く風アルカ？」の馬耳東風状態で御座います。

しかし、自分の様な性分のものには逆にこれが大変助けになっておる気がします。

厳しい状況の折、おっかない顔や沈んだ顔、マジな顔をされると相手の身の上が気になって息苦しくなってしまう、疲れてしまうからです。

そもそも厳しい状況の折におっかない顔をしようが沈んだ顔、マジな顔をしようが一銭の得にもならないし、事態が好転するきっかけにもならない訳で、ハッキリ言って無駄です。無駄と言うより逆効果。

なので「誠に結構である」とほったらかしております。

処で極楽とんぼと脳天気を英語にどう訳せばいいか？

是はもうそのまんま訳しております。

曰く

極楽とんぼが dragonfly on the paradise

脳天気が always fine weather in a brain

ちょっと長いですが、当店では日常会話的にごくごく自然に使っております。

因みにこの二人に言わせると自分は very danger man なのだそうでございます。

あらら、の、あらま。で、ブー!!

後、余興で一発。

Of the people, by the people, for the people

と言ったのは、かの有名なリンカーン大統領ですが、最近世の中を観察しておりますと

Of the people, by the people,迄は一緒なのですが、最後の部分だけ for the MONEY

に置き換わっているかの様に見えて仕方ありません。

確かに当店もお金にはかなり窮しておりますが、ハッキリ言っていい加減ウンザリもしております。

兎に角毎日勧誘電話と勧誘メール攻めで、ほんとイヤになっております。ブー!!

再び因みに、オマケの英語教室、本日の題名 Today my twitting with Boo は邦訳で「本日のボヤキ」位のつもりで御座います。

2023/1/14-2

(オマケの英語教室 pension)



英語で年金を指す pension と我が国では主に洋風の宿泊施設であるペンションが同じ綴りの pension だとは知りませんでした。年金の方の pension の綴りは仕事柄、従業員の社会保険支払いを日本年金機構 Jann pension services にいたしておりますので知っていましたが、洋風宿泊施設の方は同じ筈がないと勝手に思い込んでいたために取り敢えず書くとなれば綴りに「pention」詰り s を t に替えて使っておりました。

それにしても pention と書くと毎回下に赤の波線、即ち「そんな単語ないよ」マークが出るので、間違いなんだろうなとは思いつつもペンションと pension が同じ綴りだであるとの発想にはどうしても至りませんでした。

処が今回、本編の題材もあって調べてみた処、ペンションと pension は同じ綴りであることを見出しました。

そしてなぜ同じなのかの由来についてはそのネット上の辞書に

「宿泊施設を何故ペンションと呼ぶかについては、退職後、英国の年金生活者 pensioner が小遣い稼ぎに自宅の空き部屋を宿泊施設として使ったことに由来する」(筆者概略説明)と載っておりました。

ではなぜ年金の事を pension と呼ぶかにつきましては、是は自分の想像ですが英国の貨幣単位、ポンド、シリング、ペンスの呼称の内、最も少額な単位の pence からきているのではなかろうか？との見立てで御座います。

貴族が pond で庶民は pence。爪に火をともしような生活。

そんな感覚でしょうかね？

(注1)

1 ポンド=20 シリング=1 シリング=12 ペンス。

シリングはいまではない通貨単位です。あった頃は 1 ポンド 20 シリング。1 シリング 12 ペンスでしたので $20 \times 12=240$ で 1 ペンスは 1 ポンドの $1/240$ 程の少額だったという事です。

(注2)

年金受給者は通常 pensioner と出ております。

しかし他を見ると「する側」は末尾 er 付き「される側」は末尾 ee 付きが一般的なような気がします。

例えば

Employer が(雇用者)で employee が(雇用人)

Trainer が(トレーナー、教官)で trainee が(訓練生)と言った違いです。

なので、自分はてっきり年金受給者は pensionee だとばかり思っていたのですが、辞書では pensioner が正解となっております。でも自分の考えでは pensioner は年金支払い側なのではないのかな？とあまり納得がいかない儘、一抹の疑問が残ってしまいました。

つまり支給側の日本年金機構が pensioner で受給者側の自分は pensionee なのではないのかなあ？と。

2023/1/15-2

(オマケの英語教室 flower and flour)



「Gokan」と発音して日本語で書きますと「五感」「互換」「語幹」「語感」「五巻」「五冠」と兎に角いっぱい出てきます。是はもう前後の文脈から何を言っているか（どれを選ぶか）を判断するしかありません。

英語でも似たようなものがあります。Flower と flour です。前者が「花」後者が「小麦粉」
当店では Camelia powder という銘柄の小麦粉を使ってナンを焼いております。

この flower と flour 使い間違えるとエライ事になる場合があります。

Flower と flour を伏字と発音だけ聴いた場合

You, flower (flour)

是が相手に flower に聞こえていたら

(For) you, flower(好きだから)君に花（上げる）

処が、是が相手に flour に聞こえていたら

(To) you, flour（俺は腹減ったから）お前に小麦粉（早くパン焼け）

位の差が出て来てしまいます。（）内を省いてみると文型と発音は殆ど同じですから、相手の取りようではまるで心象が変わってきってしまう訳です。

言った後相手がデレデレし始めたら前者としてとらえられた。

言った後相手にぶん殴られそうになったら後者として取られたという事でしょう。

小麦粉を渡す時にも傍らに花を用意しておくのがいいかもしれませんね。恋愛時代は。

2023/1/16-2

(オマケの英語教室 Manga comparison of impression, expressing way)



本編の表題を初め「悔しい～」としましたが途中で「ぐゃじい～」に変えました。

その方が「悔しい感」がより一層でそうだったからです。

「ぐゃじい～」にしろ「あ」に「ゝ(濁点)」を付けた造文字「あゝ～」にせよ、これらは皆我が国のマンガからとっております。

他にもマンガからは本編のイラストはじめこの「オマケの英語教室」用に多数のイラストを借用させて戴いております。無論著作権フリーの中からですが。

兎に角我が国のマンガにおける表現の多彩さは世界に類を見ないほど素晴らしいものがあります。

でも何故でしょう？

是は自分の推論ですが「逆に我々日本人は表立って何も表現しないから」ではないでしょうか？

例えばアメリカやフランスで或いはブラジルの国民諸氏は日常生活の中で大袈裟なジェスチャーをしまくっているために却ってマンガ、コミックに載せるネタがなくなっているのではなかろうかと。

その分我が国では、表に出したくても出せない状況下の中で自分のアバターとしてのマンガキャラの表現法が多彩且つシャープに研ぎ澄まされていったのではなかろうか、とも。

しかしこれは漫画文化と言う面からは褒められてしかるべきなのですが、国民の幸福度、生活の自由度という側面からは決して褒められたことではない様な気もしております。

我が国のマンガ表現を実生活の中に取り入れて表現すれば結構世界的な「人気者」になれるような気もするのですが、御若い方は一度お試しになられては如何でしょう？世界のひのき舞台に出る前に、先ずは我が国の学校や職場、街角、イヤ先ずはご自宅辺りで試されては、如何なものでしょうか。

2023/1/18-2

(オマケの英語教室 noun and verb, status position and doing)



何度か申し上げましたが、再度申し述べさせていただきます。

「肩書重視文化と「～する」を重視する文化」

直上カッコ内のたった一行の書き方だけを見てももう違います。

前者は短くてインパクトがありいいのですが、型にはまって動きがナイ。

後者は些か締まりがなく長ったらしく見えますが、何となく柔らかくて柔軟性がありそうです。

インパクト効率

対

自由度フレキシビリティ。

或いはこういう謂い方もできます。

「名詞重視文化」

対

「動詞重視文化」

さてこれから、どうしましょう？

(追記1)

A verb saves a noun means Sometimes a soft saves a hard, doing saves a status.

(追記2)

名詞に「名刺」「名士」を

動詞に「お互い同士」を

当がってみるのも面白いかもしれません。

或いは又「manager の肩書が欲しいだけ」なのか「manage (本当に事態を) 何とかしたい)」のか？とか。

要するに人は肩書や言っている事ではなく、その人がしている事を見ないと判断を大きく

間違えてしまうような。

(追記3)

添付のイラストの左側第二フレーズ目の「弱よく強を制す」は「動よく静を制す」の方がいいかもしれませんが、ジャストなイラストなかったものですからこれにさせて戴きました。

因みに右側のイラストはコミックの「柔らちゃん」です。

2023/1/19-2

(オマケの英語教室 still not get clear yet until now)



Still not get clear yet until now.

未だにスッキリしない。

Cloudy, foggy, no focusing inside my brain.

頭の中がもやもやしている。

Why?

ナンデ？

No have power even to reply.

返す気力もない。

If I say forcedly, going further and further, getting worsen, worsen, I feel.

強いて言えば、行けば行くほど、どんどん悪くなる気がする。

Anyway, I don't have other way except to say real story, like above, I have thought now.

兎に角、上述の様に、ありのままを言うしかない、と自分は今、思っております。

(本編)

第 16 集

2023/1/21-2

(オマケの英語教室 ping pong)



我が国でピンポンと言えば卓球より「ピンポンダッシュ」を思い浮かべる人の方が多いのではないのでしょうか。

そのままの英訳 ping pong dush では ping pong rush (連続的且つ波状的押し込み攻撃法かな?) と、英語で言う ping pong 詰り卓球そのものの話と間違えられそうなので、意味する処の field の違いを示す為に敢えて長めの

Chaim button touch and go dush, named Ping Pong dush とか説明的に一度付加したうえで、その後に Ping Pong Dush を使わないと理解してもらえない様な気がします。

それにしてもこの「ピンポンダッシュ」という造語を考えついた人は「天才だ」と尊敬してしまいます。お世辞や持ち上げではなく本当に感心してしまいます。

同じように「see saw (シーソー)」を考えついた外国の方も「どうするとそういう点に着目できるの?」と矢張り感心してしまいます。

我が国ではシーソーのことを時折「ギッタンバッコン」と言ったりもしますが。

因みに see saw は邦訳すると「見る、見た」となります。

「上に上がった時相手の向こう側を見る (見える)」が see で

「下に下がった時には向こう側が見えず上に上がった時に見る (見える) のが過去になって「見た (見えた)」で see の過去形の saw

よくもまあそんなところに着目したものだ、と、see saw の名の由来を聞いた時にはかなり驚きました。

その点 ping pong は我が国で see saw を「ギッタンバッコン」と名付けているのと同様、其れが発する音から来ているのだと思います。

「で、それがどうしたの?」

と言われると自分がその意外さに驚いたというだけの話で、

「別に、どうという事は」

と返すしかないので御座います。

自分の場合こういった話が多すぎて「我々の最重要項目、最大関心事に全く関係のない、どうでもいい事に感心してばかり」いる「ミョウナ爺だ」と言われておるわけで御座います。

「しかし」と申しては何ですが、自分の様な非才のものは本丸に当たるには、上記の話の様な事を含め、辺り一帯、その周辺を「下手な鉄砲も数うち当たる」式の人海戦術を繰り広げて虱潰しに当たり、消し込む以外にはないのだと思っておる訳で御座います。当り1%、外れ99%が世の常、と思えば無駄を当然と見做し、根気、遍く強く外れ100回覚悟で、その100回を超えて迄、鉄砲を撃つしかない、様な気がしておる訳で御座います。途方もない時間がかかる訳で御座います。

If you are bad shooter, after many times shooting, can hit it, the target.

To reach to Rome, never can take it only One day.

(注)

「消し込む」という謂い方は昔自分が経理部の売掛金回収担当をしていた頃によく使われていた言葉です。

意味は売掛金入金総額に対して、どのような物件の売掛金振り込みなのかをあらゆる組みあ合わせを宛がって、総額とその組み合わせがジャストに合った時に始めて「消込が出来た」と言った場合に使われていた言葉で、その作業自体を「消し込む」と言っていた訳で御座います。

2023/1/22-2

(オマケの英語教室 span)



本編の文中で 20 年と言う期間を記すのに、日本語英語でよく使われるスパン(span)を使用しておりますが、実はこの span (スパン) と言うのは短めの期間を表す言葉で、term と period は長めの期間を指す言葉なのですが、自分は分を書くのに当たり日本語感覚に合わせて span (スパン) を採用いたしました。日本語感覚と言う意味は音韻的に其れが一番ぴったりしているという意味合いです。

又、しいて理論づけるなら、悠久の歴史、例えば人類史 100 万年単位から見ると 20 年と言うのは単に短めの span 位のものでしかないと言って言えない事もないという根拠建も出来るかもしれません。

処で、私事ではありますが、自分が実際に着ているものは短いものでも 5 年、長いものでは 40 年くらい同じものを着用しているのですが、別に節約の為ではありません。総じて昔のものは一般市販品でも長持ちするようです。理由は作りがシッカリしているからの様な気がしております。

今自分が住んでいる地域では新規入居者の方々は大概、前に住んでいらした方の家を壊して新築家屋を建て替えるのですが、自分から見ると「実に勿体ない事をしているな」と言う気が致します。其れと言うのも上述の通り「昔の普請の方が、遥かに作りがイイ」からです。

今どき同じものを立てるとしたら倍のコストがかかるでしょう。という事は逆に言えば同じ売値で買われたのなら今の普請は半分の質でしかないという謂い方もできるかもしれません。要は「新」に拘るか否かの話でしょう。

それで思い出しましたが、持ち家住宅取得の場合、我が国は新築住宅比率が高く、欧米では中古住宅比率が高いのだそうです。

欧米での中古住宅の比率が高い理由は

「長年前の人が住んで問題なかったことが実証されている」
からなのだそうです。

この辺の感覚もおニュー好き、例えば新卒、新製品、新品、新築好きの我が国国民感情とは随分かけ離れた発想だなあ、という気がしております。

「前」は「旧い」「他人の手垢で汚れているからイヤ」と言うのは欧米の「人が住んでいたから」という「歴史」や「他人を信頼する」思考とは全然違うような気がします。この辺も先進国の国民心理調査で、我が国だけ突出して「他人に対する不信感」が高い事の当然の帰結なのかもしれません。

処で上述の話題に登場する「長く使う」「長年人が住んでいた」様な場合の期間を英訳するとすれば自分なら long term を充てたいと思います。

(long) Period でも意味的には正しく且つ又当然ながら使用してもいいのですが、日本人感覚からすると period というのは「終わり」とか文末の「読点」を連想しがちなので、多分使かわないだろうなあ、term を使った方が馴染むなあという気が致しております。

(注)

写真の家は自宅ですが、コロナ禍以降、諸般の経営打撃で現在借金の抵当に入っております。

写真内の着用品は全て篤志ある方々からの戴き物の品々で御座います。

しかし 37 年前に親父が建てた家の作りだけは実にシッカリしております。譲るならこの建物を壊さず使い続けられる方に譲りたいと思っております。

2023/1/23-2

(オマケの英語教室 push and pull)



本編最後の英文の中に出てくる pushing と pulling ですが、是は我が国の諺「押してもダメなら引いて見な」の英訳語として使いました。

しかし自分が或会社の商品企画担当をしておった時にこの語を使った戦略を教わりました。曰く「push 型戦略から pull 型戦略への転換」という謂い方でした。

何のことかと申しますと簡単に言えば販売戦略を「押し付け型から誘因型へ」転換すると言ったような意味合いでしょうか。

当時はそれを「ゴリ押しからゴリ押しを止める戦略」と受け取って誠に結構な事だと思ったのですが、しかし後年この言い方にいくばくかの疑問を抱くようになりました。

それは「push にせよ pull にせよ、どの道「無理やり感」は否めないよな。何のことはない、おんなじじゃないのよ、阿保くさあ」でした。

一方コレマタ、後年、あるマーケティングの実務家の方から

「押し付けが嫌なら、ファンを作りなさい。ファンなら自分の方から喜んでやってくるようになりますから」

とアドバイスを受け「成程、ファンづくりかあ」

と目から鱗の感がありました。

このファンの英訳をその時まででっさり「楽しい」の方の fun だと思っていたのですが、辞書を引いてみたら間違いで、正しくは fan でした。

「えっ、何で扇の方なの？」

と思いましたが、あれこれ想像した結果「ファンの人は「お疲れ様」と言いつつその対象者を扇で仰いだりしたことに由来したんだろう」と勝手に思いなしました。

バブル全盛期にマハラジャのお立ち台で自分目立ちの為にダチョウの羽扇子打ち振って踊りまくっていた姉ちゃん達由来とは違います。あくまでも相手を仰いで差し上げている訳です。

ファンと言う言葉で思い出す事が一つありました。

「自発性」です。「自分から進んで」の意味です。

昔自分が在籍していた会社で「業務改革運動」と言うのがあり、自分がその立案を命じられたのですが、その折「規則尽くめでは、効率化は達成できたとしても、其れは部分最適で全体最適面からは却って士気が下がります。ですので、メンバーの自発性に力点を置いた組織活性化を主目的にしようと思います。その中での副産物として業務改革を位置づけたものを立案しようと思います」

と言った途端、何もしない内にその任を解かれてしまいました。

近年ではあまり耳にしません、自分が小学生の頃には盛んに「子供の自発性」という謂われ方がされておりました。

しかしこれも「大人が欲する自分のコピーの様な人間像になりたがる」「要求者にとって手間が省けて誠に都合のいい自発性」でしかなく、本当の意味の自発性とは大きく異なっていたような気がします。

この辺が我が国では manager を原義通り「いざと言う時に何とかする人」と訳さずに「管理者」と訳している傾向によるものだと思います。

ですので、調子に乗ってもしそんなことをしたら、詰り本当の自発性を発揮したら先の会社と同じく「誰がそんな事をしろと言った」と大目玉を喰う羽目になってしまう訳です。

2023/1/24-2

(オマケの英語教室 Misunderstanding is our destiny and I love Mac!!)



本編の邦題「誤解は付き物」の英語題名を Misunderstanding is our destiny としました。誤解に当たる英語名詞でもっと適切なものがあるかもしれませんが、自分が今現在知っている物と言う条件下、を第一として「誤解」の「誤（あやまり）」と言うより「ミス（取り違い）」の方が適切だろうと思ってこの語を採用いたしました。

又「付き物」に関しては直ぐに思い付きそうな「attaching, attached」を敢えて採用せず「拭い去ろうとしてもどうしても拭い去れないもの」「取り払おうとして取り払えないもの」という感覚を出したかったので destiny(運命、宿命)と言う可成り強めの言葉を採用いたしました。

因みに our は「われわれ人間は、の」という意味合いで御座います。

Our（われわれ人間は、の）を入れた事で destiny というかなり大袈裟な言葉とのバランスが取れるようになり、使用が許される条件が整ったような気がします。

（our natural（誤解するのが人間と言うもの、人間にとって当たり前）でもいいかもしれません）

何度も申し上げますが、和文を英語に翻訳する際、直訳より意識の方が日本人の我々には分り易いかと存じます。仮にそれを採用いたしましても外国人さんへの印象上はあまり問題ないと考えております。体験上。

と言うのも彼らの会話を聞いていると日本人の我々には「そんな大袈裟な表現使うんだァ、このくらいの事いうだけでも」と驚かされる場面が多々ありましたので。

例えば、最も分り易い例で言えば、

「私、Mac 好きよ」を「I love Mac!!」とかです。

日本語に直訳すると「私 Mac burger を愛しておりますの」ですから「たかがハンバーガー如き」に「愛してる」を「使うなんぞ」我々日本人はぶっ魂消てしまいますよね。

2023/1/25-2

(オマケの英語教室 Maji?)



日本語の「マジ?」「マジで?」「マジに?」「マジかよ?」なんかの「マジ」にどの英語を充てればいいか?

結構悩みます。

一番使うのが皆様同様一番聞き覚えのある

really?

です。

他にはそれに類する語として

True?

Indeed?

なんかがあります。

因みに really は real world vs. virtual world 現実世界対仮想空間でお馴染みの「現実」「実際に」が訳語です。

よく日本語で「real な作り」とか「real な表現」とか言う場合の real は「精巧な作り」「生々しい表現」と言った意味合いなのでちょっと real の使い方が変なような気がします。一方 realism というのは「現実主義」と訳されますが本来なら「この世で実際に起こる形での」という方が正しい気がします、いかんせん長すぎるので通常自分もこの訳語に「現実主義」を充てております。かなり不承不承ですが。

なので、上記の場合の really? は「実際にあった話なの?」「現実に関わった事なの?」と言ったような感じなのでしょう。ですので「マジ?」の訳語に一番近い気がするのかもしれませんが（「マジで?」「マジかよ?」を「本気なの?」「本気かよ?」に宛がうのはちょっと違う気がします。「本気なの?」「本気かよ?」の英訳はむしろ後述する「その気が有るのか無いのか?どっちなの?」を表す Is it true の、trueの方が近いような気がします。

詳しくは後ほど)

処で残りの二つ。是はどうでしょう?

まず true は

Is it true?

「それホント?」

等と使われます。この場合の「ホント?」は「事実（真実）なの?」「間違いないの?」

に近い感じです。要するに生起場所が現実世界か仮想空間かはどうでもよく単にその事柄が「正誤」いずれなのか、或いは「有無」のいずれなのかを単に「二択?で」問うているに過ぎない様な気がします。

では最後の indeed

是が一番難しかったです。

そこで是を例によって「伝家の宝刀」である「言語因数分解」してみますと

In + deed

「の内」と「証書」に分かれます。Indeed は当店、外国人従業員の在留延長手続きや受け入れ手続きの際に入管事項でよく目にした certificate (証書) と同じような意味合いです。細かな違いはよく知りませんが。

話を元に戻しましょう。

In + deed は「証書的な本当感」みたいなことなのでしょう。

となると日常会話で indeed を使う場合は「約束事レベルで嘘つかないで言う」とみたいなかなり強制力を含んだ実務的お役所的に重たい意味合いを持たせた感じなのではないでしょうか。

♪バイトするならインディード (indeed) ♪

という CM がありますが、この会社の社長さん、そう CM している以上は、バイト出願者さん達に対してちゃんと（本当に）書面通り約束守ってくださいね。お願いします。

最後になる述べてきました内容を簡単に纏めてみますと

Really? が「実際に起こったの?」で

True? が「本当に事実（真実）なの?」で

Indeed? が「約束してくれるの?」と覚えればいいような気がしております。

今日も又当たるも八卦、当たらぬも八卦のオマケの英語教室で御座いました。

失礼。

2023/1/27-2

(オマケの英語教室 too much enough)



なんか、もう「沢山」っていう感じです。

Too much enough, why some, I feel.

2023/1/27-4

(オマケの英語教室 Daddy ,Mommy)



自分の個人的な経験範囲ですが English speaker が父さん、母さんの事をパパ、ママと呼んでいるのを耳にしたことは殆どありません。大抵は Dad, Daddy と Mom, Mommy です。では一体パパ、ママと言うのは何語なのでしょう？

何となく英語の語感の様な気がしないんです。英語っぽくない気がするのです。

そういえばどういう字を書くのかは知りませんが、中国の人がパーパ（或いはバーバかもしれません）、マーマと言っているのを聴いた記憶があります。唯、発音的には日本語で使うパパ、ママとは違い間に「一」を入れて伸ばしているように聞こえました。

そこでちょっと調べてみた処、パパ、ママと言うのは全世界的にどの言語にもあるのだそうです。理由は一番簡単で短いからと「ヤフーの知恵袋」にどなたかが投稿されておりました。

こうしてみると江戸時代までの日本語にはそのパパ、ママがなかったという処から見ても、如何に我が国の言語、日本語が特殊な言語、他に類例を見ない独立系言語であるかを感じます。

外国人にとって他言語からの類推がほとんど利かない日本語の学習が如何に大変かと言う事が是一つをとってさえ強く感じられる次第で御座います。

(余談)

第三者に自分の父母の話をするときには、Dad, Mom を使い

実際に面と向かって自分の父母に声をかける時には Daddy, Mommy を使っているようです。

上なら My Dad said (俺のオヤジが云ったんだ) とか

下なら Hey, Mommy (ねえ、かあちゃん。ねえ、おかん。ねえ、ママ) とか

2023/1/31-2

(オマケの英語教室 upset)



英訳は致しませんでした但本編に「茶番劇」と言う日本語が出て参ります。

例によって「茶番」てえ一体何の事だろうと考えてみましたが、英語のある単語にそのヒントがありました。無論当たっているかどうかは分かりませんが。

英語で「動揺する」「狼狽える」「オタオタする」等を表す単語に upset というのがあります。

この語の由来は同じく英語の set up「準備する」「用意を整える」日本語でも言いますが「セットアップする」の順番が入れ替わった語が upset なのだそうです。

詰り語順が入れ替わる程「準備できない様な」「用意を整えられない様な」「セットアップできない様な」状態が即ち upset 状態であると。

とすれば「茶番劇」の中の「茶番」の反対は「番茶（おばんちゃ）」

皆様ご存じの様に「番茶」はお茶の中でも一番等級が低いお茶です。「番茶の出がらし」と言えば「もう搾りかすもいい処」と言ったような意味で使われます。

その「番茶」の順番が逆転して「茶番」に成程「カスもいい処な芝居（作り事）」が「茶番劇」と言う言葉の由来なのではなかろうか？と。

辞書を敢えて引かずに色々推理してみるって、結構楽しいものです。ヒマな爺には。

2023/2/1-2

(オマケの英語教室 master and owner)



お題の 2 単語は以前書いた単語ですが。

マスター(master)は我が国では何故か喫茶店やスナック、飲み屋さんのご亭主を指しますが、元はドイツ語で有名なマイスター（マイステル）職人（職工）制度上の親方又は職長を指します。

我が国で飲み屋さんやバーの女将を指すマダムは、英語やフランス語で madam「成熟した大人の女性」を指します。既婚か未婚かはこの場合全く関係ありません。年齢にも関係ありません。唯、一般的には口を利く前の見た感じで 30 歳以上の女性に適応されるのが慣習の様です。

他にはご主人が自分の家内の事を wife とは言いますが、他人が人の奥さんを指す時には、特に会話の中で、第三者扱いで指す時にはあまり your wife と言っているのを聞いたことがなく、大抵は madam か your madam の方が多いような気がします。

Wife と言うと何となく「寄り添う」「腕組み」「添い寝」要するに「密着」のイメージがあり幾ばくかの危うさが伴う可能性があるからではないでしょうか。

同じく我が国で野球やサッカーチームの主将をキャプテンと言いますが、元は英語の captain 船長を指しております。

話を元に戻しましょう。

では本題にある owner とは何なのか？

我が国では家作の大家さんやお店の持ち主をオーナーさんと読んだりしますが。

それではいつもの様に単語因数分解をしてみましょう。

Owner= own + er（名詞形）

Own する人。

では own（形容詞形）は何かと言えば「自分自身の」「自分で所有する」です。

それでは own とは何なのか？

Own とは owe（動詞形）が語源だと考えております。

詰り owe の意味は「負う」「背負う」ですから own は「それに対して責任を持つ（負う）」

で owner は「それに対して責任を取る人間」という事になります。

例えば家作の大家さんやお店の亭主は店子や従業員に対して殺生与奪の権を持つ代わりに店子や従業員に対する外部からの殺生与奪の権の振る舞いから守って上げる責任を同時に持たねばならない事を指している訳です。

決してオーナー風を吹かせて人の横面を札束でひっぱたくような真似をする輩の事を指してはいない様です。

Master にせよ owner にせよ原義は縁の下の力持ちで黒子的な結構「地味」な役柄のようです。我が国で使われるような派手な存在ではない様です。

ですので、このような「派生理解（曲解解釈）」、平たく申しますと「勘違い」「取り違い」「思い込み、思い違い」には十分注意をし、必ず元々は何であったのかの原義を紐解いてみる必要性を最近とみに感じておる次第で御座います。

2023/2/2-2

(オマケの英語教室 stroller)



本編の中に「乳母日傘（おんばひがさ）」という日本語が出てきます。

乳母（おんば）とは「乳母（うば）」の音便化したもののようです。

詰り乳母が日傘を常に差し掛けてくれるような育ち。「お箸（はし）」より重いものは持ったことのない暮らし向きだった。子供時代。

現在我が国では乳母車（なんていう謂い方を知っているのは昭和世代以前のヒトだけでしょ）の事をベビーカーと呼ぶのが一般的になっております。

しかし外国人にベビーカーと言っても何のことだかさっぱりわからない様です。

どうやら「赤ちゃんが乗るもの」ではなく「赤ちゃん位ちいちゃな車」を思い浮かべているようです。そもそも我々が「ベビーカー」で「カー」とはいうものの彼らが「カー」で抱く概念とは全然違っているからです。

では、我々が「ベビーカー」と呼んでいるものは英語話者の間では何と言っているのか？
聞いていると

Stroller

と呼んでいました。

要するに stroll + er ストロールするもの。

では stroll とは何のことでしょうか？

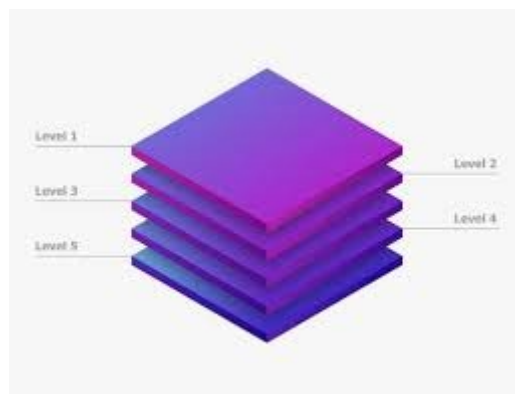
是は勝手に street + roll(rolling)と分けてみました。

詰り街中の通りを転がして（車輪を転がして）移動するもの。

何故なら田んぼや畑だらけの田舎ではあぜ道なんかが凸凹過ぎて乳母車なんて使わないでしょうから。

2023/2/3-2

(オマケの英語教室 layer)



本編で一皮、二皮の「皮」の英訳を skin ではなく layer としました。

Skin を使うとなんか痛々しい気が致しましたので「層」を表す layer を使用いたしました。
この layer と言うのは言語因数分解すると lay + er となります。

Lay は中学校で習う皆さまお馴染みの「横になる」「横たわる」という動詞です。

なので、layer と言うのは「横になっているもの」「横たわっているもの」と言う意味になります。

あと、本編でこの「皮をはがす」訳語に take away を充てました。

同じ動詞の take を使うのでも

Take out なら「ある線より外へ持ち出す」動き

Take off なら「バツと瞬時に取る」動き

Take away なら「少しゆっくり遠くへ取り去る」動き

を表しますので最後の take away を充てた訳です。

「ゆっくりはがして少し距離のある処へ投げ出す感じ」になりますので。

このように英語は日本語の様に特定の決まった訳語がある訳ではなく、その場の状況に応じて意味が分かる言語です。なので、和訳する時に是一語の日本語で充てようとする事にはあまり意味がないような気がしております。

逆に申しますと事細かに一つ一つの言葉がある日本語と同じだけ英訳が有る筈だと思うものですから、矢鱈と辞書にその一語の展開例がずらずらと載る羽目になっているような気がします。

その場の状況で動詞+前置詞だけでも無尽蔵に発生するわけですから、そんなのいちいち書き留めて辞書に乘せる方が無理と言うものでしょう。

今迄に何度も申し上げましたように、英語の場合同じ語でも状況によって意味（と言うより想起イメージと言った方が妥当かと思います）が変わってきますから。

そういえば外国人が多用するジェスチャーは、自分の推測では、千変万化な状況アドリブ語である英会話時の補佐役として多用している様な気もしております。ジェスチャーは相手が間違えないように想起イメージを絞り込む役割でもあるのではないのでしょうか。

2023/2/6-2

(オマケの英語教室 abnormal climate, globalization)



処変われば品替わる。

そのせいで、訳語としては在っても其れが相手国のひとに実感として伝わらない場合があります。

例えば津波 (Tsunami)

是は大陸の内陸部に住んでいる人にはその恐ろしさがまるで伝わらないでしょう。

その為か津波の英訳は Tsunami となっております。

しかし近年全世界で共通する (同時共感する) モノが出てきたような気がします。

それは「異常気象」 abnormal climate。

異常な暑さ、異常な寒さ。寒い地方が暑くなったり、暑い地方が寒くなったり。砂漠で洪水が起きたり、湖が干上がったたり、山火事だ、北極の氷が溶けだした、等々。

最早気象に関しては

「処変われど、品同じ」

になってしまっております。

このような「global 化 globalization」はいい事ではありますまい。将に「global 禍 global scale crisis」でしょう。

2023/2/7-2

(オマケの英語教室 Translating way)



本編題名の中の「男はツライよ」

を Man is hard と訳すとなんか変な感じがします。

先ず Man が何か変です。何が変なのかと言うとよく分からないのですが、何か違う感じがします。

Hard も変です。日本語感覚で言うと「ツライ (辛い)」と言うより何となく「硬い solid(固い)」に近い感覚を抱いて仕舞うからかもしれません。

そこで今回は可成り意識を致しました。

Man を Guy に。

Hard を Heavy duty に、です。

先ず Guy は man よりもっと砕けた言い方で、しかも必ずしも「男」とは限りません。我が国でも女性に対して「この野郎」なんて言ったりする場合があります。

要するに乱暴だけどより身近な感じがする呼び方です。

Heavy duty の方は邦語にすると「重たい責務」です。漢字にして訳すると、其れこそかなり硬い感じがしますが、意識的にはこの方が「ツライ感じ」が出るような気がします。詰り今の状態がツライと言うダイレクトな謂い方より少し迂回して「何によってツライか」を用いて相手にその「ツラさ」をより実感して感じさせる方法です。

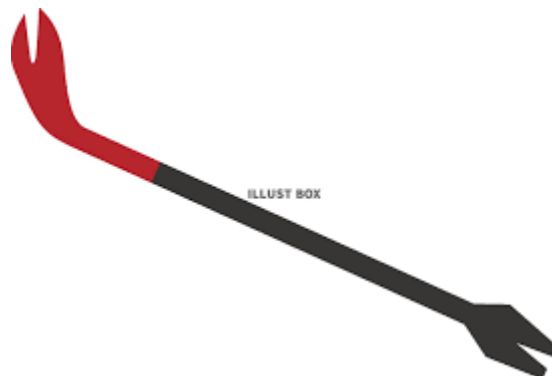
自分の場合、特に会話に於いての自分の場合、多分これは自らの癖なのだと思いますが、殆ど直訳は使いません。たいていが意識です。もっている単語の数が少ない事と、その方が訳していて面白いのでそうしております。単語の数が自分の事情。面白いと感じるのが自分の癖です。

後蛇足ですが「男はツライよ」の「よ」に当たるものに is ではなく hold を用いました。同じくその方が reality を感じる気がしたからです。Be 動詞 (静的一般抽象動詞) より一般動詞 (動的個別具体動詞) hold の方が写真で寅さんがオッサンをおんぶしている様に、

より親近感、臨場感を持って表せるように感じられたからです。

2023/2/8-2

(オマケの英語教室 lever)



本編中に出てきます leverage 梃子（テコ）作用の事です。

FX 取引などでレバレッジを利かせる、上積するなどと使われます。

要するに少ない掛け金で大儲けをしようとしてこの原理を働かせたいという希望的観測です。この語の元になっているのは言わずと知れた lever（レバー、梃子）です。

（外国人の方は、梃子の lever は「レバー」肝臓の方の liver は「リバー」と分けて発音しております。むしろ日本人が聞いたら「川」の方の river に聞こえるかもしれませんが、l と r の聞き分けムツカシイですから、我々日本人には）

上の項で既に述べてしまいましたので遅ればせながら、ですが、肝臓の方のレバーは liver と書きます。自分も良く書き間違えます。

「l」の次の「e」と「i」が異なります。「e」の方が梃子のレバーで「i」の方が肝臓のレバーです。

覚え方として梃子はシーソー同様横方向に長いので、横方向に引っ張られた感のある「e」で lever 梃子。

肝臓の方のレバーは人体の真ん中ほどに位置する処から立っている人体を想像して縦方向に伸びている文字「i」から liver を思い浮かべて肝臓とか。

処で此処まで来て意外な事に気付きました。それは

Level(レベル、等級、度合い)の語幹が lever の語幹 leve と同じことにです。

是は一体どうしたことなのか？

それでまた早速の推論推測ごっこ。

で、思ったのが

語幹 leve というものには、元々「上方向に跳ね上げる」イメージがあるのではなかろうか？と。

詰り lever なら「梃子の原理で跳ね上げる道具」になりますし level なら「どのくらい跳ねあがったかの尺度」となりそうな気がしました。

後、ドアの取っ手の方のレバーは、是も梃子の原理で取っ手を押し下げる事でドアが開く装置です。跳ね上げと押し下げで動作方向は反対ですが、力を加える事で動作発動する処は同じです。因みにドアノブの方は回転動作でドアを開ける円形状のものを指しているようです。

今日も又当たるも八卦当たらぬも八卦、冬の朝の「なぞ解き占い」で御座いました。

「占い」を使った含みは「商品が売れないのは売らないからではない。なぜ売れないかのなぞ解きを早急にしないと、そのうち潰れてまうで」と言う危機感の表れで御座います。

(一飲食店のオヤジ談)

実は他にもギアレバーだとかブレーキレバー、プルレバーなどありましたが、敢えて割愛いたしました。理由はそれらを全て包含した leve を探し出すとその事案に該当する法律用語を初めて耳にした時の様に「えっ、其れ一体何の事、指してんの？」みたいになってしまうからです。かえって混乱させてしまうからです。

因みに法律用語と言うのは如何なるケースをも包含し、当てはまるものでないとならないので、極めてミョウナ言葉になってしまっている訳です。

(その包含に当てはまらないものが少しでも出てくると「すわ、一大事」とばかりに、直ぐに「補完新法」を作らなくてはならなくなり、よく大騒ぎしている訳で御座います)

其れと同じ現象が起きるのを避けるために、此处では敢えてギア、ブレーキ、特にプルなんかのレバーの説明は割愛いたした訳で御座います。悪しからず。

2023/2/9-2

(オマケの英語教室 powerful)



本編で古代人が持っている物凄い力を英語で何と書けばいいか相当悩んで、結果的には本編記載の通り volage (ヴォルテージ、ボルテージ) を採用いたしました。理由は日本人にはそれが一番実感しやすいだろうという自分の推測によります。

先ず voltage は potential, powerful に対して濁音が入っているので力強く感じられます。

次に想起するイメージとして voltage は電圧の事なので「電気ショック」を受けた様な瞬間的な驚きのイメージもあったからです。

英語訳的には潜在能力、内在能力を表す potential の方が分り易いと思いましたが英訳文では potentials を使いました。

この voltage なり potentials を含めた状態が powerful です。

Power は馬力を表します。日本語では powerful に宛がう訳語として「力強い」の他に「馬鹿力がある」とか「馬力がある」「力持ちだ」等など英語 1 語に対して多数の邦語が存在します。反対に英語では powerful と言ってしまうとすべてが包含されます。なので、日本語の「馬鹿力がある」「馬力がある」「力持ちだ」等個別の英語訳を探す必要はありません。是を勘違いして個々の英訳を探し始めるから疲れるし、ヤになって諦める場合が多々あるように思われます。

猶、蛇足ではありますが power の後についている ful は full の短縮形で文字通り「フルな状態」を表します。詰り powerful は「力が充満している」「みなぎっている」状態。

Beautiful は「美しさにあふれている」状態の事になります。

2023/2/10-2

(オマケの英語教室 counts, numbers, numerals)



日本語で言う処の「数字」を英語で言う場合、毎回迷ってしまいます。

以前辞書で引いたら numeral(s)とあり

当店のアジア系外国人授業員と話す時は、number(s)を使い

本編の最初の文では counting（どちらかと言うと数字より「数える」と言う方が妥当紙しませんが）を使いました。

この中で外国人が一番知らなかったのが最初の numeral(s)です。ほぼ全員に「？」という顔をされてしまいました。

是は例えば中国語で最初に教わる数字の数え方で「イー、アル、サン、スー」詰り 1, 2, 3, 4 の中の「2」を「アル」と発音しているのに、日常会話では「2」をたいていの場合「リャン」と発音するのと同じ様な現象なのかもしれません。

焼餃子二つなら「チェンチャオズー、リャン」と自分の注文を聞いた中国人店員さんはコックさんに言うておりました。

（此处で言う「リャン」は餃子 2 個ではなく 2 皿（2 人前）でございます。餃子 2 個だけじゃ焼いてもらえません。焼くのになすぎで商売にならないからです）

因みに「リャン」は我が国でもおなじみの「リャン面（両面、二面二股）待ち」とかでも使われております。

で、結局英語で「数字」を何というのか？は未だによく分かりませんが取り敢えず「number(s)」が無難なところではないでしょうか？

ただ、我々日本人からすると number は「数字」というより「番号」という認識の方が上なので、ちょっと違和感を覚えますが。

であるなら、いっそのこと how much とか how many を付けた the number と言った方が的確かもしれませんね、外人と日本人合同 meeting なんかの場合には。

後、量（嵩、高）は amount、数（数量）は quantity と言っているようで御座います。

なので「今日の売上高は幾ら？」と当店の外国人従業員に尋ねる場合には

How much the sales amount number today?

The number of today`s sales amount, how much?

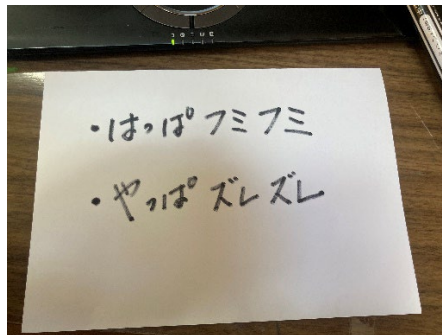
とか、ちょっと長ったらしくなっております。並び順も出たところ勝負です。
英語に知見のある方がご覧になると「こいつ、相当いい加減な奴だな」と思うでしょうね。
毎度のことながら、お粗末様で御座います。

(本編)

第17集

2023/2/11-2

(オマケの英語教室 over, under)



本編で「ズレズレ」の訳語に over, under shooter を充てました。

別に野球の上手投げ(over throw)、下手投げ(under throw)と言う投球フォームの事ではありません。

表したい意味としては「強めに投げすぎ(撃ちすぎ)、弱めに投げすぎ(撃ちすぎ)でイマイチ「的(まと)」に当たらない状態の「ズレ」を表わそうとしている」のだと。

そしてズレだけでは語呂が悪いので「ズレズレ」と二回繰り返して表記いたしました。因みにこちらのお話は邦語でのお話で御座います。

(蛇足ですが、以前自分が著した掌編小説「SKY-Z」(坂(S)の上の空気読めない(KY)ズレズレ(Z)親子の頭文字略)にも引っ掛けております)

こちらのシリーズではこういった表現実験を多数行っております。

理由はコミュニケーションを第一の目的にすると色んな表現が可能なのではないか？

英語は常套句を覚えるばかりではなく、自分なりの表現があってもイイのではないか？

語学は覚えるばかりの単純記憶作業ではなく、考え出す想像的創造行為であった方が断然面白いのではなからうか？

間違ったら間違っただ、素直に謝ることを前提に、先ずはやってみようではないか。

という考えからで御座います。

英語学の大学教授レベルになるまで英語を喋っちゃいけないと思い込んで待つだけをしていると、そうなる前に棺桶に入ってしまうから、先ずは現在、達しているレベルや知識を持いての会話から始めればいいと思っております。

なんせ、老い先短いですから、私。

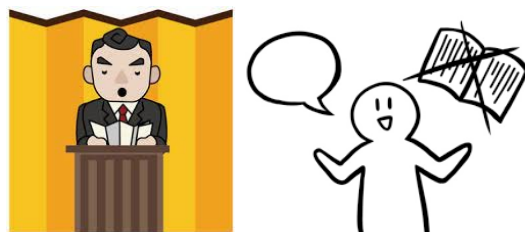
(追記)

今回は一応後で調べてみましたが over shoot pre shootの方が hit point 外しに近い表現の様です。曰く「超えすぎ」「手前過ぎ」

後は皆さまのお好みで under か pre をチョイスくださいませ。

2023/2/13-2

(オマケの英語教室 Formal vs adlib)



To get meals rather than to watch flowers.

「花より団子」を表す英訳として上記の様に書きました。

Getting meals rather than watching flowers

詰り動名詞でもいいのですが、外国人さんと話していると理由は分かりませんが冒頭で使われる場合、どうもこの To+動詞の方が、格式が高く改まった言い方(formal)様な感じなのです。

それで、今回はことわざ感を出したかったので、敢えてこの To+動詞の組み合わせの方を採用致した次第で御座います。

格式と言う話が出ましたので、今度はその反対のアドリブ(adlib)について。

以前英語は「アドリブ言語」その場限りの出たところ勝負言語みたいなものだというお話を致しました。

これに因んで思い出されるのは、自分の中学時代の英語の先生が「冗談常記帖」と言うのを作っておったことです。

冗談と言うのはアドリブ言語同様、その場、その時、そのタイミングと状況でしか成り立ち得ないその場限りのものなので、後日それが同じ効果を発揮するものとして使えるかどうかは定かではないはずです。ですからその冗談常記帖の話を聞いた時「そんなもん作ってどうすんだあ？」と思った記憶があります。

何度も申し上げますが英語はアドリブ言語です。そのアドリブ、冗談はその場限りのものなので、それが出る度にいちいち辞書に「使用例」として付け足していくのは将来に「冗談常記帖」の愚を犯しているようなものに思えてならない次第で御座います。きつい言い方では御座いますが。

(注)

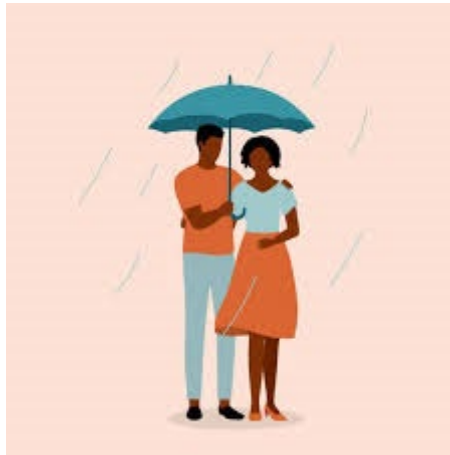
何故か変な段落が付いてしまいます。直し方が分からないので、ヘンな形の儘上梓する事をお許しくださいませ。ワードはかれこれ 30 年近く使っておりますが、相変わらずよく分からないアプリで御座います。

(注)

何故か変な段落が付いてしまいます。直し方が分からないので、ヘンな形の儘上梓する事をお許くださいませ。ワードはかれこれ 30 年近く使っておりますが、相変わらずよく分からないアプリで御座います。(下書きをこちらにコピーしたらまともに戻っています。増々分からないアプリで御座います)

2023/2/14-2(Valentin day)

(オマケの英語教室 "AI" also)



Artificial Intelligence 人工知能の AI と邦語「愛」のアルファベット表記 AI が同じ「AI」であることに突然気付きました。

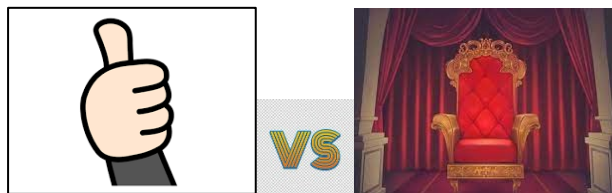
是は「正解(hope)」なのか「皮肉(irony)」なのか？

でも「AI」を「相合傘(AIAI-gasa=lovers under 1 umbrella)」の相合の意味の「AI」に置きなおしますと、これはある意味「交流=communication いたわり、思いやり、人の痛みを我が身の事として「も」感じるの「も」 concern also」とも捉えられますので、そちらの方を「より現実な解(real and actual solution)」として今後に期待したいと思いました。しかし、本気で我々自身がそう変えていかないと、いくらお題目で「sustainable」だの「SGDs」だの騒いでも其れは結局お金儲け（株価上昇）のご都合主義的な手段でしかなく、最後には本当に「今後の地球(our planet)」はなくなってしまう様な気が致します。

Let`s open our eyes by ourselves own.

2023/2/15-2

(オマケの英語教室 correct vs orthodoxy)



本編題名の「正しい八つ当たり」は 2 つの意味に取られる可能性がある事に気付きました。第一は「言っていること自体は正しいのだが、言うべき先或いは言うべき場、タイミング、動機が違っている」と言うニュアンスの意味と

第二として「八つ当たりの仕方が古典的で正統派チックだ」と言う意味の二つです。

前者の場合は correct が妥当で、後者の場合は orthodoxy が妥当だと思われます。

前者では correct の他に right も使えそうですが、何となく rights 権利的に正しいみたいな感じがしたので correct を選びました。

次の後者では orthodox ではなく orthodoxy を宛がいましたが、その理由は orthodox だと「正統な」になりますが邦語の意味としては「正統派チックな」の方が妥当かと思われましたので y を付けて orthodoxy をチョイスいたしました。

しかし自分が云いたい意味は第一の方だったので英語版の題名では correct を採用致しました。

猶オーソドックス(orthodox)をオーソリティ(authority)からの連想で始め authodox と打ち込みました処何度やっても下に、間違いを示す赤波線が付きましてので辞書を引いてみました処、なんと au ではなく or で始まる orthodox が正解だと分りました。

是は大変意外なスペリングで御座いました。

何故なら自分の連想では"au"thodox (正統)な rights (権利)が authority (権威)だと勝手に思いなしていたからで御座います。

意固地にならず時には素直に辞書のお世話になることは大変重要な事だと思い知らされました。

以降、case by case の両刀遣いで参りましょう。

でも、辞書を引く前に先ずは自分の頭を使って思いを巡らす事の重要性に変わりは御座いません。其れで分からなければその後、素直に辞書のお世話になるという意味で御座います。

2023/2/16-2

(オマケの英語教室 decoration)



退職後、英語を学ぶ上での転機になった事柄がありました。

それは

Decoration cake after wedding

と言うフレーズをふと思いつき、外国人さん方に使ってみた時に得た反応がきっかけでした。

このフレーズを使ったきっかけは「仕事の納期の重要さ」語り「タイミングの重要さ」を実感してもらうためでした。

その時自分は単に「タイミングを逸したらそれは完全に無意味(no meaning)になるよ」と言いたかっただけなのですが、外国人さんたちは、

ある人は同じく「無意味(no meaning)」と採り

ある人は「miss the timing(時機を逃した)」と採り

また別の人は「irony(皮肉、イヤミ、当てつけ)」と採り

ある人はそれを総括して「時機を間違えると同じものでも全く逆の意味にナル」「是非とも必要だったものがタイミング次第で完全なお邪魔虫になってしまう」など、実に様々な解釈がなされたのです。

是を単に no meaning という言葉だけ使っていたのではこのような事は起こらなかったでしょう。

それ以降自分は just な言葉を見つけるより、取り方次第でいかようにも発展できるものを探し出そうとするようになりました。その発見と同時に英語を学ぶやり方が「覚える（暗記する）事」から「考え出す（思いつく）事」に代わりました。

「序書を使わない考える英語教室」の由来はそんな体験があったからでした。

(注)

正確には decoration cake ではなく wedding cake なんだろうけど、自分がその時、先ず真っ先に思いついたのはより汎用性の高い言い方の decoration cake という言葉の方でした。

2023/2/17-2

(オマケの英語教室 decoration (2))



飾り、或いは虚飾を臭わせる飾りつけの事を何で decoration, decorative, decora というのかを又ちょっと考えてみました。

手始めは例によって単語因数分解からです。

Decoration を単語因数分解いたしますと de + corate (tion)となります。

De は dis とほぼ同じでしょうから not、詰り否定の意味を表していそうです。

となれば corate (coration)ではないもの、となりそうです。

しかし corate (coration)で一体何の事？にぶち当たります。

そこでまた再度の単語因数分解を試みてみます。

その結果 core + ate となりました。

Core は皆さんよくご存じのコア、核を意味しております。

となれば de + core + ate(ation)となり、最後の ate (ation)をいったん外して考えますと

De + core は「コア (核) ではないもの」「コア (核) にはならないもの」「コア (核) とは言えないもの」となりそうです。そこから「メインや本質、核とはなり得ないもの」が decora の意味なのではないのかな？と。

それもあって前回と今回の本編題名に無意識ながら「御大層」の当て語として「見せかけ、膨らまし」を暗喩する decoration, decorative を充てたような気がしてまいりました。

無論これは自分なりの解釈であり、又結果論でもあります。

2023/2/18-2

(オマケの英語教室 candy popularity)



「カルピスは甘酸っぱい初恋の味」

とか

「お花畑思考」

とか外人さんに言っても全く通用しませんでした。

First love is sweet and sour, what?

A concept of imaging flower garden, what`s the matter?

と言うような感じです。

前者なら恥じらいとか奥ゆかしさなどどこへやら、で、もっと肉体的具体的な excited ドキドキの、みたいな受け取り方でしたし

後者 flower garden と言えば我々が想像する様な夢見がちなものではなく、むしろ育成して育てる、耕す、守るみたいな農作業イメージの方が強いみたいな感じでした。

要するにかなり現実的だと。

そこで今回本編で邦語「人気取り」の英訳をどうするかで些か考えあぐねましたが、最後は

人気を表す popularity だけじゃ何となく弱い気がして敢えて「甘さの象徴」である candy を大した考えもなく思い付きで名詞としてではなく、心の中で勝手に形容詞代わりにして Getting (sweet) candy popularity

を充ててみました処、なんと下に赤波線（用語、用法間違いを示す印）が付きませんでした。

外国人さんて、極めて実利的且つ現実的でカチッとしていながらも、事使用している英語に関してはやっぱり邦語に比べて可成りふわふわフレキシブルなアドリブ色の強いイメージ言語みたいです。

（我が国はその反対で国民の態度は曖昧模糊としているのですが、事日本語に関しては隅から隅まで事細かくキチンとしている印象です。なので、外国人さんは来る前と来た後で、聞くと見るとで、大違いにぶっ魂消て面食らってしまうみたいです「オーマイガッ、どうなっているの？(OMG!! What happen?)」)

又 candy の前に sweet (甘い、甘怠い) を付けたのは酸っぱいキャンディーとかはっか味でスースーするキャンディーとかもあるからです。そっちの方を思い浮かべられますと、

話の流れが変わってしまいますので、日本人には蛇足だとは思いましたが海外読者の事を念頭に置いて敢えて sweet を前に付加した次第で御座います。

2023/2/20-2

(オマケの英語教室 relevant)



今日も又本編中に出てきます単語の話ですが、本日は relevant です。

是は大抵「関連の」とか「関連する」「関連性のある」等と訳されます。

一方この relevant に語幹が近い単語を思い浮かべてみますと relatives 親戚、親類縁者とか relief リリーフ（救援）とかが出てきました。

こうして一覧してみますとこれらの語に共通するコアイメージは「繋がり」でありそうです。

Relevant の「連」 relatives の「縁」 relief の野球で言えば「繋ぎ（の投手）」等からです。

しかし最後の relief(pitcher)の場合、我々はこのような言い方をよく耳にします。

曰く

「火消し役」「抑え」「抑えの切り札」

是と

「中継ぎ」「継投」とは甚だしい違いがありそうです。

何かと申せば前者には「効果」「期待」「願望」が注ぎ込まれ受ける側にしてみれば恐ろしい程のプレッシャーを感じさせる言い方になっております。

一方後者は単に「繋である」という「客観的状态説明」にとどまっており、余りその様なプレッシャーを感じさせません。

前者が邦語訳の傾向。

後者が元々の英語の原義。

こうしてみると我が国の語法遣いは何故か物凄くセンセーショナルで、受ける側にしてみればプレッシャーばかりが積みあがる言い方になっておるようです。

この辺は自分が中継ぎピッチャーになった気持ちで考えてみますと「改めて欲しいなあ」と感じる傾向でもあります。

ある意味我が国のオリンピック選手を潰してしまうのは我が国メディアの度を越して微に入り際に渡った「レポート（密着取材）」と我が国国民自身の過度の「声援」なのかもしれ

れません。

事前で思いっきり褒め捲って盛り上がり、結果が悪いと手のひらを返した様に叩きまくる。
是では選手ご本人はたまりますまい。

それでいつも思い出すのはマラソンの「円谷幸吉」さんです。

彼は自分が中学生の頃に、1964 年の東京五輪の様な華々しい成果を思う様に出せず、期待に
応えられない事を苦にして自殺してしまったのです。今でもその当時の記事に出た辛
(つら) そうな顔で走る彼の写真をハッキリと覚えております。

自衛隊の上官からの「何が何でも」があったのかもしれない。

要するに我が国は外野が五月蠅すぎる気が致します。

当事者をそっとして待っていてあげるのも人が秘めたる、人が持つ、大きな度量（やさし
さ）とは言えないでしょうか。

2023/2/21-2

(オマケの英語教室 ghost)



Ghost という言葉を聞くと思い出す事が幾つもあります。

子供の頃、お金を握りしめて一人で床屋に散髪に行くと、いつも自分の番迄可成り待たされました。

その待ち時間の間に必ず見ていたのが、後になって分かったのですが水木しげるの妖怪物のマンガでした。

そのマンガは当時全然有名ではなくマンガ本も厚手のゴワゴワした安手のザラ紙で、結構場末臭が漂う怪しげな代物でした。

しかも同じ白黒でも鉄腕アトムやエイトマンの TV 画像の明るさに慣れた目にはタッチ（紙面の世界）が物凄く暗い（この知らない作者が片腕しかない事を当時知っていたらもっと怖く感じたかもしれません。当時のマンガ本には著者近影なんてシャレタものは載っていませんでしたから、想像が想像を呼んで著者の姿が飛んでもない妖怪姿に変容していた事でしょう）

「こんなの描く人いるんだ。こんなので飯食えるのかな？何でこんな暗いの、描くんだろう？どんな生活してるんだろう？夜中に、迷い込んだ人なんかこっそり食ったりしてんのかな？」

と恐ろしい疑問で一杯になりました。

行った先の床屋さんは明るく清潔で、いい匂いがするのに何故かどんよりとして湿気に満たされた真っ暗な洞窟の中にでも押し込められた様な気になりました。

散髪後スッキリした筈なのに表に出てもその「どんより感」が後をついてきました。

次の ghost は社会人になった先の会社で ghost canceller という商品開発に因む思い出です。因みにテレビ受像機におけるゴーストとは電波の受信状態が悪く受信映像に影（ズレ）が出来る状態を指します。要するに映像が多重にダブって見える現象。

それをゴーストと言い、そのノイズ（ゴースト部分）を打ち消す機械がそれをキャンセルするキャンセラーと言う訳です。

先輩からは

「お前余計な事ばっか考えてっから頭の中のノイズ、コイツで少しキャンセルしてもらえ

ば？」

とよく言われました。

他にも映画の「ゴースト」とか「ゴーストバスターズ」の中に出てきた「マショマロマン」その他「オバ Q」とか、ピー子ちゃん、アメリカオバケのドロンパとか、いろいろ思い出は有るのですが長くなるので思い出話は此处迄。

処で ghost を幽霊、オバケ、妖怪、いずれで訳すかによってかなり印象が変わってきます。又洋の東西で ghost から想起されるイメージも違っている様です。

西洋の「オバケ」は何となくお茶目で明るい。我が国の「幽霊」は暗くて怖い。「妖怪」は不気味。

冒頭、子供の頃に漫画単行本で見た水木しげるのマンガは妖怪物と言いつつ、幽霊より遥かに不気味で恐ろしく、一度見ると頭にこびりついて離れませんでした。

怖ければ見るのを止めればいいのですが、釘付けになってそれもできませんでした。

結局、床屋に行って頭の外側はサッパリするのですが頭の内側はいつもどんよりと重たくなって帰って参りました。

「おつり、お母さんに渡して頂戴」

「あ、貰うの、忘れた」

「またあ？何回忘れたら気が済むのよ。ホント、いつもボーッとしてんだから、この子は」
「ごめん」

「お父様、本気で心配してらっしゃったわよ、下の二人は心配いらんが、長男だけあんなでこの先どうすんだ？って。あいつもこの家も、って」

「床屋の漫画本の紙面が余りに暗すぎて行く度にその暗さに肝っ玉抜かれて毎回おつり貰うの、忘れる」という自分にとっては極めて尤も至極な理由を流石に父母には言えませんでした。

多少は KY 空気「読めた」みたいです。

2023/2/22-2

(オマケの英語教室 Mom(Mam))



英語でお母さんは Mother か Mom(Mam)、Mommy(Mammy)の三つ以外、耳にした覚えがありません。

処が我が国では

お侍さんは「母上」「母君」「母者」

いい処のボンボンはお母様」「お母さん」

下町っちは「母ちゃん」「おかあ」

関西弁では「おかん」

そして呼び手が成長すると「おふくろ（お袋）」

本人を呼ぶのではなく他人に説明する等々ときには「母」

等々など相当数の呼び方があります。

数の数え方も

英語なら one, two, three だけですが我が国では対象物によって呼び方が全部変わります。

本は1冊、船は1艘、車は1台、大根は1本、人は1人（ひとり）。

外国の方が日本語を学ぶ場合、先ずこの2事象だけでも魂消てしまいます。

或いは途方に暮れてしまいます。

「日本に来たんだから日本語覚えなさいよ。当然でしょ」

とはよく聞くのですが、相手の身になってみると、そう簡単でもなさそうな。

逆に申せば邦人が英語を学ぶ上ではその分楽になっている筈なのに、何故「英語はムツカシイ」と感じてしまうのか？

その辺を紐解いてみる必要があるような気が致します。

多分難しい方向へ歩くと「知らない間にアカデミズムに染まり増々難しく仕立ててしまう」のでその方向に歩かず、踵を返して真逆の「英語は簡単な筈だから何か勘違いしているんじゃないか？」の方向に歩いた方が、英語が飲み込み易い気がするんですが、どうなのでしょうね？

(注)

写真は本題とは全く関係ありません。単に Mom (Mam) と Country Maam の maam の発音が似ているというだけの理由で御座います。

何事も先ずは大雑把に考えてはいかがでしょう。そして初めは「なんのこっちゃようわからん」ものでも、その「ようわからん何事」にも何かしらの使い道があるような気がしております。

総じて、大体このくらいでよろしいのではないのでしょうか。

英語がバッチリにならなきゃ留学できないって、其れじゃあ、何の為に留学するか分かりませんか？出来ないから留学するんですから、行くまでできなくて当たり前なんじゃないのでしょうか？先ずは行って見る事です。勿論留学費用があれば、の話ですが。

無ければ国内の外国人さんと話せばスッゴク安上がりになりますし。

但しそれ目的だけで外国人さんとお友達になるのは御法度で御座いましょう。

相手に大変失礼ですし、話も弾みませんから。

2023/2/25-2

(オマケの英語教室 Suddenly came out, unexpected discovery. So, so long, long, far, far way)



英文訳をされていて、ハタと困ってしまいました。

困った理由は「関西弁とか九州弁の雰囲気はどうやって訳せばいいのか？」でした。

自分は時と場所、シーンに応じてこれらの方言を切り替えながら多用しております。

邦人にはそれらの方言が醸し出す違いが特に説明もいらずに分かって戴けていたようなので、その運用に当たって、受け側が理解しているかどうか等は殆ど気にもしておりませんでした。外国人さんにはそれ、語り面白みだとかお可笑しみ等今迄自分が書くに当たって可成りの比重を置いてきた工夫や気合がまるで伝わっていない事に、英訳してみて突如気付き、愕然としてしまいました。

「OMG!! なんてこった。さて、この違いをどう表現（訳）すればいいのか？」

と、その前に又々ある事に気付きました。

それは

「そういえば邦語には男言葉と女言葉がある。外国語に男性名詞と女性名詞があるのとは全く違う。外国の言語のそれは、その名詞自体が男性（名詞）なのか女性（名詞）なのかを単に区別しているだけなのに対して、邦語のそれは話し方そのものがまるで違っている。こんな言語は滅多にない」

「他にもお上と一般ピーポー、爺さん婆さんとお子チャマとで話し方が違う場合もある。なので、逆に邦語は話し方を書けばいちいち付加的に説明しなくても凡その性別年代が分る。外国語はそれでは全く分からず、書き言葉なら話者に関して補足説明が必要になるし、そんな説明がいちいち施されない話し言葉でなら話の中身で聞き分けるしかない」

何と言う事でしょう。

ここで痛切にわかったのは

「英訳は単に正しく直訳しさえすればいいと言ったような代物ではない」

事でした。

翻訳上、結構大きな問題にあたってしまったような気が致しました。個人的には。

当然現時点、全く「解」の手掛かりは御座いません。

此処からは推測になりますが、我々日本人は無意識にその違いに迄思い当たり、却ってそれが一本に絞られている英語に戸惑って話せなくなっている側面もあるような気がして参りました。簡約すれば多→1とは思わず、無意識に邦語の多→相対する外国語の中の多、しかし現実には「ありもしない、外国語の中の多」を求めてさまよっている様な。

しかし日本語の持つ面白さを外国の人に分ってもらうためには、逆に「そのありもしない多」をなんとか見つけなくてはならない、という事でもありそうだ。

今迄、英語学習に於いては難しい方向、アカデミズムには進まず、却って簡単な方に踵を返した方が得るものが大きい、と言う論調であった自分が、まるで逆の結論を得るとは。

我ながら、実に意外な発見でした。

英語がかなり理解できる様になったと「いい気になっていた自分」は、突如激しい恥ずかしさに襲われました。

2023/2/25-4

(オマケの英語教室 returned drunker)



それは自分が中学生の頃のある最年末時期の事でした。

突如

♪おらは死んじまったダァ。オらは死んじまっただァ。天国に行ったダァ。天国良いとこ一度はおいで。酒は旨いし、ねえちゃんはきれいだ。んわぁ～んわぁ～んわっわぁ～♪
と言う曲が流れたのです。

題名は「帰ってきたヨッパライ」歌うはフォーククルセダーズ、北山修、加藤和彦、はしだのりひこの学生トリオ。

いやー魂消ました。

その頃みんなが盛んに話していたビートルズを聴いた時よりも、それ以前の世代がよく聞いていたプレスリーを聴いた時よりも、日頃慣れ親しんでいたアニメソング、例えばエイ十マンとか魔法使いサリーを聴いた時よりも遥かに衝撃的でした。

「な、な、なんだ、この歌、おもしれえ～」

で更に、この三人が、北山修医大生、加藤和彦どこだかの有名私大生、はしだのりひこ同志社大だか竜谷大だかの大学生。要するにスッゴク頭のいい大学の学生さんだった。

「頭いいのに、ほっぽり出して、こんなことしちゃうんだァ」

で、先ず此処でこの歌と「てなもんや三度笠」「番頭はんと丁稚どん」クレージーキャッツの「シャボン玉ホリデー」が混然一体となって合体しました。

で、次の衝撃がビートたけし

「赤信号、みんなで渡れば怖くない」

「ひえ～、こんなの初めて聞いた。こんなこと言っちゃってもいいんだァ。ホントの事いっちゃっても」

此処で上述の混然一体が確信に変わりました。

「よし、お笑いで行こう。是は今後相当に強い武器になる」

なにへの武器かと申しますと、当時夢見ていた「シルクロード探検隊に参加して考古学者になる」とか「ブラジルに移民して開拓団に加わる」とか「小説家になってスゴイ作品を書く」とか、いずれの場合においても核心的役割を果たす、どんな場合にでも使えるスーパー持ち駒、であろう直感がひらめいたのです。

自分は更に大学生になって我が国の「古典落語全集」でそれを今一度万全なものとするべく強化補強に励みました。

そんな事で忙しかったものですから就活なんぞはほったらかし。

見かねた親が何とか口を探して来て一応採用されるまでには至ったのですが、その後その会社では上述の権を後ろ盾にして言いたい放題。

で、事が起って大目玉を食らっても頭の中では

「がちょ〜ん。お呼びでない、お呼びでない。こりゃまた失礼いたしやしたあ。ハレホレ、ヒレハレ」

なんぞの文句が頭の中で鳴っているものですから、怒られはするものの実態上は「へのカッパ」

しかし going my way の割には仕事が出来ちゃったものですから、いつの間にか出世欲に取りつかれ、本来の自分とは全然違う方に足を踏み外した結果、全く合わない仮初めの姿に身をやつしていたものですから、いつの間にかうつ病になって左遷、転籍、リストラ、降格、離婚と言う流れになってしまいました。

それにしても親がお堅い仕事でおっかないと子供はどうしても「お笑い」方面の思考に流れる傾向があるようです。

クレージーキャッツの植木等の実家は「お寺」

ビートたけしの実家は「大工職人」

うちのオヤジが「元海軍軍人」

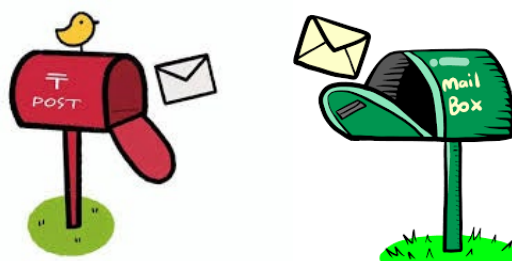
兎に角みな、頑固でおっかない。

皆、地震、雷、火事、親父の「親父」項に名を連ねている。

何かそんな気が致しております。

2023/2/25-6

(オマケの英語教室 poster)



Poster と言うのは今では大きくて当たり前、表にデカデカと貼り出してあって当たり前ですが、昔はもっと小さくてこじんまりしたものだったんじゃないでしょうかね。

と申しますのも、poster の語幹 post は言わずと知れた郵便（ポスト）で、動詞化すると「投げ入れる」「投げ込む」現代ではネットに「投稿（記事原稿をネットへ投げ入れ）する事」「広告チラシの住宅ポスト投げ入れ」もそう申しております。名詞は posting です。詰り元のイメージが郵便ポストに入るくらいのサイズのものだったのではなかろうかと言う見立てで御座います。

郵便ポストに投げ入れる（サイズの）ものを、er を付けて poster と言いだめた。

それがいつの間にか転じて「目に留まるもの」「目につきやすいもの」に变じ、サイズも其れ相応になっていった。いつ何時、何の理由でそうなったのかは存じませんが。

コレマタひょっとしたら、家の外で一番目につきやすいポストに大書した何かを貼り付け、貼り出したのが事の始まり、ポスターの由来なのかもしれません。と言うのも商品名で post it（3M 社製）、詰り「チョイ貼り付け紙」というものもあるからです。

或いは街ゆく人々の「視線を posting（投げ入れさせるもの＝目に留まらせるもの＝make passersby`s eye throwing into for their attention catching）」と言う意味なのかもしれません。

いずれにせよ以上は偏に、小生の勝手な推論で御座います。

(注)

因みに「君にそのポストを用意してあるから」

と言う場合の地位の意味のポストは position の事ではないでしょうかね。

Position から後半の-ition を簡略化して t にし、前の pos にくっつけた pos+t の post（ポスト）ではなかろうかと。

あと外国では郵便ポストの事は post とは言わずに mail box と言うのが一般的です。

（だとすると poster の名の由来はこの記事に掲げた推論の最後の推論、即ち「通行人の芽

を止まらせるもの」という推論が一番妥当なような気も致します)

要するに正解かどうかはもちろん大切ですが、こうやってああでもない、こうでもない
あれこれ考えを巡らせ、突き当たったり跳ね返されたりしながら徐々に進めていく推理ご
っこの楽しさ、面白さも知って戴きたい気がして、毎回ろくでもない記事を書いておるわ
けで御座います。

その辺のご理解、よろしくお願い申し上げます。

結果としてこのような形で単語に印象付けや感想を持つことが、その単語や関連単語を一
括して暗記するのにいい方法の様な気もしております。

2023/2/26-2

(オマケの英語教室 It`s a limit!! Now)



(Give up now) (very Sorry)

単に直訳するだけでなく、外国の方にその単語なり、なぜそれが此处で使われるかの背景を理解して戴こうとすると、言い換えれば我々邦人が説明なしにフツーに理解共有している部分を敢えて説明しないと分らない場合に遭遇すると、どうしても和英混交文トータル文字数 1200 文字、原稿用紙 3 枚以内と言う制限を守るには、現時点の自分の力量では無理であることが分かりました。

だからと言って本来の趣旨「成る丈分かり易く且つ短く」をそう簡単にあきらめるつもりもないので、此处は中を取って「止む無く」最大 1600 文字以内、原稿用紙 4 以内と再設定することに致しました。

(都度何回も再設定アナウンス申し上げるのも、告げられる側の皆様方にとってはご迷惑この上ないでしょうから、此处は最大外枠、対外部アナウンス上は上記設定と致しましたが、内規実行目標は 1400 文字、原稿用紙 3 枚半以内に置いております)

但しシリーズタイトルは「矢張り理想は 1200 文字以内、原稿用紙 3 枚以内」をそう簡単におろすつもりも御座いませんので、敢えて変えないことに致しました。

ご理解の程、宜しくお願い申し上げます。

お恥ずかしい限りで御座います (大汗)

以上はこのコーナーの話ではなく本編の制約の話で御座います。蛇足ながら。

猶、今回本編、本文の文字数は内規 1400 文字以下、将に内規規定限界ギリチョン一步手前の 1399 文字でございました。たまたま (但し日付、タイトル、フォト説明を除き、且つ評価法は Microsoft WORD, IME 文字数カウント方式ベース)

2023/2/27-2

(オマケの英語教室 Shall I do? Shall we dance? Shall)



何故

「私がしましょうか？」の Will I do?

「一緒に踊りましょうか？」の Will we dance?

を夫々

Shall I do?

Shall we dance?

と言うのか？

是に付きましては役所広司主演の同題名映画「Shall we dance? (シャルウィーダンス?)」を目にした折、ハタと考えこんでしまった記憶があります。

で、その時に出した自分なりの答えは

「Will I, Will we だと発音しにくいから Shall に置き換えた」

でした。

「でも発音上の問題なら他にも Dall we でも Gall we でもいい筈なのに何で Shall が選ばれたのか？」

が次の疑問でした。

それについてはこう考える事に致しました。

曰く

「Sir and Madam, will I do?の冒頭の部分 Sir(サー) and Madam が略されており、その筆頭文字 S+Will の合成(サー+ウィル)が訛って(音便化して) Shall (シャル) という合成語になったのではなかろうか？」

と。

因みに上述の「役所広司」は何で芸名を役所広司なのかと申せば、漏れ伝え聞く処による

と以前勤めていたのが役所だったからなのだそうです。

この伝で行けば自分は「会社一貴」なのかもしれません。但し悲しい哉、役所広司さんと違って全然様にも何にもなっておらず、馬鹿みたいなペンネームにしかありませんが。

今日も今日とて、是又お粗末の巻、で御座いました。♪チャンチャン♪

2023/2/28-2

(オマケの英語教室 Vacation)



Vacation、言わずと知れた「休暇」の事です。通常の休暇と違うのは「長期」だったり「転地、遠隔」だとかする事でしょう。

自分が子供の頃、パンチの効いた歌声で弘田三枝子が

「ヴィー、エイ、シー、エイ、ティアイオ、エヌ。楽しいなあ」

と歌ったことで一躍有名になった英単語です（発売当時この曲は多分 EP だか SP 版だかの裏面扱いの曲だった様な。虚（うろ）おぼえですが。）

処が今朝意外な発見をしました。

Vacation てえ、形容詞 vacant「空っぽの、空っぽな」からの派生名詞みたいだなあと。

「空っぽの」を表す英単語ではむしろガソリン残量インジケーターに出る emptyの方が有名ですが、こちらの vacant も同じように「空っぽ」を意味します。

但し empty が 3D 空間上の話に限られる場合が多いのに対して vacantの方は同じ空間表現でも心理的、精神的要素を含んだ上での「空白」や「虚しさ」「虚ろさ」を表す事が多いようです。もちろん単に心理的、精神的な意味合いを表す場合にも使われておるようです。では何故その vacant が元になって vacation「休暇」という派生形名詞の英単語が出来たのか？

自分が思いますのに

「日頃の苦労や、頭の中でグルグル回っている物、心の中に重たく淀んでいるようなものを、休暇を取ることで空っぽにして来なさいよ」

と言う意味合いが込められているのではなかろうかと思いました。

何故このような発想が浮かんだかと申しますと、今の自分がそれを強く欲している事と無縁ではない様な気が致しております。

猶、蛇足ですがヴァカンスという謂い方はどうやらフランス語由来の様です。英語では矢張り vacation が休暇を表す単語となって御座います。

因みに上記で出ました「虚（うろ）覚え」は意味的には (with) vacant memory でもいいような気も致します。私見ですが。

2023/3/1-2

(オマケの英語教室 currency is vacancy)



Currency は普通「通貨」と訳されます。

因みに名詞 currency の形容詞形は current です。車やテレビなど家電商品の現行機種のことを業界用語で current model などと言っておりました。

詰り current は「現行の」「その時の」「現時点通用する」等と訳されます。

なので「その時点で通用する貨幣」を短くして「通貨」と訳している訳です。

一方昨日の記事で vacation「休暇」は vacant「空っぽの」「空しい（虚しい）」の名詞形である事をご説明申し上げました。其処では「疲れた頭も心も体も空っぽにしにいく」事から休暇に vacant の名詞形 vacation が充てられたのではなかろうかと推論いたしました。

そこで今日はその二つ、詰り形容詞形 current と vacant 二つの名詞形を組み合わせた文章を作ってみました。と言うか偶然ポロリと頭の中に浮かびました。

曰く

Currency is vacancy「通貨は空蟬（うつせみ）」

何かとても意味深な気が致しました。

(追記)

因みに外国為替相場（取引）(Foreign (currency)Exchange market(deal)はゼロサムゲーム (0 sum game)です。どこかの国の通貨が上がればどこかの国の通貨が応分下がってトータルではプラマイイコール総和はゼロなので。

それを称して上述 currency is vacancy と思いついたような気も致しております・

2023/3/2-2

(オマケの英語教室 such is life, is)



This is life.

というと昔の青春もの「これが青春だ!!」みたいな感じで「これが人生だ!!」になってしまいます。

今少しシニカルな雰囲気を漂わせたければ

Such is life.

「人生なんてそんなもんよ」

が妥当でしょう。

当然ながら自分の場合、後者しか使った試しがありません。特に最近幾多の「不都合な真実」に直面し「マイ・ブーム」にすらなっているやの感、是在りっていう感じで御座います。

未だ煩惱狂い冷めやらぬ爺である自分。

お恥ずかしい限りで御座います。

(本編)

第18集

2023/3/3-2

(オマケの英語教室 scat)



以前の記事でも少し書きましたが。

Scat と言って何と言っても最初に思い出すのは日テレ深夜番組だった11PM でしょう。

その頃は未だスカットという謂い方を知らなかったので番組冒頭と終わりソングのスカットの事を「シュビドゥバ」と勝手に呼んでおりました。

その「シュビドゥバ」がスカットであることを知ったのは由紀さおりが歌ってヒットした「夜明けのスカット」が世に出てからでした。

しかしこのスカット。何と言っても是で胃の一番に思い出すのは11PM 本邦初初演の大橋巨泉がやったパイロット万年筆のコマーシャルです。

曰く

♪キャプりきの、蓋にし取れば、出でチョびれ。唯書きスラの、はっぱフミフミ♪わかるねえ？

と言って大橋巨泉がブスッと吹き出し「ウッシッシ」と笑った後、口を結び、笑いをこらえながら「はっぱフミフミ」と言い終わったパイロット万年筆にキャップをかぶせて、それを画面中央に突き出して終わるコマーシャル。

「な、な、なんじゃこりゃ!! めちゃんこ、オモロイやねえけ」

そして

「こんなで飯が食えたら、こんな♪show ほど素敵な商売はない♪」

とさっそくダジャレってみました。

それ以降自分は人知れず俳句と和歌、川柳、狂歌に多大な興味を持ち始めました。

兎に角自分はテレビからの影響をモロに受けるタイプのガキンチョだったようです。

2023/3/4-2

(オマケの英語教 song, melody)



本編に出て参りますイタリアの *canzone*、あとフランスの *chanson* はいずれも我が国で言う処の演歌の色彩が濃いのだそうです。

自分が学生時代によく聴いたのはお笑い系とシャンソンばかりでビートルズもプレスリーも我が国の和製ポップスも殆ど何も聴きませんでした。

お笑い系では言わずと知れたクレージーキャッツ、今ネットでどこを探しても出て来ないのですが「水鏡」と言う名のアルバムと「尾崎んちのババアは 72」を歌っていたバンドの一連の曲を聴いて大笑いし、あとシャンソンはオヤジが好きだったので家にレコードがたくさんあり高校時代から繰り返し聴いておりました。

シャンソンではリズム、テンポと盛り上がり感のいいエディット・ピアフが好きでした。

歌の内容は全然わからないのですがメロディを聴いているだけでなんかとても落ち着けました。

和製ポップスはほとんど聴かなかったと申し上げましたが、其れでも聴いたのはキャンディーズとピンクレディー。特に「ジョニーへの伝言」とか「五番街のマリー」等を含めた作詞家阿久悠の作詞能力には目を見張りました。

後自分の青春時代にはフォークソングが大変流行っていたのですが、自分が聴いたのは中学生時代の、どちらかと言うとお笑い系フォーククルセダーズの「帰ってきたヨッパライ」位で、後のプロテストソングっぽいものはあまり聴きませんでした。

理由は余り笑えないのとノリが悪いからでした。

なので、ビートルズでかろうじて聴いたのはノリのいい「イエローサブマリン」位、だったでしょうかね。

プロテストソングっぽいフォークはあまり聴かなかったと申し上げましたが、それに反して実は自分、八（ハチ）の八機（第八機動隊）のゴッツイ隊員さんに体ごと抱えあげられて、すんでの処で現行犯逮捕されかかった経験が御座います。一緒にいた他の学生さん達が力づくで、引き戻して呉れたおかげで、難を逃れましたが。

そんな経験を致しもしましたが、それでも矢張り、ノリの悪い、笑いに乏しい歌は聴く気

にはなれませんでした。

2023/3/5-2

(オマケの英語教室 collapse, on Live)



「滅亡」ってネットで外国人が使う場合、大抵は collapse とか ruin を使っておりますが、念のため同じくネットで邦人作成の辞書を引いてみた処 extinction なんていう一度も見た事のない単語が出て参りました。

しかし、今迄の経験上、こういったケースはずいぶんと御座いました。

兎に角「えっ？ナニコレ？」と言うのが出てくるのです。

これは恐らく、余りに厳密に日本語を英語に当て嵌めすぎて、当の native English speaker さえお初にお目にかかる様なものを掲載しているのではなかろうかという気が致しております。

辞書は確かに必要で、大変ありがたいものではありませんが、余りに辞書を鵜呑みにし過ぎるのもどうなのかな？と言うのが現時点での、自分の率直な感想で御座います。

(補足) Extinction てえ、ひょっとしたら消火器 extinguisher の「消し飛ばす」イメージの抽象語なのかもしれません。

因みに collapse は建物が崩れ落ちるイメージで ruin は荒れ果てた廃墟のイメージです。

やっぱり何となく native は概念説明的な抽象語より現場(Live)感覚、実況中継的、五感的、映像想起的な具体語を選ぶ傾向があるようです。

其れは恐らく英語が概念優先の言語ではなく、伝達に core image (映像をはじめとする五感感覚) でもって相手と共有し、それをコミュニケーション媒介手段として使う言語だからなのではないでしょうか。

なので、概念優先の日本的発想で英語に挑むと必ず「訳の分からない袋小路」に陥るのも当然と言えば当然なのかもしれません。

だって、鼻から優先しているもの、価値あると思っているものが全然違っているんですから。

紐を結ぶ足を間違えた二人三脚同様、掛け違いスタートしているようなもんですから、スタートして直ぐにでんぐり返ってスッ転ぶのも当然でしょう。

2023/3/6-2

(オマケの英語教室 extinguisher)



「中学迄の英語しか知らないと仰っている割には、何故 extinguisher（消火器）等いう難しい英単語を知ってらっしゃるんですか？知らないと言うのはガセネタなんじゃないでしょうか？」

という毎度ながらのご質問を戴きましたが、この答えは簡単で

「消防署のご指導で店には一室当たり最低一本の業務用大容量消火器を常備しなくてはならない事になっており、ある一定期間を置いて外国人従業員にも模擬訓練を含めた講習会を開いている関係で知っていた訳です。知っていたという意味は、説明書は日本語と英語が併記されており、且つ又日本語の読めない外国人従業員には英文説明が必須だから」と言う訳で御座います。

詰り 5 年前に当店開店と同時に必要になり、その折に当該単語を自然と覚えた訳です。

又街中には英語が氾濫しておりますので、否応なく中学レベル以外の単語も覚えてしまう訳でもあります。いうなれば街は英語の walking dictionary みたいなものです。

無論歩いている(walking している)のは人間の自分の方なのですが。

(こう言う処にもメザトク突っ込みを入れる方が結構いらっしゃるものですから、どうしても文章が長くなりがちです)

何度も申し上げておりますが知らないふりのカマトトも、知った被りのトトカマも、女にモテタイ盛りの若い頃の自分はよく引っ掛けたり、引っ掛けられた振りをしたりと、このような奸計をよく使いましたが、今では「ほとんどウンザリ」しておりますのでそういった小細工は致すつもりは綺麗サッパリ、全く御座いませんので。

(注 1)

正確には fire extinguisher で御座います。

(注 2)

猶、是を持ちまして質問者様への回答に替えさせて頂きたく存じます。

2023/3/7-2

(オマケの英語教室 ticket)



昔自分が子供の頃に、家の婆ちゃんがチケットの事を「チッキ」と呼んでいたのを覚えております。

当然コンサートなんかのチケットである筈は時代考証的にもないのですが、かといって電車やバスの乗車券でもありませんでした。

それでは何のチケットだったかと申しますと、大きな駅構内で、乗客が運べない様な重たい荷物を搭乗列車迄運んだり、或いはその逆に到着列車から「国電」迄運んだりして生業を立てていた「赤帽さん」から手渡された「預かり札」の事を指して特に「チッキ」と呼んでおりました。

「荷物のチッキ。どっか行っちゃったわ。どうしましょう」

みたいな感じで使っておりました。

自分は生まれてこの方コンサートなどにはほんの数回いった程度の人間ですので、自分がチケットと言って思い出すのは何もありません。

飛行機は搭乗券と呼びますし。船の場合は乗船券、電車の場合は英語のチケットではなく日本語の「切符」と個々一品名で呼んでおります。

と言う訳で自分は ticket という言葉を日常生活ではほぼ皆無的に使っておりません、です。因みに既出の「国電」とは今の JR.の事で御座います。

上記既出の家の婆ちゃんの独り言は、シチュエーション的には、九州からの列車が東京駅に着いて、国電の中央線ホーム迄荷物を運んで貰う為に其の荷物を赤帽さんに預けた後の独り言で御座いました。

幸いチッキは見つかり中央線までは載せられたのですが、その後家までどうやって運んだかは全く覚えていない次第です。婆ちゃんじゃなくて、子供の頃からボーツとしていた自分が、ですが。

そう言えば、序と言えは序の話になりますが、ホームに婆ちゃんを迎えに行った折、反対側の番線に出発待ちの列車が入っていたのですが、そこでとんでもない光景を見た覚えが

あります。

身なりのきちんとした若い女の人が、家族が必死になって引き止めるのに逆らって

「ヤダ。私、あの人の居る街に行くの。止めないで。あの人が好きなの」

と乗車口のステップの処で家族ともみ合いながら人目も憚らず泣き叫んでいた光景です。

今でも覚えている位ですから、当時子供ながらに、それ迄見た事のない空前絶後ともいえるド迫力に体全体を押し捲られて啞然、呆然、自失同然の「ぽっ、かぁ〜ん」、顎「あんぐり」的に相当なるショックを受けたのだと思います。小学校低学年の頃だったと思います。

その時は、後日の脚色によれば「女の一念、恐るべし」だったのですが、以降現在に至るまで、切符一枚片手にトランク一つで見知らぬ街へぶっ飛んで行く様な「🎵one way ticket to the moon🎵タイプの女の人」にお目にかかった記憶がございません。恐らくこの女の人がこういったタイプの「最後の一人」だったのかもしれない。

「絶滅危惧種」ではなく絶滅しちゃったのかな？この種族。

2023/3/8-2

(オマケの英語教室 les miserable)



Above from “dog of Flanders” not from “Les miserable”

本編最後にふと思いついて使った邦語「ああ無情」（フランス語原題：Les miserable 注釈後出）

是は小学校低学年の時に読んで大変な衝撃を受けた本二冊の中の一冊の題名です。

もう一つは「フランダースの犬」

この「フランダースの犬」は小学校二年のクリスマスプレゼントに買ってもらったハードカバーの本でした。

今でもはっきり覚えておりますが、本を買ってもらって家に帰ってきたのが夕方6時くらい。読み終えたのが9時くらいでした。

本などそれ迄読んだことがなかったのに一気に読んでしまいました。

そして胸が苦しくなりました。レンブラントの大画の前で寒い夜に凍えながらひっそりと息絶えた主人公の少年と犬がかわいそうで、可哀想で。

大袈裟ではなく茫然自失してしまいました。

処が大人になって同じ題名のアニメをテレビで見たのですが

「ナニコレ？全然違うジャンよ」

先ず、二人が昇天したときに周りに天使なんか飛んでなかった。

よき理解者の女の子も居なかったと思う。

ネロを養っていた爺さんだってもっと怖い印象だった。

第一犬の名前がパトラッシュなんてしゃれた名前じゃなかった気がする。

兎に角、是はまるで別物だ。是を見てもあの時の衝撃はまるで湧き上がってこない。

一体何でこんなことになっているのか？或いは、なってしまったのか？

思うに製作者側の大人が「子供に衝撃を与え過ぎないように」とオブラートをかぶせちゃったんじゃないでしょうかね？

しかし、読んだり見たりした子が衝撃を感じなければ何の意味もないような気がします。
何か我々大人が大きな履き違いをして、知らぬ間に未来ある子を台無しにしているような
気も致します。

特に昨今、図り事、作り事過多にウンザリしきっておりますので。

(注)

フランス語原題名の Les miserable の miserable には se の e の上にアクセントを示す「^ˈ」
が付き、最後の e の後に s が付くのが正式なようです。

ワードでフランス語を出すやり方が分からないので横着を致しました。すみません。

2023/3/9-2

(オマケの英語教室 compromise)



非常に少ないサンプル数からですが、英語話者の中でも native とそうでない外国人さんとは、本日のタイトルである compromise に対する印象が異なっている気がしました。

Native 以外の外国人さんの間では我が国の学生さん同様「妥協する」という意味の使い方が一般的なようですが native はその他に「相手の立場を尊重してお互いセンター（公平線）迄歩み寄る」という使い方もしているようです。

今回本編で使いました compromised one は「歩み寄る」という意味での使い方をしたつもりですが読まれる方によっては無意識に「妥協＝なあなあで行く」と採られる方もいらっしゃるかもしれませんと本意がずれて伝わる可能性がなきにしも非ですので、敢えて此处で一項、説明する場を設けさせて戴きました。

2023/3/10-2

(オマケの英語教室 fake, dummy)



Mr Devil in TV movie “Shonen Jet” on Showa 30`s era.

ここ数本の自分の書き物のテーマになっている「図り事」「作り事」を英語で何と言うか？

自分が知っている範囲の、そして皆さんにもイメージし易い英単語をチョイスすると図り事 fake 作り事 dummy となりました。

正確には違うような気もしますが、いつもの調子で大まかです。

因みにハッターが bluff (所謂日本語で言う処のブラフ)

詐欺が scam

しかしその前に「図り事」「作り事」をもっと身近に感じられるそもそもの日本語表現は無いものか？をちょっと考えてみました。

それで思い当たったのが、是は自分の口癖なのですが

図り事が「あ、又やってらあ」

作り事が「あ、又いってらあ」

でした。

是を又英訳するとなれば

上が Ax, have done it the same

下が Ax, over decorative also

てな、感じでしょうかね。

勿論他にもいろいろあるとは思いますが。

再び因みにですが「図り事」「作り事」を合わせたものを邦語では「奸計 (かんけい)」と呼び習わしております。

奸計方面の関係は関係なくしたいものです。詰り遠ざけておく方が何かとよろしいようで。お粗末。

2023/3/11-2

(オマケの英語教室 Different “Rough” (not different love))



英語にせよ我々日本人同士の会話にせよ、いうなれば「もっとラフスケッチ」レベルでいいと思います。

兎に角細則だらけで細かすぎます。是では物事が捗らないし、第一ご本人が相当レベルで疲れてしまう筈です。

三人称単数動詞現在形に s が付いてないからダメ？

オヤジギャグ、ダメ？

ちょっと K Y なだけでもタッチアウトの仲間外れ？

ああ、ヤダ、ヤダ。

処が一転、反対の出来事もありました。

コロナ禍で事業資金に行き詰まり日本政策金融公庫に融資をお願いしに行った時の話。

「事業継続主旨は十分わかりましたが、それにしても何です？この決算書。計算じゃなくて項目の言葉の意味を全く理解していないですね。ご自分で作られたんですか？」

「税理士雇うお金、ないんで。見様見真似で」

「兎に角こんな決算書じゃ、審査会、ゼツタイとおりませんから」

「でも、税務署にもうかれこれ 8 年も決算書出してますが一度もクレーム付かなかったんですけど」

「それは税務署に聴いてください。こちらでは分り兼ねます。兎に角お金はお貸しできません」

多分税務署は大赤字で事業税徴収できない様な風前の灯会社の決算書なんて真面に見てなかったんでしょう。

詰り余りにラフすぎて、こちらにしてみれば 8 年間、時間が止まったかのように経理事務に関して何の改善もできていなかった、と言うオチ。

是では独立志向があってもちっぽけで儲からない、お上側にしてみればいくら手間をかけても多額の税徴できないという効率面だけの理由で、そのちっぽけですが有意の会社は育つ機会を失いかねません。

ラフの掛け処、完全に間違えている様な気が致します。

前者はラフに。後者はノット・ラフで To 1st story rough. To 2nd story not rough, please。

(コメント)

こんな事では、東日本大震災で無念の内に亡くなられた方々に対して申し訳が立ちません。生き残っている我々で何とかしなくてはなりませんまい（この唐突なコメントは本編絡みの予告も兼ねております）

2023/3/14-2

(オマケの英語教室 Japanese language is very difficult)



仕事柄英語をやればやる程、一体我々は日本語をどれだけ分って使っているのかなあと感じる事が最近かなりあります。

可成りあるというより、頻繁にあります。

例えば

「なんで是はこう言うんだろう？」

とか

「どういう発想でこのこんな言葉が出来たんだろう？」

とか一語一語について、一旦気になりだすと際限がなくなります。

其れと言うのも英語を意識する場合（ジャストな言葉じゃなくてそのコアイメージに近い雰囲気醸し出すという作業をする場合の事です）日本語のコアイメージとか原義が分っていないとどうにもならない場合が結構あるからです。

小中学校で「是はこうだからこう覚えなさい。いちいち考えなくていいからね」と言うだけでは絶対に済まなくなるのです。

今回は昔の時代劇でよく使われていた「かたじけない」の意識語にほとんど手を焼きました。

ですが、どうしても「かたじけない」の一語を使いたい。

さて、どうしたものか？という事で、先ずは「かたじけない」を別の日本語に置き換えるとうなるのか？を考えました。

其れは既に本編で英訳しておりますので、そちらをご覧くださいとて、此処では

「そもそもかたじけない」とはいったいどこから出て来たのか？を例によって推論してみました。

偶々本編を書いていて次の会話文で出てきたのが「片付け」と言う言葉だったのでそれを充ててみました。

「かたじけない」は「片付けない」の変形？

詰り「片付けられない」？

何を？

「相手から受けた手助けの恩をそう簡単には忘れられない、処理できない、片付けられないという連想なのではなかろうか？」と

じゃあ「片付ける」ってどんなイメージ？

そこで思いついたのが「片」をポストイットに見立てる考え方でした。

詰り処理が済んで片付いたものにするしとしてポストイットをくっつけるマーキングのイメージ。

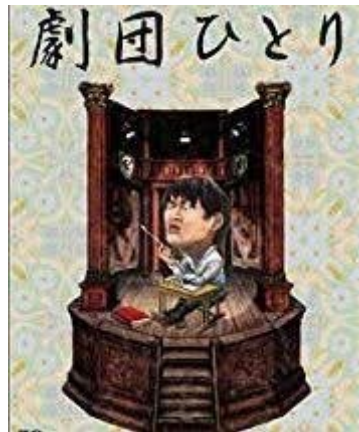
これを続けますと

「アナタから受けた手助けの有難みはポストイットでマーキングして「はい、一丁上がり」みたいな感じでそう簡単には「処理済み箱」に放り入れられません」

その思いが「かたじけない」ではないだろうかあと。

2023/3/15-2

(オマケの英語教室 Memorizing words is not final aim. To communicate is the final. Never misunderstand!!)



一々題名のような分り切った事をわざわざ言わなくてはならないのが悲しい気もしますが。何度かお話申し上げましたが当店のアジア系外国人コックさん達は日本語や英語が全く堪能ではありません。

一方亭主の自分は彼らの母国語が全く喋れません。言えるのは「こんにちは」くらい。なので、当店では「正しい英語さえ覚えれば世界のどの国でも通用する」と言う我が国内の暗黙の常識は「全くの非常識」となります。

では、何で補うのか？補わない事には仕事になりませんから、そりゃもう必死であの手この手を試して参りました。

最初は公式通り「日本語学習」次が「英語学習」等の実施。其れが全く無意味だと分ると次は板書でイラスト、図表、数字、などを使って説明いたしました。

それでも足りないとなると今度はデフォルメした百面相、ハグ、ジェスチャーなどを使用。そして最近では「一人寸劇」と言うのをやっております。

詰り自分が彼らの前で話し手と聞き手、両方演じる訳です。多少面白くするために関西風、ボケとツッコミもやります。ギャラを戴けない「劇団ひとり」状態です。

これらを長年やっていると、表題の意味がよお〜くう、実感できます。

多少時間がかかり過ぎではありますが、何事にも遅すぎるという事はありません。遅すぎた春も、春は春ですから

2023/3/16-2

(オマケの英語教室 irony)



本編中で皮肉っぽいような意味の言葉として *ironical* を使った時「えっ？」と思ってしまいました。

「*Ironical, irony* って *iron* (鉄) の派生語なの？ どういう繋がり？」

たまたまの発見でしたが、実に意外な気がしました。

直ぐにはその繋がりが見つかりません。

「そう言えば、シワを伸ばすアイロンも *iron* と書くよな」

さても、さてさて今日は将棋で言う処の「長考」

といっても自分は将棋も碁もやりませんが。正確には将棋はしない、碁はやり方を知らない、です。

全く分からないので先ずネットで「皮肉」の語源を調べてみた処、何でも仏教語だそうで大元は「皮肉骨髓」なのだそうです。

しかし是でも分からないので yahoo 知恵袋で調べてみたらベストアンサーに

「皮肉とは皮肉骨髓の内の皮と肉の部分だけの事。詰り本質までには至らない表面的な事に留まる事」

と言ったような意味の事が書いてありました。

しかしそれでもまだピンときません。 *iron* (鉄) と繋がりません。

で、次にシワ伸ばしのアイロンを考えてみました。

アイロンの事を昔お袋が「火のし」とか「焼きごて (鋺)」と言っていたのを思い出しました。

ブリキ製のアイロンの中に消し炭を入れて熱くした「火のし」や鋺を炙って熱くした「焼きごて」でシワを伸ばす。

「是はひょっとして欧米も昔は熱した鉄の鋺 (こて) か何かでシワを伸ばしていたんじゃないか？」

と思い当たりました。

詰りシワ伸ばしされる服にしてみれば「アチチ」な訳です。

となれば「当てられてアチチな思いをするのが皮肉、詰り「心理的チョイヤけど」が元になったのではないか？」

と。

心理的チョイヤけどとは皮肉骨髓の「うわべだけ」という意味からして通しで考えますと「アンタうわべだけの話ばかりして恥ずかしくないの？」

「ウ、アチチ、其れこそまさにスゲー皮肉」

か

「ウ、見抜かれている。顔が熱く火照ってきた」

ミタイなシチュエーションが事の発端だったのではないのでしょうかね。

火ごてを軽く当てられてビクッとするような一言が irony。

か

火ごてを軽く当てて相手をビクッとさせるような一言が irony。

上は前述2例の如く皮肉を言われた側の感想で下は1例目でツッコミを掛けた皮肉を言う側の感想。

未だ完全にすっきりした訳ではありませんが、今日は一応是迄。

2023/3/17-2

(オマケの英語教室 joke, humor, gag. Never say joke, kidding)



掲題を邦題に訳しますと左から「冗談、ユーモア、ギャグ。冗談言うな。ざけんじゃねえ（アホぬかせ）」みたいな感じですかね。

これらをひっくるめて「冗談」と呼ぶとすれば

アジア系外国人好きが joke

欧米系外国人好きが joke & humor

で、日本人、特に若い人好きが gag

と言った傾向でしょうか。

上二つは何となく「その中に何か役に立ちそうな」或いは「一種の人生訓」みたいなものを含んでいる場合が多いような気がします。

又、彼らの好みなのでしょう。

処が一転、我が国の若い方たちはそういった臭いすら嫌い「意味がなければない程誠に結構」

といった流れがある様な気がします。

なので、外国人が日本の若い人が笑っている冗談を聴いて

「何処が面白いの?」「何か、物足りない気がする」と一歩、後ずさりするの、感、是在りの様な。

ですが、其れとは異なり自分が若い頃に「へえ」とおもったのは

ビートたけしの「赤信号、みんなで渡れば怖くない」

とか、CM の

「亭主元気で留守がいい」

とか、どちらかと言うと外国人好きの「中に何か役に立ちそう」なものが入っている物でした。

其れから時の流れる事、幾星霜の今日。

昨今、自分が好んでいるのは

「なんか意味がありそうに思って聴いていたけど、全くないジャンヨ」
いうなれば

「一見御大層に見えて、その実何もない」
玉ねぎの皮をむいた結果みたいな「冗談」です。

「ね、御大層なんて中身や結末はこんなもんよ。ちょっとオチョクッタだけ」
要するにそれくらい「御大層、或いは御大層ぶった事」には辟易して「オチョクリ倒した
くなっている」現在なので御座います。

Is it “Great” one, true? Ax, Ups, kidding!! Too much enough stuffed!! Now.

(注)

Kidding は never kidding でも、両方いいみたいです（後者はあまり耳にしないんですが）
後者の場合は「子ども扱いするな」「からかうな」と言う感じみたいです。
なので、中を取ると

Are you kidding me? Never!!

（あたしの事、からかってんの？止めてよ）
となりますでしょうか。

2023/3/18-2

(オマケの英語教室 “cue” start)



以下に出て参ります本編題名の中の「本番」の訳語に“cue” start を充てましたが、是は自分の造語です。

テレビ番組の大半が今の様な録画撮りではなく未だ「絶対やり直しの効かない、失敗が許されない」生放送だった頃の世界を描いたテレビドラマで、今でいう処のフロアディレクターが「ハイ、本番、キュー(cue)!!」と片手に持った台本を振り下ろして、前に突き出し、ゴーサインを出しているシーンと、そこから始まる「残りあと何分。其れにジャストで終わる様に」と言った時計と睨めっこの緊張の連続を思い出したからです。

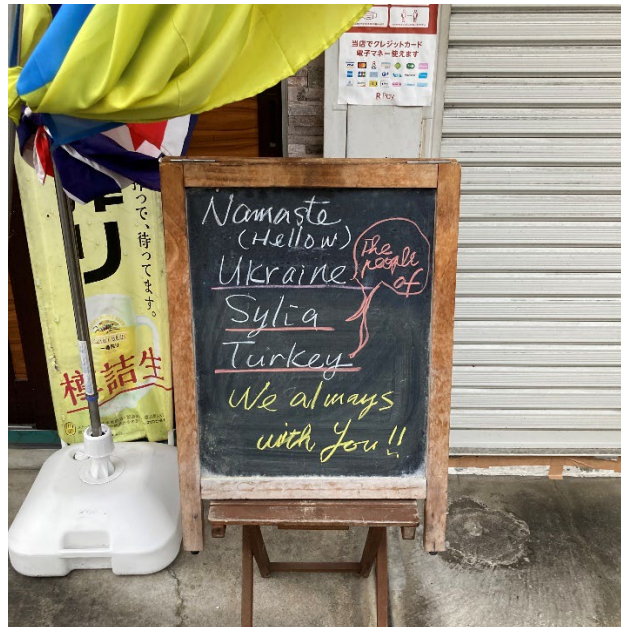
今なら失敗ネタを集めて NG シーン特集と、上手くするとシナジー効果で本編とダブルで視聴率が取れる「再利用リユース 2 番出汁番組」が作れますが、当時はそんなもの、ありませんでしたから、時間枠未達でもオーバーでも「この責任どう採ってくれるんだ？お前は」の、その緊張感たるや想像するだけでも下手なサスペンス物より手に汗、握ってしまいます。

確か自分が中学生の頃に見たテレビドラマで、でした。

こうしてみるとやはり、自分の世代は何と言ってもテレビっ子世代。今のパソコン、スマホ、ゲーム世代とは違っているようです。自分の子供が小学生時代、スマホやゲームを時折やっておりましたが、この二人は将来なにを思い出すんでしょうね？ちょっと興味があります。

2023/3/25

(うと Q 世話し「オマケの英語教室」 in front of our restaurant)



24th Mar. 23 in front of our restaurant today above.

(本編)

第 19 集

●ミニ「オマケの英語教室」reset)

我が国と外国との間で reset の意味合いが若干違っている気がしております。

我が国で reset と言えば、どちらかと言うと clear, delete の意味で使われておりますが、外国では文字通り re-set 即ち「もう一回セットする、セットし直す」の意味合いが強い気が致します。英文で書きますと

Once clear and after it reset, in other words “newly start or setting (=set)”

と言ったような感じでしょうか。

要するに我が国では英文の前半部分 clear だけを取り、外国では英文のフル部分 Once clear and after it reset, in other words “newly start or setting”を取っていると言ったような違いかもしれません。

(注)

上の文章は set の方が文法的には正しいのですが、我が国の方々に耳慣れた言葉の方が良いと思いましたので、敢えて setting という英単語を使用しました。

因みに newly は「新たに」という意味です。

●ミニ「オマケの英語教室」 select, choose)

本日は mistake からの連想で select(selection)と choose (choice)

の違いを考えてみました。

で、先ず思い出したのが selection.

邦語訳ではよく「厳選」と訳されております。厳選素材とか厳選品パンフレットとか。

要するに選別です。選り分ける。いらないものを切り捨てる。結果、残ったもの。詰り

Left one. Remained one.

一方 choice の方は選択。いくつがある中からそれを引上げる、と言う感じです。

詰り picking up one.

が自分が持ったイメージです。

(コメント2)

平行線 (Parallel world) は何処まで行っても交わる事はありません。

しかし線路は途中で左右が交わると列車が脱線してしまいます。

平行であるからこそ遠くまで行けるという事もあります。

Parallel line never cross.

But railway parallel line, if it crosses on the mid way, train cars will run out.

Parallel sometime bad for communicating, sometime good for going further and further,

Such a case sometimes we have.

Thank you so much.

●ミニ「オマケの英語教室」idiot, stupid, fool)

馬鹿にもいろいろあります。

まず、バカとおバカさんは違います。

それを知ったのは高校時代に遠藤周作の「おバカさん」を読んでからでした。

同様にその違いを表しているような気がするのが英語の idiot と stupid、fool の三単語です。

Idiot は「馬鹿につける薬はない」レベルの馬鹿。

Stupid は白痴ではなく間抜け、とんま等一種のピント外れなのでピンとさえ合わせれば普通の人間になる可能性があります。

で、最後の fool

是はビートルズの楽曲「fool on the hill (丘の上の馬鹿)」からも感じられますように、ある意味、損得勘定苦手な人の好さを漂わせた感があります。

なので、邦訳を充てるとすれば「おバカさん」が妥当なのではないかなあ？と。

●ミニ「オマケの英語教室」trade mark)

我が国でトレードマークと言うと「それ（その人）を表す代名詞」「顔」「分身」と言ったような意味合いで使われますが、英語の原義そのもので言えば、そういった意味合いはあまりなく単に「交易上(trade)の印(mark)=trading mark, mark on trade(trading)」という極めて実利実務的な意味合いのようです。

よく外国人と話していて、邦人間では難なく意味が共有できる英単語を使った時に時折「えっ？」と言う顔をされる事が案外多いものですから、今日は不図、本日の（注）の欄の商標権に絡んでそんな事を考えました。

この件で言えば

It`s his trade mark.

と言うより

It`s his mark.

It`s a markable of him.

It`s his original.

It`s his proper.

It`s just him.

とか trade を使って変に脚色するよりは、ダイレクトな表現を使った方が分ってもらえるようです。

Trade を使うと人によって想起するイメージに階層的なレベル差があるようで、どのレベルで受け止めていいのか外国人さんに、こちらが思う以上に混乱を起こさせているようだからです。

どうしても trade mark を使いたい場合は書き言葉上では

Trade mark ではなく trademark と 1 語にした方がこちらの意図する処が未だ通じるみたいです。或いは

It`s like a trademark of him, maybe.

とか「商売絡みで話している訳ではない」事を表明する様な言い方をした方がいいみたいです。

● (コメント 1: ミニ「オマケの英語教室」 globalization)

最近書いていて思うのですが、どうも英語で書いた方が却って皆様が理解する上で真意が伝わり易い、イメージ化し易いものと、邦語じゃないと伝わらないもの、イメージ化にくいもの、両方ある様な気がして参りました。より良いコミュニケーションを第一目的にした目で見ますと、なんか、そうなっているような気が致しております。英語がイイの、日本語じゃなきゃダメ、と言う事ではなく、そういった次元の話とは違うのではなかろうか？と。

先日偶々Eテレの高校世界史だか世界地理の番組を見ていた折、ナビゲーター役の先生が「グローバル化はマクロ的には世界の共通化を促しますが、同時にミクロ的には近接する地域での多様化、多言語化、その地域に合った新言語をも生み出すきっかけにもなります」とおっしゃっていたのがとても印象に残ったので、そんな事を考えたのかもしれない。

Recently while writing articles, I feel both way we have. It means writing in English is better for something, writing in Japanese is better for something others, both. To make better communication is first aim, I feel it more. In English is good or should be in Japanese language, it`s not such a selection level story but other level field issue the one, I feel now.

Little bit ago, on TV program, a navigator said on the theme “ Globalization ” below, “From macro view Globalization navigates and invites to commonization. But another hand from micro view, Globalization at the same time, on nearby areas, it`ll be a push around the areas, diversity, multiple language, and new language born fit the area further, the trigger also.”

As it caused so strong impression from his saying, then above I wrote, it might be.

(コメント 2)

別に奇をてらって申す訳では御座いませんが「思った様に書けた」というのは、実は大失敗の元なのではないかと言う気が不図致しました。

思った通りと言うのは別の言い方をすれば「自分の意図、図り事、作り事で思い描いた通りに」という事でもあります。詰り自分の図り事の成就でしかありません。

最近書いていて思うのは、今迄の経験則を元に、成る丈不自然が混ざらないように流れに任せて書き進めていきますと、大抵の場合、自分が狙った、或いは想定していた話の流れや行きつく先、結末、結論とは全く違う、思いもよらぬ展開とその漂着地に立つことが殆どであることが分かってきました。

そして是が自分にとって余りにも意外な事であると同時に、近頃ではその驚きにも増して楽しみを覚えるようにすらなっております。

確かに結末的には往々にして自分にとって不利、或いは芳しくない結論に至ることも多々あるのですが、其れを差し引いても面白い。

不図(思いもよらず、図り事致さずに)、不作為(作為を持たずに)を優先する事はつ自

分自身に対する客観的視点にも繋がって、案外有用な気もしております。

ですから「思った様にかけた」より「思いもよらぬ話になった」方がいような気も致しております。

第一、書き手自身が一読者になって楽しめ「も」（＝何処からか、オマケプレゼントされ「も」）しますから。

●ミニ「オマケの英語教室」way, road, street)

坂本龍馬がかつて言ったとか言う言葉に

「道が一つという事はない。十も百も千もある」

と言うのがありますが、この場合の道は

Way でしょう。詰り方法とかで、架空のものを道に譬えている訳です。

邦語で言う処の「天の川」は英語では milky way ですが、これも実際の道ではなく、道に例えた架空の存在の表し方です。

一方実際の道一般は road.

そしてそれが街中、特に繁華街にある大きな道なら street.

こんな違いでしょうかね。

もっと言うなら street は両側に建物がひしめき合って建っているイメージでしょうか。街中でも繁華街でもなく両脇がガラガラなら、其処を走る道は road と呼ばれるような気がします。

又 street はニューヨークや平安京、平城京を見るに区画整理された碁盤の目のイメージなのかもしれません。

逆に狭い道は path と言います。パソコンなどで「パスを通す」と言うのと「階層をきちんと通して先（目的フォルダー、ファイル）につなげる事」を言います。

昔 MS がまだ DOS や DOS-V だった頃、是には散々てこずられました。30 年頃前の話です。

因みに、獣（けもの）道は animal path, path by animal とでも言うのかもしれませんが。

●ミニ「オマケの英語教室」say, speak, talk

確か以前、see, look, watchの違いについて書いたような気がしますが、今回は「見る」ではなく「話す」の英単語の違いを自分なりに解釈してみました。

まずsayとspeak, talkの違いは、sayが、相手が居ようが居まいが「話す」

Speakとtalkの差はspeakが、相手がちゃんと理解しようがしまいが「話す」

Talkは相手にわかって貰おうとして「語る」又は「語りかける」

と言った処でしょうか。

おさらいになりますが、

Seeが「見る」と言うより「(偶々)目に入る」「(向こうから)目に飛び込んでくる」の偶然性、他動性。意図せず自我を立てずに素直に自分に入ってくる視覚情報とでも申しましょうか。

Lookとwatchはそういう謂い方からすると自分でする意図性、自発性、自動性。

その内

Lookが「目をやる」「目を向ける」

Watchは「目を凝らしてみる」

の、違いでしょうか？

又「聞く」ではhear(聞こえる、耳に入る)がsee(見える、目に入る)に、listen to(耳を傾ける)がwatch at(見つめる)に呼応しているような気がします・

このように解釈すると意外とスムーズに使い分けができます。自分の場合は、ですが。

因みにseeをunderstandの意味で使う場合があります。

Can you see me?

ワタシの事、見える？と同時に私の言っている事、分る？でもある訳です。

この場合のseeは「あなたの側にも言い分がおありでしょうが、私の言っている事、そちらの自我を立て過ぎずに、先ずは素直に見て貰えますか？」と言うニュアンスでしょうか。

これがunderstandだと「～のunderにstandする」訳ですから、ある意味「話者の言い分の支配下に立つ」となり、話者から見てseeよりも相手に対する強意図が強いような気がします。

些か極端な譬えですが、

Do you see me? であると「お分り戴けますでしょうか？」

位のソフトな感じなのに対して

Do you understand?

だと話者の心底は

「分ってんのかよ、テメェ」

位の、脅し半分強面みたいな感じとの差でしょうか

このように自分は思いつき始めると次々書いてしまうので、文章が直ぐに長くなってしま

うのですが、それは是を書いている時点で対話者がいない為です。いれば反応が即わかるので、いちいちいろんなケースを想定して書き足す必要がなくなるのですが。

こうしてみると対面会話（対話）が時短面、情報伝達精度（返答とその時の態度に現れた差で見える相手側の理解度）とその確認面（理解度の把握）等においていかに優れた交流手段であるかが、改めて痛感される次第で御座います。

●ミニ「オマケの英語教室」cooked food materials

本編中に出て参りますお弁当はジャストではないのですが lunch box と表現することは知っていましたが、お惣菜は何と言うのかはしりませんでしたので、コレマタ意識を試みてみました。

食材なら food materials でいいのですが、お惣菜は単に食材でもないので「調理された」を意味する cooked を付けて cooked food materials と致しました。

食品ケースを指さしながら外国人さんに言うと、ほぼ大抵通じているみたいです。

因みに「調理済み」と言いたいのなら cooked up food materials とかでいいのではないでしょうか。未だ外国人さんに対して試しておりませんけど。

(コメント1)

題名を「頼むわ」にするか「助かるわ」にするかで随分と考えあぐねました。

「頼むわ」だと主（あるじ）が相手側にある事になる。「助かるわ」だと主（あるじ）が自分側にある事になる。日頃自分が申し上げております「自分が主」と言う観点からすれば後者の題名になるのですが、其れだと何か「自己宣伝」みたいな気もしましたし、相手への信頼を損ねるような気も致しました。

あと一つはタイトル写真にありますように、自分の親方以外にも、今とても大変な思いをされているウクライナやシリア、トルコ、他にもメディアにはあまり登場しない色々な地域の方々の事も一緒にお伝えしたい気もありまして、あれこれ考えこんで決めあぐんでしまいました。

結局結論が出ない儘、最終的には「すまんが、手を貸してくれ、頼むわ」と致しました。

「貸してやってくれ」だと命令口調になってしまいますし、英訳の場合にも文章構造が二段構えになって複雑になり率直さに欠けてしまいます（こんがらがるといけないので敢えて英訳は省きます）

又、英訳題名も本来なら give me your hands, please と me を入れた方が、リズムが整うのですが、me にすると「私に（私の為に）」と限定されてしまい、親方やウクライナ、シリア、トルコ、他大変な状況下にある他地域の方々が想起されにくくなるので、敢えて me を入れない語調の悪い方を取り、その後 lend your hands, please に変更致しました。

こんな折衷案みたいなものでいいのかどうか、未だに分り兼ねております。

(コメント2)

後「カッコイイ」の英訳語に Samurai を充てたのは渋沢栄一翁の「士魂商才」と親方のイメージが若干ダブったからで御座います。

●ミニ「オマケの英語教室」too much enough, it is!!

売らんが為に矢鱈ボンボン「耳にだけ触りのいい(good touching for ears only)」言葉を粗製乱造しすぎの感があります。

中でも「耳障り(noisy for ears)」なのが「達人」「カリスマ」「出来る人の」「一味違う大人の」

とかです。そして更に嫌なのが、その紹介写真が、撮影に赴いたカメラマンが一様にそう注文を付けるのか、何故か皆、判で押したように胸の前で両腕を組んで、明らかに「ドヤ顔」でこちらを睨みつけている事です。余りにも不愉快。いい加減ウンザリします。各社が不正を行う度に、そのトップが「心よりお詫び申し上げます」の会見でお辞儀をする角度がどの会社のトップも図ったように同じなのを見るくらい、ウンザリします。

これって

「私は豚もおだてりゃ直ぐ木に登るお調子者です」

「是は追求逃れの会見で、私共に誠意は全く御座いません」

と言っているのも同然にしか見えません。

言われた儘、横並びの儘のレベルですむなら、いっその事「その場の空気が読める動作プログラミングを施された」AI ロボットか何かに代役させた方が話題性、他者（他社）との差別化や個別その場にしかない臨場性の面で未だしも視聴者受けする様な気がします。本当に何の芸もないこの手のワンパターン田舎芝居にはほとんどウンザリさせられます。

いい加減ヤになっちゃいます。Too much enough, it is!!

●ミニ「オマケの英語教室」chat

Chat GPT で思い出しましたが、元々 chat, chatting と言えば基本的にいずれも「他愛なく、無邪気に成り行き任せの思いつく儘にぺちゃくちゃとオシャベリする」事を表すらしいのですが、これを書き言葉主体のやり取りに使われると日本人の自分には非常に妙な感じに思われます。

と言うのもぺちゃくちゃ喋る時に、常時図り事をしている余裕等ない筈なのに書き言葉の chat では図りまくりだからです。どう考えてもそんな行為に chat と名付けるには違和感を覚えます。

(注1)

オートコンプリート機能は Chat GPT の原型版みたいなものです。

同機能は、操作者のアプリ使用傾向データから推測して、最初の一文字を入力すると後の一語群、一文全体が既入力分から選択され、自動的に入力される学習機能の事を指しております。

確かに便利ではあるのですが、是が利き過ぎると最初の一文字を入力した後に続く語群や文章が異なる場合、アプリが勝手に入力した文章を、毎回消してからじゃないとその新語群、新一文が入力できず、却って手間がかかる事があります。本文ではその事の不具合やイライラを意味しております。

ビジネス文章作成には大変便利ですが、創作文章作成には却って邪魔なような気がします。しかし、是も Chat GPT ともなると、その内「楽をしたい」スケベ心から創作領域も浸食してしまいそうな心配も御座います。

ですが現時点では Chat GPT は未だ、既存データの蓄積から引っ張って来られるビジネス文章作成は得意の様ですが、創作文章など、既存データの蓄積の無いものはまだまだ苦手なようです。わざわざデータとして残す程でもない人間にとって暗黙の了解域の「え、こんなことも分らないの？」分野も苦手の様です。Google 開発の Chat GPT 相当が「まさかの、回答できず」な結果に終わったのも、当該品が蓄積既存データ検索（例えば big data の処理能力）には長じていたものの、此処がまだまだ手つかずのようで御座います、聞くところによれば、ですが。

(注2)

Steve Jobs の Jobs を「仕事漬け」

又 Bill Gates を「札束門番のビル」

と訳しました

Micro soft の創業者 Bill Gates の first name, Bill は William の愛称ですが、同時に「硬貨」coin に対して「お札」の事を bill と言いますので。又 Gate(s)は門の事ですから。

●ミニ「オマケの英語教室」plan, plant, planet

本編で plant という単語を使った時「おや？」と思ってしまいました。

「Plant と planet の語幹は plan なの？」

そこに気付いた迄は良かったのですが

Plan（計画する）と plant（植え付ける）は何となく近いような気がしましたが planet（惑星）の語幹が何で plan(計画する)と関係があるんだろう？

という疑問が次に湧きました。

で、思いついたのが

「先ず、中央項の plant（植え付ける）と右項の planet（惑星）の共通概念を探そう」

という事でした。その結果出てきたのが

Planet の前に our（我々の）をくっつけると our planet で「我々の星、地球」となります。詰り地球とは「我々が根付く場所」「根付いている場所」です。

で、この「根付く」と「植え付ける」は近いイメージに思えたので今度は左項 plan（計画する）と plant（植え付ける）の共通概念を探してみました。

それで思い当たったのが

Plant が「苗木（を植え付ける）」で plan が「その苗木に当たるもの」と言う解釈が出来そうな気が致しました。

それで最後に左項(plan)=中央項(plant)=右項(our planet)に共通するのは「植え付け」でした。

Plan が苗木、plant が苗木の植え付け、our planet がその苗木を植え付け、育つ場所、と言う解釈となりました。

●ミニ「オマケの英語教室」depend, independent

今日も又本編中で depend on（任せる、頼る）を書いていた折に「んっ？」と思ってしまいました。

Depend と independent が同じ語幹 pend からの派生語。

つまり in（否定）+depend(依存)+ent=依存しない=独立の
じゃないのかな？

と。

その他にも spend(費やす)とか suspend(張りを持たせる)とかにも発展しそうですが、今日は諸事情の関係で、一旦ここでやめておくことに致します。

マッチポンプで申し訳ありません。

（注）ドル・コスト平均法

毎月一定額で買い続ける投資法です。

例えば手持ち 10000 円で 1 ドル=100 円の為替レートの時には 100 ドル分買い、為替レート 1 ドル=200 円の時には 50 ドル買うというやり方で、リスクや心理的負荷を回避しながら長期間積み立てる事で利益を確保する投資手法の事です。自分なりの理解では。

（コメント）

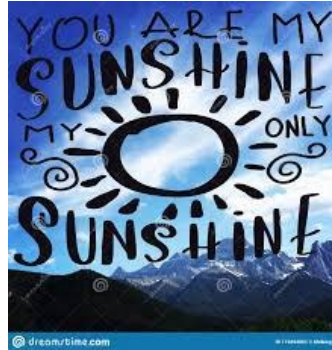
他にもポケットークの件とかも考えられます。

何も外国語を勉強しなくてもポケットークがあれば問題ないからわざわざする必要はない、とおっしゃる向きも御座いましょうが、こんな場合はどうするのでしょうか？

突発災害が起きた。ポケットークの電池が切れたが電池の買い置きがない。ライフラインの電気も止まって充電もできない。

災害時にこそ邦人と外国人の意思疎通が大切なのに、肝心要の時に頼り切っていたポケットークが単なる箱と化してしまった場合など。

●ミニ「オマケの英語教室」♪Oh my “son” shine♪



和文で書くのと英文で書くのとでは、どうも冗談を言う箇所が違ってくるようです。

両方に共通するように書くと、何か変なものになる様に感じられるので、最近では和文と英文を少し違えて書くようになってきました。

和文では「♪オーマイ・サンシャイン、我が息子よ♪何て一言も出てきませんが、英文には入れている様な違いです。

逆に和文では「マトモ」と「ま、友が増える」みたいな掛け合わせを入れておりますが、英文では、軽く流す程度にしております。

他にも言葉選びに関して、英文は語音優先、和文は意味優先で書く傾向が出てきました。

こうしてみると我が国の英語教育はどうも一つで共用しようとする傾向が強すぎて、何か妙な混乱を逆に招いているような気も致して参りました。

「人は皆同じだから仲良くできる筈」

じゃなくて

「人は皆違うから仲良くしないとね」

の違いの様な気もしております。

差を差として認めた上で、お互い其れを活かし合う、とでも申しましょうか。相手にないものを求めたりこちらに合わせる事を強要したりするより、お互いに自分には欠けていて相手が既に持っている物を互に使い回して共助しあう、要するにコラボの精神です。

●ミニ「オマケの英語教室」No option? Ax, troublesome.



記事を書いていて最近ますますその念を深くしているのが邦語と英語の縛りの違いです。邦語はちょっと違う使い方をすると「これの何処が間違っているの?」と直ぐにその間違いを考えつかい程些細な事でも単語や文の下に「間違い」を示す二重赤波線が付くのですが、英語で書くと相当な思い付き造語でもその下に二重赤波線が付く事は滅多にありません。ですので、邦語で書くより英語で書いた方が後戻り修正の回数が圧倒的に少なくて済みます。無論作文している時間自体は英語の方が圧倒的に長くはあるのですが、イライラ感や英語で書く場合の方が少ない気がします。

処が反対に英語で書く場合、時制に対する縛りが余りになき過ぎて不安になることもあります。当店のスタッフとつたない日本語で話す場合の彼らの時制のラフさに時々辟易する事があります。

例えばスーパーに「買い物に行った」場合も「行ってきた」場合も「これから行く」場合も全て同じ「買い物行く」で表現するのです。

仕方なく時制には現在過去未来がある事をレクチャーすると、先ず時制そのものが存在する事すら分っていない。OMG!! Alas!!

しかし、上記に照らし合わせて、逆に見るとどうもわれわれ日本人だけが時制に対してきわめて厳格な運用をしている気がしないでもありません。

外国人は少ない単語をその状況に合わせて読み替えているのに対して、我々日本人は事細かに全部違った単語を厳格に当てはめて運用している。

此の構造的、見ている方向性の決定的な違いがお互いの語学学習を難しくしているような気がしないでもないのです。

しかしいつまでも no option 仕方ないね、とばかりも言っておれません。現場責任者としては実に困った、厄介な問題なのです。

Ax, troublesome.

●ミニ「オマケの英語教室」 difference from sense.



今日の教室の題名は邦語で「感覚に違い」とでも申しましょうか。

毎回ですが、邦語と英語のタイトル付けには頭を悩まされます。

今日のように全然違う場合もあります。

本来言いたいのは「笑うの、大好き」だけなので英語題名の I love laughingの方が的確なのですが、そういう題名にすると我が国の読者の方の中には「ふん、リア充見せつけかよ」と毒づかれる方もいらっしゃるようなので、邦題は敢えて少しずらした「ズレズレ・ウェルカム」と致した次第。

●ミニ「オマケの英語教室」idol

不図思いついたのですが、

Idol（我が国ではアイドル、英語圏では偶像）って

I'm a doll（私はお人形さん）

の短縮形なんじゃないかな？

●本日は久々の「うと Q 世話し」で御座います。

本日のお題は「♪君の名は♪」

以前自分の書き物の中で「中学の頃は考古学者とかシルクトード探検隊に参加するとかブラジルの開拓民になりたいと思っていた」とか申し上げましたが、実はいったい自分が何になりたいのかよく分かっていなかったのです。分かっていないというより、自分のしたい事に見合った具体的職業名が見つからなかったのです。

自分のしたかったことと言えば観察する、考える、書く、会話する（話を聞く）、解明する、開拓する、感心する、の 7K でした。カメラをぶら下げて気の向くままに写真を撮ることも含めると 8K、今の超高解像度 TV 並みにやりたいライン（走査線）が多かったのです。

しかしこれに合う職業名が見つかりませんでした。

一体これを何と言えいいのか？

退職して起業した時にもぴたり合った具体的事業が見えていなかったもので、後日何が来てもいいように、取り敢えず自分の苗字を音読みにした中学時代の仇名を会社名に致したような次第でした。

現在曲がりなりにもカーリー屋を主業として営んでおりますが 10 年前に作った会社の定款（会社の事業内容を定めたもの）には、なんと「飲食業」の文字は影も形もなかったのです。やりたい事は山ほどあったのであれもこれもと相当数の事業内容を記載したにも関わらず、にです。

でも、別にやりたい事は分かっているのだから、それを、職業名とか事業名の「名詞」じゃなく「観察する」「考える」「書く」「会話する（話を聞く）」「解明する」「開拓する」「感心する」の「動詞」形で表現してもいいのではなからうか？と最近は思っております。戦後 NHK のラジオドラマで、その放送時間になると銭湯がガラガラになったとまで言われるほど一世を風靡した「君の名は」に姿を借りれば

♪君の名（職業名）は♪と問われて名詞ではなく動詞で答えてみようかな？と思ったりもしております（世の中で通用するかどうかは分かり兼ねますが）。

此处でちょっと本編の題名に掛け合わせた事を申し上げますと起業にあたっては、うつ病体験と言う 12 年間の「寄り道、道草」が本当にあってよかったな、と思います。従来居た大企業で役職か何かついて「一丁上がり」になっていたら、逆に大損をしていたような気がしております。

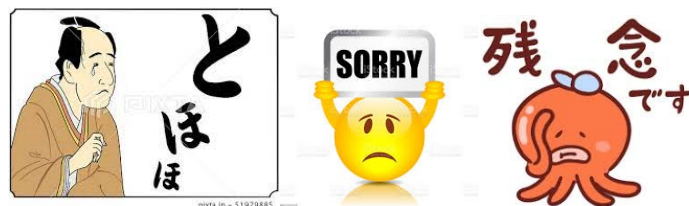
なので「寄り道、道草、アホクサ、ナイ」

な訳で御座います。

こう書くとどうせまた、いろいろ言われるでしょうが。

最近ちょっと被害妄想でイジケ気味です。

●ミニ「オマケの英語教室」 poor



お金持ちではない、貧乏人の事を英訳では poor man とするのが普通で、外国でもそれで通じますが、自分は貧乏人と言う訳語として poor(man)を当てはめるのには些か抵抗があります。

と言うのも poor と聴いて抱くイメージがお金の有る無しの結果「ナイ」になったビンボウではなく、もっと広いというか違った意味での「力不足」「力量不足」「未達」「未熟」「脆弱」「表看板程には中身なし」の意味合いの方に強くイメージ化されるからです。

「哀れ」とも違うしお金の面だけに限った「貧乏」とも違う。

未だ至らずの不十分で陳腐な「poor idea」が一番近い気がします。

と言うのも大手電機メーカーの企画部員時代、先輩社員や上司から散々

「お前それ、メチャ、プアアイデアじゃねえかよ。其れで給料貰っていい訳？」

とコケにされまくっていたからです。

なので、自分の実感的には poor に充てる訳語は「みすぼらしい」「情けない」とか「恥ずかしくないの？それで」とか「チンケな」「見掛け倒し」「口ほどにもない」「竜頭蛇尾」「入口即出口」「貧相な」「チープな」「残念な」「トホホな」

等の語群が近い訳語の様な気がします。

感覚的に一番近い英語は cheepy「安っぽい」でしょうか

本当は cheepish と書きたいのですが是だと間違いを示す赤波線が単語の下に出ますので、そんな語はない様です。

「お前の歯、黄色っぺえぜ」 your teeth seems to yellowish からの連想だったのですが。

因みに自分は邦語の「～っぽい」の英訳に ish を充てる事が多いものですから。

では今の自分の様な貧乏人を英語で何と言うかと言えば、自分流では

“I have nothing” guy, is.

といいのが妥当なような気がしております。

(本編)

第 2 0 集

●ミニ「オマケの英語教室」3D



別に学歴がない事をバカにして言っている訳ではありませんが当店の外国人スタッフには 3D (three di:) と言えばわかって貰えますが、3 dimension などと申しても「？」にしかありません。

毎回申し上げておりますが「正しい英語さえ喋ればどこでも通用する」とは限らないのです。

正しい英語の目的は文法合致ですが、目的がコミュニケーションである場合には現場に合わせて「敢えての間違い」をせざるを得ない時もあるのです。

これ又何度も申し上げておりますが、go の過去形で went を使うのが正しい場合でも、went という時制変化を知らない相手であれば go を使って他の何かでその差を伝えなくてはならないような場合です。例えばジェスチャーとか。

一方我が国では 3D を「スリーデー」又は「サンデー」とよび習わしております。

処が是を外国人さんが耳にすると前者は 3day(s)、後者は Sunday としか聞こえておりません。

それで本編のオチのような事態が当店ではよく発生している訳で御座います。

兎に角語学と言うのは「臨機応変」が何よりもまず求められる世界なのではなかろうかと言う気がしております。イヤ語学学習ではなく「コミュニケーション現場」においては。

(コメント)

コロナ禍が始まりマスク着用と 2 m ソーシャルディスタンスが必須となり、それを受け入れる生活を指して「ニューノーマル」と言い始めたのが 3 年ほど前。

その時「是はコロナに関わらず本当の意味での「ニューノーマル」を考えるいい機会かもしれない。何故なら大変動常駐常在こそノーマルの様な気がするから」と思い「カリ屋 マナ捨て別館堂主人、コロナ禍同時進行ニューノーマル探索日記」を書き始めました。

処が現在コロナも第五類に分類される中で、たった 3 年余で当時流行った「ニューノーマル」なる言葉は死語と化してしまいました。

一方他には戦争、気候変動による異常気象、物価高騰、働き方改革等様々な変動要素が噴出してあります。

それらを考え併せますと、矢張り我々にとっての「ニューノーマル」今後の在り方はどうなのかを考え続ける必要がある様に思われます。

言い方は変ですが

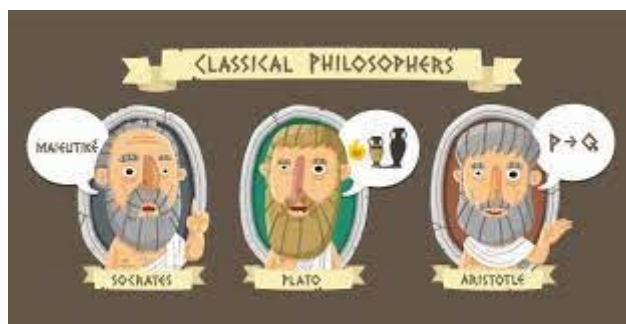
「何事も不穏な事が起らない生活に戻ることがノーマルなのではなく、大変動常駐常在こそがノーマルだと認識する、この認識の切り替えをする事こそが「今後のニューノーマル探索」の始まりみたいな気も致しております。

その中で今迄のノーマルであった力とお金の独り占め、相手蹴落とし「成長」概念からニューノーマルになるかもしれないシェアリングとコラボ、グッドコミュニケーションが基本の「サステナブル」概念を今後もいろいろと考えて参りたいと思っております。

何故かと言えば今の姿の儘も「成長」概念を迫り続ける事は「我々の星を消すのと同義語」に思えてならないからです。手遅れにならないように残されている時間が大変短く感じられて、心配で、怖くてならないのです。いい加減、爺さんになっても死ぬのは怖いのです。

どうせ死ぬなら「この後もうこの星は無いのかぁ」とか、大風、大波、鉄砲の弾なんかで怖い思いをしたり、暑すぎたり寒すぎたり食べ物がなくてひもじい思いをしたりしながら死にたくはないからです。是はもはや我が国初め先進国から遠く離れた対岸の火事ではない気がするからです。

●ミニ「オマケの英語居室」Logos



高校時代、選択科目でドイツ哲学とフランス哲学を取った時に、その講義の中で哲学史の授業がありました。その中に出てきたギリシャ哲学の一片にあったのが此の logos。

音の響きと言い、ギリシャ哲学の各賢人の思慮深げな顔と言い、そのためか自分の中では此の logos という言葉はかなり高い位置にあります。

一方「理」の方は説教臭い「道理」とか「哲理」、数学は小学校中学通して通信簿 5 点満点中 3 点、高校では 3 年間通して万年赤点だったので何とかの「定理」「公理」は見るのも嫌でしたが、古文で習った

「祇園精舎の鐘の声。沙羅双樹の花の色。盛者必衰の理（ことわり）を表す。奢れる者久しからず。唯春の夜の夢の如し」

と言うのを耳にしてから、それがその耳をついて離れず、文中の「理（ことわり）」と言う言葉を覚えました。

其れで今回 logos と理を同一視扱いした訳です。深い根拠はありません。唯どちらも自分がよく覚えていた単語の中から、と言うだけの理由で御座います。

この logos がもとになって英語の logic, logical という言葉が出来た様です・

You are logical（あなた、論理的ね）

Your logic is very sharp（君のロジック、冴えているね）

位迄なら褒め言葉ですが

You have logics.

と s が付いた状態で言われると「溢れんばかり理論家だね」と褒め言葉で言われたのか「理屈が多すぎる奴だね」とけなされて言われたのか直ぐには判断し兼ねる場合があります。恐らく have と logics の間に too much が入っているニュアンスなのかそうでないのかの差だと思います。その時は相手の素振りや目の色で判断するしかありません。書き物になった文章だけでは判断が付きかねます。ですので、自分は常に直接対面会話を望む傾向があります。

（コメント）

Logos と理（ことわり）は、本当は違う気がしますが、自分が今持っている知識内の英単

語ではその違いを表現するのは不可能なので、敢えて Logos と理（ことわり）を同一視して訳しました。その点に付きましてはご留意為されながらお読みになる事をお勧めいたします。

逆に良い英訳語があればお教えいただけると次回からこの語（Logos にせよ理にせよですが）を訳すのに大変助かります。

話は変わりますが、子供の頃「なぜなぜ理科」と言う本があって、是が面白くて何度も読み返しました。本編の題名はそのモジリで付けました。理科の理と理（ことわり）が一緒だったからです。ま、あまり関係ない話ですけど。

●ミニ「オマケの英語教室」Alas



なんで Alas などと言う珍しい言葉を自分が知っているのか？シリーズ第二弾。
中学の時だったか高校の時だったが忘れてましたが、又その物語の題名も忘れてましたが此の英語副読本の出だしだけは覚えております。

Once upon a time, there was King Midas…(and on and on further.←Left is writer me adds.)
その中の一コマに”Alas (悲しいかな) !!” と言うのが出て参りました。

「へえ、こういう場合 Alas と一言いえばすんじゃうんだ。ラクチン、ラクチン」
そんな事がありましたので、知っておった訳です。
自分はこういう手抜き言葉は直ぐに覚えるようです。

(コメント)

当初思っていたのは日本語での話より英語での話の方が、遥かに字数が多いとだろうという事でしたが、実際に書いてみると遥かに日本語の方が長くなっているのには些か驚いております。

無論知っている語数が日本語に対して英語の方が圧倒的に少ないせいかもしれませんが、それにしても、知っている語数が少ない分、既知の英単語の組み合わせになるので却って逆に英語の語数の方が多くなると予測しておりました。が、蓋を開けてみれば実際には正反対になってしまいました（無論これは極力1対1になる様にした対訳ベースに切り替えて後の平均値での話です）

恐らくこれは同胞人から上げ足を取られないよう、用心深くなっているせいからかもしれません。結構自分、相当に臆病ですから。

●ミニ「オマケの英語教室」 order, number



いつも使うのに困るのが order と number です。

Order は当店の様なレストランで言えば「注文」

ですが野球で言えば「打順」詰り「順番」です。

又 number は野球で言えば「背番号」詰り「番号」ですが、他には「数」と言う意味でも使います。

こちらはある意図をもって order や number を使うのですが、果たしてそれが外国人さんにはその使い方に通じているのかいないのかまるで分らないのです。

結構これには手を焼いております。手を焼くというより滅茶苦茶苦手意識が高まっております。この order や number を使う時は結構戦々恐々としながら使っております。

なので、本日は順番の事を、こういう謂い方で良いのかどうか分かりませんが優先順位、advantaged ordering と複合語に致しました。

●ミニ「オマケの英語教室」 wedding cake 2



以前に「オマケの英語教室」で wedding cake についてお話申し上げた記憶が御座いますので、今日はその 2 と致しました。

どうも海外では余りウェディングケーキとは言わない様で。と言うよりそもそも結婚式にウェディングケーキなるものが出てくるものなのかどうか？と申しますのも外国映画の結婚式シーンを見ていて、そのようなものが登場する場面を一度も見たことがないからです。後自分はウェディングとブライダルの違いもあまりよく分かっていないので、今回の訳語は成る丈状況に忠実な after wedding ceremony party と致しました。

これも辞書を詳しく調べれば済むことなのでしょうが、先ずは是で通じるものなのかどうか？試してみたいからです。ダメだったらその時初めて辞書を引いて知識を上書き、或いは正しい答えを代入すればいいだけですから。

ところで話は変わりますが、ウェディングケーキのウェディングはなぜウェディングと言うのか？について思いついた事を一つ

日曜から数えて真ん中の水曜日が Wednesday。

ウェディングケーキも我が国ではよく「夫婦相和しての初めの共同作業として、二人そろってウェディングケーキにこれから入刀をして戴きましょう」なんて言う場合のウェディングケーキの位置が新郎新婦の真ん中・

ですからこれはひょっとして wed というのは mid（真ん中）の変形語なのではなかろうかと？

Wednesday が week mid（mid of week）

Wedding が our(we)mid（mid of us）

の略とか…。

（コメント）

文法的又は意味的にこちらの方が「正解」であろうと思われるような場合でも、敢えて音的、リズム的に良い方を採用して文章を書かせて戴いております。

理由は、その方が読者の方に残り易そうだからです。幾ら文法的意味的により良いものが

あったとしても、それが全く残らないゼロカバー率なのであれば、文法的意味的には 30% 位のカバー率に過ぎないものでもその方が遥かにマシだと思うからです。

「物書きがそんな態度でいいの？」

と、よく突っ込まれるのですが、

そもそも自分は原稿料を頂戴しているプロの作家でもありませんし、又なろうとも全く思ってもいない、唯の素人でしかありませんから、余り「適格適語に絞り込んだ表現」には、尊重こそすれ、それ程拘っている訳でも御座いません。自分なりに心地よいと感じられる音やリズム感の良い語を選んで書かせて戴いております。

再度申し上げますと、自分はプロの書き手ではありません。この先プロの書き手や作家になる気もコンクールに応募する心算も全く御座いません。その代わりと言っては何ですが、人さまの迷惑にならない程度に書き物上での自分の好き勝手を通して戴ければとは願っております。今迄さんざん色んな制約に縛られまくった生活を送って参りましたので、もういい加減「そんな疲れる事」は、ハッキリこちらから願い下げ致したく思っているからで御座います。

●ミニ「オマケの英語教室」learning way again.



今迄中学 1 年以來、現在に至るまで彼これ 57, 8 年間、つかず離れずの関係で英語と付き合っ
て参りましたが、分ったのは

日本語は意味の連なりで話す、又は「書」いていく言語

英語はイメージの連なりで話す、又は「描」いていく言語

だという根本的な違いです。

なので、英語を話すなり書くなりする時は、あまり意味を考えずに目の前に浮かんだ絵姿を描く（描写する）様に話すなり書くのが better だと思っております。スケッチブックに絵を描いて練習するのもいいかもしれません。

●コメント&ミニ「オマケの英語教室」Bad kettle?



(コメント)

本日は本編作成に思った以上の時間がかかりましたので、こちらは些か手抜きで、本編脚注をコピペさせて載しました。

申し訳ございません。

因みに何に想像以上の時間を要したかと申せば「アカン」と「やかん」の日英掛詞合わせに、です。

先ず、アカンという関西弁の説明。

更には、同じ kettle でも日英で抱くイメージが異なりそうだったので、敢えて steel を入れました。

又 vegetable shop 八百屋の「八」が 800 の意味で、800 の意味は古代では「万物」とか「多くの」を表していた事の説明も必要になったりしたからです。

単純に「やかん」は「kettle」の事です。と書いただけでは外国人さんには何のことだかさっぱりわからない気が致しましたので、長々と脚注を考えている間に時間切れとなった次第で御座います。それらを筋の通った話にするのに書いては消し、消しては書いたりしておりました。

では以下、本編からのコピペを、ば。

#reference: Vegetable shop in Japanese “Yao-ya. “Yao” means 800, it means in ancient era in Japan “so much many or everything”. And “ya” means shop, is., is it the same in Japanese word “Yakan (in English “ kettle made from steel)” ? “Ya-kan`s Ya”=numeral letter 8 or 800 the same and” Kan” means “Can bottle.

And “Akan” means in Japanese “bad” or “no” No relevant from Yakan, but pronunciation is near. A word sounds joke, that`s all #

●ミニ「オマケの英語教室」 sigh, cough and mixed or hybrid new languages.



日本語でため息を「ハァ～」とついてみるのにあたるのが英語の sigh (ため息) の様な気がします。試しに英語で「サァーイ (sigh)」とため息交じりに言って見ると何となく「是が元だな」と言う気がしてきます。

同じように日本語でせき込む際の「ゴホゴホ」にあたる英語の cough (咳) を「コフコフ (cough, cough)」とせき込んでみると矢張り「これも是が元だな」と言う気がしてまいります。

そんな事を考えながら本編のオチを「最低～ (サイテ～)」にしようかなとなんとなく思っていたところ、「アレ？ 是じゃ誰にも通じない」事に気が付きました。

其れと言うのも「最低」の「最」の部分が英語 sigh (サイ) で最低の「低」の部分は日本語 テイ (テー) のちゃんぽんになっている事に気付いたからです。

なにか英語でも日本語でもない、妙なものが出来つつある様です。

そう言えば今日テレビ番組でメキシコを訪れたある人が相手へのお礼で咄嗟に

「ありがシヤス」と言っているのを耳にしました。

これは日本語「ありがとう」とメキシコ語 (スペイン語) でありがとう、を表す「グラシヤス」のちゃんぽん語 (mixed or hybrid language) でした。

何かそんな感じになって来ております。

因みにこの「最低～」を直訳すると

It`s the lowest.

になりますが、是じゃ外国人さんには何のことだか分かりません。この場合は

It`s the worst.

It`s Damn.

でしょう。

しかし敢えて逆に

It`s the lowest, Boo!!

と言ってみても面白いかもしれません。

What`s that?

と言われて逆に会話がスタートするきっかけになるかもしれませんし。

●ミニ「オマケの英語教室」gender



本日は本編の sexy dynamites に因んで。

「ジェンダーってなんのこっちゃ？」

初めて聞いた時、全然わかりませんでした。それが暫くして性別「なんかの」事だと分って、コレマタ全然実感がわきませんでした。

「なんでジェンダーって言うんだ？」

そう言えば昔、航空機搭乗の際に書かされるチェックシートに「sex」この場合は男性とか女性とかの性別の事だったのですが、或オジサンが「週二回」と書いて、自分が上で述べたような疑問を持ち

「処で、飛行機に乗るのに何でこんな事まで書かにゃいかんのじゃ？ま、もめるのもなんだから取り敢えず書くには書いたが」

と言ったとか言わなかったとか。

もしこのオジサンが現在も達者で居て、飛行機に乗る際に「gender」と書いてあったら（実際にはこの項目はなくなる方向らしいのですが）何と書くのでしょうか？

「ラベンダーの香り好き」「カレンダー毎日見る」「仮面ライダー懐かしい」「俺のものは俺のもの。人のものも、俺ンダー」「だからこの CA（キャ）も、俺ンダー」

等等など。

結構この想像だけでも楽しめます。

（注）CA（キャ）とは cabin attendant 昔流に言えば stewardess(スチュワーデス、所謂スッチー)の事です。

是も何で CA に変わっちゃったんでしょう？バーのホステスは MA (Man attendant) 何て言わないのに。

因みに外国人さんは Canada の事を「カナダ」と発音せずに「キャナダ」と発音しているようです。なので、今回自分は CA を「カ」とか「サ」と書かずに「キャ」と書かせて戴きました。

●ミニ「オマケの英語教室」taxi



会社員時代、工場の実験棟にあるコンセプトメイキング部署に配置転換されました。本社でのパワハラモドキに合い、使い物にならないからと損益責任を負わない開発部隊へ転属させられたのです。簡単に言うと「飛ばされた」

処が工場と言うのは実務の塊ですので、毎日格好のいい絵空事ばかりを考えるコンセプトメイキングとは将に対照的。其れが悪さをして増々自分の自分に対する評価が下っていき、孤立感、孤独感にさいなまれ続けました。そんな心象ですので駅から工場までの送迎バスに乗ると実務部隊の知合いと会うのが、こちらに自信がない分重くてならなくなり、工場と駅の行き帰りに誰にも会わなくて済むタクシーを使うようになってしまいました。

処がこの費用が半年でボーナス全額分以上に。

それでもあの重圧を想像するとみじめさ、情けなさ、不甲斐なさから来る身震いしかなかったのでタクシーに乗り続けました。

ま、暗い話はこれ位にして。

で、その taxi ですが、是って何語なのでしょうか？

自分が知る限り英単語で最後が i で終わる単語なんてないからです。主語に使う I は別ですが。

Taxi を仮に分解してみると tax + i え、tax?

嫌な響きです。税金だなんて。じゃ i は I で「私」？

まさか「私は税金（の塊）」なんて言うオチじゃないでしょうね？

発音から行けば taxy でもいいんでしょうに。其れだと是って何語なの？等と疑わなかったですが。

もう少しあれこれ考えてみます。

●ミニ「オマケの英語教室」me detective?



「此処で会ったが 100 年目。是がお前の運のつきだ」

最早こんな言い方は現代に於いてはなされておりませんが、昔の時代劇ではよく耳にしました。

処でこの最後の「運のつき」ですが、前の文章がなければ通常「つき」は「付き」ととらえられます。ですので、その「付き」なら「運が付くようになる」で *lucks have come*.

しかし、前の文章が付きますと意味的には「尽きる」の「る」が略されている事がわかり、その場合の「つき」なら「運が尽きる」で *lucks over* か *all lucks have gone*.

となりまるで反対の意味になります。当然ここでは後者なのですが、何が言いたいかと申しますと諺や格言などでは意味よりも言い易さ、音韻を先んじる傾向があるという事です。其れは耳にしたものが覚え易く、口にしやすいようにそうするのですが、この辺は注意しないと音韻優先のあまり言葉足らずで説明不足になっていたり、本来の意味がずれてしまっていたり、下手をすると正反対になっていたりする場合があります、にです。

ですので、口にしやすい諺や格言と言うものを鵠呑みにしてはならない様な気がします。其れこそ「口車に乗るな」でしょう。譬え世の中に流布している諺や格言であっても、一度は疑って自分なりに探偵してみる必要性を最近感じております。

●ミニ「オマケの英語教室」ad lib



アドリブ、詰り即興の事を英語では ad lib と書きます。

Ad は advertise 「広告する」の略とも取れますし add 「付け加える」の略とも取れます。

Lib の方は library 「図書館」の略とも取れますし liberty 「自由」の略とも liberation 「解放」の略とも取れます。

因みに rib と書くとスペアリブなんかでお馴染みの「肋骨」の意味になります。

余り余談に踏み込まない内に本題戻ります。

さて、即興の事を何故 ad lib というのか？です。

其れで思いついたのが

Liberty or liberation from ad.

邦訳「やらせ商業広告からの自由又は解放」

要するに台本アリアリの出来レースからの解放、自由になる、その場の思い付き、流れに任せる即興（即、その場の余興）の事を ad lib というようになったのではなかろうか？と。我が国では聴衆が知らん間に即興しているのがタモリ。アメリカなんかでは有名な処で Jazz session なんかがあります。

コレマタ因みにタモリの芸名は本名、森田の逆さ読み、書き手名、うときゅういっき は本名、宇都宮一貴の音読みで御座います。

有史開闢以来のウルトラ超自己宣伝にて、締めくくり。

●ミニ「オマケの英語教室」Once more again, make it more broad, please.



前にも申し上げましたが兎に角日本語アプリにはいい加減ウンザリさせられます。確かに和文を英訳する方が遥かに時間はかかるのですが、日本文の場合には矢鱈目ったら間違いを示す赤波線がそこそこに現れ捲って直すのに相当なる時間がかかるからです。例えば本文作成に要する時間が 1 時間だとすれば、その直し主体の推敲に 3 時間とか。因みに英訳はその比率で行きますと 4 時間くらいです。結果和英両文章の脱稿時間が同じ時間かかる事になってしまう訳です。

赤波線の例を挙げますと

「待てど暮らせど来ぬ人」の「ど」に赤波線付きまくり。

「帯に短し襷に長し」の「し」に又赤波線二つ。

古の慣用句出自のものほどダメ。

その他にもえっ？こんなのもダメなの？一体どこが悪いのよ!!とイライラしてきます。

先ず日常使っているようなものはほぼダメ。方言も発音と表現文字が違うとダメ。句点「、」のぬかしもダメ。

逆に今の若者言葉は文法的に大半が変なのに、それは Ok と、なんだかわけがわかりません。

明らかに若者層に売らんが為のダブルスタンダードの様な気がしないでもありません。

じゃ、昔言葉を多用する爺の私はどうすりゃいいのよって、でしょう？

しかし何故そんな事に躍起になっているかと申せば、日本語を勉強している外国人さんが日本文を見て英訳しようとする、赤波線の付いた文言は訳されないか誤訳される可能性が高いからです。それではせっかく日本語を勉強する気になっている外国人さんに対して失礼極まりありません。

そう思うと、赤波線をモグラたたきする、のに躍起にならざるを得ません。

それでも赤波線が消えない場合は、その方が、明らかに意図が伝わり易いと思われるその文章を消して、新たに全く違った文章、場合によっては筋立てを変えて迄書き直す場合もかなり御座いますので、トータル推敲時間がどんどん伸びて、日本文書き始めから数えると合計時間が 4 時間にも及んでしまう事が訳です。しかもこういったケースが頻繁に起っているのです。

日本人で、且つもう 10 年近く書き物をネットにあげて来た自分でさえこの有様ですから、外国人さんには先ず無理なような気がします。何処が悪いのか？ナニを間違えたのか？ほ

ば絶望的になってしまうでしょう、日本語学習に対する意欲が。

逆に言えばこれじゃ日本の方々だって文章を書くのがイヤになってしまいます。途中でほっぽり投げたくなるのも仕方ありません。

で、ソノ先そういった方々がどうするかと申せば、今盛んにその功罪が取りざたされている Chat GPT だったりする可能性がなくもない訳ですから。

自分の観察によれば、わが国、国民諸氏、特に若い方々の国語力の低下は、何のことはないこの余りにも過剰な、厳密且つ細かすぎる文法文則の運用に、その大きな一要因がある様な気がしてならないので御座います。

要するに我々日本人が異常に細かすぎるために「そこ迄は付き合えないよ、幾ら何でも」
と思ってしまう（と言うのも自分の親や上司がそこ迄細かかったら、皆さんどうします？
と訊きたくするような態度でいる我々同様）それが当然な世界の人々との接点を失っているのではないかと言う危惧を抱いておるわけで御座います。

我々は他者に対してもう少し寛容にならないと、自らの現在を防御するあまり、却ってその不寛容が仇となり、意とは逆に最後、何もかも失ってしまう事になるかもしれませんから。国内の報じ同士の間においても、外国との付き合いにおいても。

●ミニ「オマケの英語教室」 explore and explosion.



Explore はマイクロソフトのブラウザ explorer でお馴染みの英単語、邦訳「探索する、探索周遊する、捜し歩く、探し回る」です。

処が、explosion「爆発」が此の explore の語幹と全く一緒なのに気づいて「えっ？」と思ってしまいました。Explore と explosion。探索と爆発。

で又例によって分解。Ex + plo。

は、ひょっとして ex 外、出る。Plo は pole の変形で南極 south pole や北極 north pole 何かの pole「極」の意味？

だとすれば explore は「極の外に出る」と言う意味にも取れそうだ。

一方 explosion「爆発」は「力の抑え込みの極限を超えた現象」と言い換えるとどちらにも「極」と言う文字が出てくることになる。

となれば語幹 explo は「極（限）外（超える）」「或いは未踏の地（状態）に一步踏み出す（踏み込む）」と言うイメージなのではなかろうか？

と思った次第で御座います。

(コメント)



以前上梓申しあげました「こういう場合どうすれば良いんだろう？」でお話申し上げた経緯のある、唯一自分を無言裡に指導して下さる親方様が3週間ほどお店を休むことになりました。

兎に角無事に戻って来てほしいだけ、その一言だけで御座います。ハァ〜。

●ミニ「オマケの英語教室」a la carte or a la mode? No idea!! No option.



Anyway 兎に角（どんな道であっても）

By the way ところで（今迄の話を道の脇に置いて）

Subway 地下鉄（地下の道）

The subway ドックサンド・ブランド名

Submarine 潜水艦（水面下のマリーン）

Yellow submarine ビートルズ曲名

Sub culture サブカル（裏文化、地下文化、脇文化）

Subscription サブスク（その下、脇にある口述（記述）ノ事：料金定額払い）

今日は余りはしゃぐ気にならないので、以上です。

● (コメント) 及びミニ「オマケの英語教室」 commentary.

(日本の方々へ)

今迄この原稿用紙3枚以内シリーズの内外国人が登場する英訳付帯の作物をかなりの数書いてまいりましたが、「恥」「臆病」「卑怯」「裏切り」「私事」等の単語が登場する今回の作物。我々邦人が抱く感覚と外国人さんが其れに対して抱く英語の感覚の違いに戸惑う今回ほどその英訳に苦しんだことはありませんでした。

ですので、今回の英訳には全く自信がございません。ご参考程度にお読みくださいませ。

● (comment)



(To English speaker readers)

Until now I have written so many short-short novels here, but it's the first time to feel translating so difficult from Japanese language to English. Because I this this novel used words “恥(shame)” “臆病(brave-less)” “卑怯(dirty manner)” “裏切り(betray)” “私事最優先(me-ism)”, for these concept held sense quite different between Japanese people and foreign countries people, forecasted, then I couldn't have done translation smoothly, never in this time.

Therefore, please above translation into English, please treat it as a reference level, sorry.

Thank you so much.

(コメント)

英訳、ムズカシィ〜!!

●ミニ「オマケの英語教室」one for…



加賀の千代女が詠んだという歌で

「朝顔に釣瓶採られてもらい水」

と言うのがございます。

自分が大変気に入っている歌ですが、是を聴いて思い出した CM がございます。

紅茶メーカーの CM で、まずお湯をポットに注ぎその後に紅茶葉を入れるシーンだったと思いますが、紅茶葉をポットに入れる際に

One for you, one for pot”

と言うのです。

シーンも国も時代も違うのですが、自分の中では洋の東西、時空の差を超えてこのくらいドンピシャな一致はないような気が致したのです。学生の頃の話でございますが。

●（コメント）

前回、前々回に引き続き今回。ほんと英訳に苦労しております。

其れと言うのもピンポイントで言いたい事が英単語では、余りにも幅が広すぎて言いたい事が伝わるのかどうかまるで自信がないからです。その為矢鱈説明口調の文章ばかりが増えてしまいました。もちろん辞書を根気強く引き続けば其れに該当する英単語は見つかるのですが、使う単語は成る丈中学で教わった範囲と街で目にする単語の範囲に限っている自分からすると其れは邪道な気がしますし、お読みになられる外国の方が必ずしも日頃目にする単語とは掛け離れた「特殊語」であってはならないとも思うからで御座います。其れに日本と外国の同じ言葉に対する心象の抱き方の差、読み手との状況の差、暮らし向きの差なども御座いますし。

なので、矢鱈時間ばかりが掛かり、その時間の割には手ごたえの方はあまり感じられないので御座います。

●ミニ「オマケの英語教室」dancing, dancing.



当店では、例えば売上が思った以上に行った時とかキレイなお姉ちゃんとひと時の会話が出来た時等に good とか happy とか言う単語は全く出て来ず、押しなべて dancing, dancing のワンフレーズで済ます傾向があります。勿論阿波踊り風の振りを、付けてです。そう言えば dance とも言わず必ず dancing と言っておりますね。

疲れた時やがっかりしたときは tired とか disappointed とも言わず唯大袈裟にため息をついて haa~a と息を絞り出したり sigh!!と言ったりしております。

ある外国人さんが英語は国の数だけあると言っていましたが、自分の感覚ではもっと細かく、英語は職場の数だけあるという処でしょうか、ね。或いは、その場の数だけ。

だとすれば厳密より臨機応変を目指した方がいいという気も致しております。

●ミニ「オマケの英語教室」succor



我が国ではサッカーはサッカーと言いますが、国によってはサッカーをフットボールと呼んでいるところもあります。因みにヘルメットをかぶってライスボールを投げるのはアメリカンフットボールと呼んでフットボールとは区別しております。

サッカーを古来日本語で言えば蹴球（球蹴り）ですから本来なら succor よりも football の方がやることそのものをよく表している気が致します。

では succor とはどういう意味なのか？をマタマタ考えてみました。

Succor は su + ccor と分解できます。

Su は super などでお馴染みの「超える」「超」という意味があります。

では ccor は何なのか？

其処で思い出した単語が occur です。「起こる」とか「現れる」とか「生起する」とか言う意味です。ジャスト happen ではありませんが happen に近い意味です。

其れで是を続けますと「超が起る」となります。「凄いことが起る」のがサッカー。

と言う意味なのでしょうか？

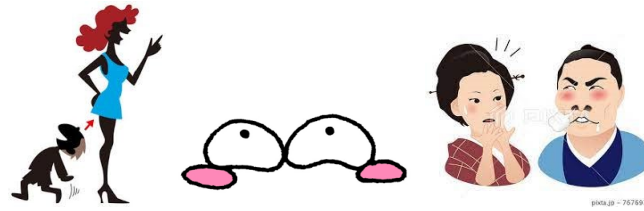
だとしますと、football は動作、物理表現的で succor は価値観、概念表現的な差なのかもしれません。

因みに occur の o は光とか目を意味します。Optimism 楽観（向日性）主義、optical 光学、obvious 目に見えて等の o です。

なので、occur は「目に見えて生起する」「生起して目に見えるようになる」という意味だと思っております。

是は自分の感覚ですが、occur と happen の区別は occur がじわじわ目に見えてくる感じなのに対して happen は突然ピョンと飛び出てくる感じで使い分けております。

●本日は気分を変えてミニ「オマケの日本語教室」スケベ（助平）



英語でスケベの事を *pervert* と言いますが、他にしらないのでこの英単語を使いながらも「本当にこれでスケベのニュアンスが外国人さんに伝わっているのだろうか？」と些か不安になります。

其れと言うのも日本語のスケベ、助平に対して英語の *pervert* が発音、字面ともハイソ感満載で、泥臭さ、エロ臭さ、貧乏人のお得、お楽しみ感がないからです。

語感的には *pussy* の男版で *bushy*（もちろん手前どもの造語です）とかなら何となく「だよね～」なのですが。

さて、ここからが「オマケの日本語教室」です。

では何故スケベを助平と書くのか？そもそもスケベの由来は何なのか？が疑問に思えてきました。

思いつく儘に書きますと

水戸黄門の従者助さん角さんの内、助さんがスケベだったからとか。

戦前覗きの常習犯で捕まった男が出っ歯の亀吉と言う男だったことから覗き魔の事を出刃亀と言うようになった例から「好き者の平左衛門」が訛って「助平」と言うようになったとか。

そう言えば女の事を何故か「俺のスケ（助）に手を出すんじゃねえ」等と言う場合に使われるように助とは「女」を意味しているようです。何故「スケ（助）」が「女」の符牒なのかは知りませんが。

とすれば「助平」とは「平たく（詰りあまねく、あっちの女（助）に手を出し、こっちの女（助）に手を出す輩）と言う解釈も成り立ちそうです。

しかし自分は何でこんなことにこう迄時間を費やしているのでしょうか？？？…？

(本編)

第 2 1 集

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」joke, joker, jokest?



Joke は冗談。Joker はトランプでは「ばば」

ばばとは婆さんの事ではなく「糞（クソ）」の事で、別呼「ばば」と言っております。

ですので、トランプの「ババ抜き」と言えば「婆さんを仲間外れにする」事ではなく、ばば「糞」を引かないようにする事を指して「ババ抜き」と言っております。正しくは「ババ避け」でしょうか。

このように我が国では joke（冗談）と joker（ババ）は全く別の意味になっておりますが、英語では joke と joker の語幹は一緒です。

では、何が共通しているのでしょうか？

で、またまた考えてみました処、こうゆう解釈が成り立ちそうな気がしてまいりました。

つまり joke を冗談とは訳さずに「悪ふざけ」と訳すと joker は「悪ふざけをする奴」となり、それをさらに一歩進めると「悪さをする奴」詰り「クソ（野郎）」になるのではなかろうかと。

で、序ですので、joke 原形、joker 比較級と見做すと jokest(こんな英単語はありません。自作です)は「悪ふざけここに極まる」となります。しかし是ではまるで芸がありませんので、ちょいと一計。

Jokest（読み：ジョークエスト）を日本語で「情消すと（ジョークエスト）」にあつらえ直しますと、joke, joker, jokest は

「冗談も悪ふざけ程度ならまだ許せるが、度が過ぎて情を消すと、とんでもないことになりまっせ」と言って言えなくもなさそうです。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」 concern and concert.



本編を書いていて気付いたのは concern と concert の語幹が同じ concer である事でした。コレマタ意外や意外。

「気遣い」と「コンサート」が同じ語幹。一体どういう関係？

そう言えば昔、コンサートと言えは発祥の地英国ないし欧州ではコンサートと言えはクラシック音楽のコンサートであったはずです。ですから、今の様にコンサートに行って客席でペンライト振ったり、タオルぶん回したり、拳を天井に向けて突き出しながら飛び跳ね上がったりとかは当然なく、ただひたすら演奏と周りの視聴者にご迷惑の掛からない様、静粛に資する事を「気遣って」居たであろうことは容易に想像できます。

となればコンサートとは「静粛にする気遣いの場」で concern 「気遣い」と一脈通じるのではなかろうか、と。

今日も今日とて勝手な想像、タダで楽しめ、あな、面白し。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」hidden success story, all make-upped by cosmetics.



日本語で「寿司」は英語で Sushi

日本語で「天ぷら」は英語で Tempura

日本語で「津波」は英語で Tsunami

日本語で「勿体ない」は英語で Mottainai

日本の歌で坂本九の「上を向いて歩こう」は英語で Sukiyaki song.

ヒット当時、未だ我が国が世界で知名度が低かったために、辛うじて知名度の高い「すき焼き」の名を冠してこの英名がついたとか。

しかし当時の欧米人から見て本当に「すき焼き」が、一番知名度が高かったんでしょうか？自分のつたない経験では「すき焼き」よりむしろ「寿司」とか「天ぷら」の方が、知名度が高かったような気がするのですが、それでも何故その二つを押しつけて「すき焼きソング」というキャッチフレーズを付けたのか？

思うにこれは「ヒット当時、未だ我が国が世界で知名度が低かったために、辛うじて知名度の高い「すき焼き」の名をつけた」と言う業界裏話的なこの部分に嘘があるのではなかろうかと言う気が致します。

詰り真実は「寿司も天ぷらも有名過ぎて新鮮味が逆でない。だったらまだあまり知られておらず、歌が外国でのヒットで我が国に逆輸入された場合にも通用する人気三番手の「すき焼き」の名を冠そう」という事だったのではないかと言う気が致しております。

要するに説明が長すぎても二転三転の起承転結でもイケナイ。短く起承結で端折った方が得策だろう」と言うのが本筋ではなかったろうか、とも。

早い話、業界裏話などで本当の「裏」等出てくるはずがないが実態でしょう。世の中、自己都合による手前味噌的、脚色だらけなのです。真相は誰の目にも触れぬまどこかへと流れ去っているのかもしれない。コワッ。

ん？それとも単に音調からきているの、カモ？

寿司ソングじゃリズムが悪い。天ぷらソングだと音調は良いが英訳したときに fried がついてしまい、fried potato を連想させてしまい、何となくべとべと感（油手、食い過ぎて肥満の素）がある。そこで寿司的格式と音調の良さで「すき焼きソング」となっただけなのか

もしれません。

まあ、いろんな事情があるのでしょう。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」like



中学の英語でかなり最初の頃に like は「スキ」と教わりました。

しかしその後この like を使ったものの中で be likely to 「しそうな」とか like a 「のような」と言うのを覚えました。

「ん？」

Like は「スキ」がメインなの？「のような」がメインなの？どっち？どういう関係？

ぱっと見、全然関係ないように見えます。

もし、是を一つにするとすれば「スキ」と言う断定ではなく「スキ、みたいな」とかなりあいまいな感じになります。

一方 love は「愛する」で、マックのコマーシャルでよく出てくる「I loving it!!」これがむしろ「スキ」に当たるような気がします。こちらの方が like より断定的で love 程重くはない、その中間。

なので、自分は「スキ」を文章で表現する場合、よくこの loving it を使う傾向が多いようです。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」知った被り



今日は日本語教室です。

知らないのに知っている振りを装う事を「知った被り」と言います。

知っている顔の「被り物」をするという意味でついたのでしょう。

同じ事、詰り知らないのに知っている風を装う事を別の言い方で

トトカマと言います。

逆に知っているにもかかわらず、かわい子ぶって知らない（うぶな）ふりをする事を
カマトトと言います。

この場合のトトは「お魚」であることは容易に分るのですが、
それではカマとは何なのか？

是で思い出したのがカマキリ。

鎌状の鋭い腕で草などを切るイメージから付いた名前なのかもしれません。

或いは実際に切ることができる、のカモ。

で、カマトトなりトトカマのカマが「鎌」だったとすると上記二つの意味は
カマトトが「鋭い鎌を持っているのに何も持たないお魚さんの振りをする事」
トトカマが「鋭い鎌を持っていないお魚さんのくせして強ぶって見せる事」
となりました。

「ねえ、ねえ、アンタそんな事やっても一銭にもならないのに、何でそんな事ばかりやっ
てんの？」

と又訊かれましたので

「一銭にもならないけど、遊ぶのに一銭もかからないからだよ。それに是が自分の趣味な
んだからしょうがないでしょ」

とお答え申し上げました、マル。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」the and a



自分の中学時代の英語では

The は定冠詞。世の中に其れしかないものや既に会話の中に出て来て特定できるものの前に冠します。

A は不定冠詞。特にそのような縛りの無いものの前に付きます。

と習いましたが、実際に英文を書いてみると、どうもそれだけでは説明が付かないものが結構出て参りました。

例えば上述の定義で言えば the を使うべきところで a だったり、或いはその逆であったりする場合が多々ある様なのです。

それでこの件につきまして本日は自分なりに考えてみました。

まず自分が今書いている英語は、基本的には外国人さんとの会話の中で自分の耳に残っている音韻がベースになっております。

その音韻と、書いている文章のリズムが合わない場合は外国人さんが喋った音韻を優先させております。その結果、定義と合わない部分が多々出て参ったという事です。

で、考えついたのは the とか a と言うのは、確かに上述の定義に即した面もある事はあるのだが、それと同時に文章の流れやリズムを発音し易い様に滑らかに整える、此处は the の方がいい、此处は a だろうなど、一種の調律チップのような役割「も」持っているのではなかろうか？という事で御座います。

ですので、多分外交文書などでは定義優先。会話では音律整え優先になっているのではなかろうか？と。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」 prep. School.



アジアでは兎も角、日本語で言う処の「予備校」というものを英語では prep. school というのですが、外国人さんと話していてその呼称を余り聞いたことがありません。

そもそも prep. School とは school for preparation つまり準備の為の学校の事で、単にその状態を述べているだけに過ぎません。価値判断は何処にも入っておりません。我が国で言う「予備」詰り「未達」「脇」「オマケ」と言うニュアンスは何処にもないのです。後ろめたさも恥ずかしさも入り込む余地はありません。

が、しかしわが国ではどうも変なニュアンスが付いて回ります。周りにも本人にも。

確かに日本語の「予備」そのものは「予め（あらかじめ）準備をする事」なので言葉そのものは問題ないのですが、どうもその原義がある時点から妙なニュアンスを含むようになった気がします。

何と申しますか、英語で言うと spare（スペア）。スペアキーなどと呼ばれるアレです。

この辺我々は英語のみならず日本語の原義に「も」遡って扱う必要を最近とみに感じております。

原義に含有されている意味には「恥ずかしい事」「後ろめたい事」「未達未熟」な事としての意味は全く含まれていないのですから。

通われていらっしゃる方はもっと堂々としてよろしいのではないかと思います。

因みに自分は私立高校入学に当たっては全ての高校受験で 2 次補欠入学。大学は留年 2 回で御座いました。

補欠入学でしたが事前予測合格確率 10%以下で「当たればめっけもの」と担任に謂われていた自分で、二発連続などあり得ない奇跡でございましたので、ずっと陰で親が裏口入学金を払ったから入れたんじゃないかと疑っておりました。

とはいえ、取り敢えず現在、ビンボウながら毎日呼吸だけはしております、ハイ。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」 market



市場（しじょう）の事を英語で market。

小学校確か4年生くらいで社会科見学に行ったのが「青果市場（せいかいちば）」

日本語でも同じ漢字で読み方が二つ「しじょう」と「いちば」

一方英語の market は分解してみると意外な事に mark + et。えっ、マーク？印？

であることに突然気付きました。

全部通してみると、何か頭が混乱してしまいます。

で、少々お休みの後、

「門前市」「朝市」「蚤の市」これらは皆、大層昔の王様がいらっしゃった頃のお話で、その王様の許可を得て開いたのがこれらの「市」だとすれば、その開いていい場所にマーク（御印）を付与した場所が「市」

或いは王様を善王ではなく悪王だと考えると「市」によって農作物に掛けていた年貢と言う納税額が減るのを恐れて「市」に「監視マーク」を付けたのが始まりとか。

いずれの場合にせよ market は marked place（マークを付けられた場所）の place が略され且つ訛って market になったのでは、なかろうかなあと思います。

この頃の規模は小さくて日本語で言う処の所謂「いちば」でしたが、その後、商品経済が発達するようになると規模も大きくなり、国を覆うほどになっていきます。そうになると「いちば」では何となく実感にそぐいませんで訓読みから音読みに変えて「しじょう」としたのではないのでしょうか。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」 tippy



tip (チップ) って別に「心付け」の方ではありません。

Potato tip (ポテチ) とか木材 tip とかの方の tip (チップ) に纏わる話です。

そちらの方の tip を日本語にすると「小片」という事になります。或いは「ちょっとしたもの」「取るに足らないもの」

今から 10 年程前、自分はそれ迄の 12 年間に渡るうつ病体験をもとにメンタルヘルスケアのコンサルティングをしていた時期があったのですが、クライアントに渡す成果に足して相手から頂戴する対価が果たして釣り合っているのかに疑問を感じ、とてもお金を頂戴できるような代物ではないと、その稼業を止めてしまった事がありました。

その時思ったのは「成果と対価は矢張り均等でなくてはならない。其れがはっきり目に見える物じゃないといけないな」という事でした。

其れでその後、散々あちこちに手を出した後、現物を扱うカーリー屋稼業を始めたのですが、そこから見るとそれ迄の自分のコンサル稼業が如何にも「まやかしもの」臭く思えて、それを何とか当作物本編の英文内で表現したかったので、最初 guy (野郎) という単語を置いて見たのですが、其れですら立派に見えたもので、更に探して次は tip (木っ端野郎) と致しました。しかしそれでも未だ「下げ」が足りない気がして tiny tip の連想造語で tippy と言うのを最終的に宛がってみました。

造語ですから当然単語の下に間違いを示す二重赤波線が出るものとばかり思い、ダメ元勝負で書いてみたのですが、豈図らんや二重赤波線が付かなかったのです。

何が言いたいかと申しますと、英語と言うか語学と言うものはそういうものだという事です。

言葉と言うのは、実は文法先にありきではなく、その場に応じてどんどん新しいものが生れ、且つ又作り出せるものだという事で御座います。文法は常にその後追いで、整理の為にある道具に過ぎない。

この順番は間違えてはいけない後先順だと思っております。

我が国の受験では「文法」が先ですが、実会話では絶対に「現場コミュニケーション」が先です。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」holiday



今日はお店の定休日。だからと言う訳でもないのですが、本日のミニ「オマケの英語/日本語教室」は多少軽く。いかんせん眼精疲労が甚だしいもので。

それで本日はショートショートで。

Holiday の元は Holly day なのではなかろうか？と。

♪Silent night, holly night♪邦題「きよしこの夜」の歌詞の中に出てくる holly、「聖なる」「清なる」と言う意味です。休日は「聖なる日」「清なる日」で「静（か）なる日」とも。ではなかろうか、と。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」 mental troubles



うつ病を英語で正確に訳せば melancholia らしいのですが、外国人さんにそういう言い方をしてもまるで通じていない様でした。全くの無反応。

えっ？なんで？

仕方がないので mental sick というと melancholia よりは今少し強めの反応がありましたが、それでもイマイチ実感がないような感じでした。

そこで今度は mental troubles とか mind down mode というと「あっはあん」と合点がいった様でした。

ですが反対にうつ病に罹患した経験のある自分の方は mental troubles とか mind down mode では「おっとり刀過ぎて、あの呼吸困難に切羽詰まり、胸をかきむしりながらのたうち回る様な地獄の苦しさ、を伝え切れていない」気がしました。

こう言う処はやはり単に辞書を引いて、その第一番目にある訳語を持ってきさえすれば済むというものではない代表例の様な気がしております。

ですので、今回は双方の要件を満たす訳語をこの書面内では書ききれておりません。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」 recommendation of to translate according to TPO.



本編中、ダメ元のダメを除き、日本語では同じ「ダメ」を英語にすると、此处では

Waste

NG

No choice

3通りになりました。

普通は英語を日本語訳にするとぞろぞろ色んな日本語単語が出てくるのですが、今回はその逆でした。

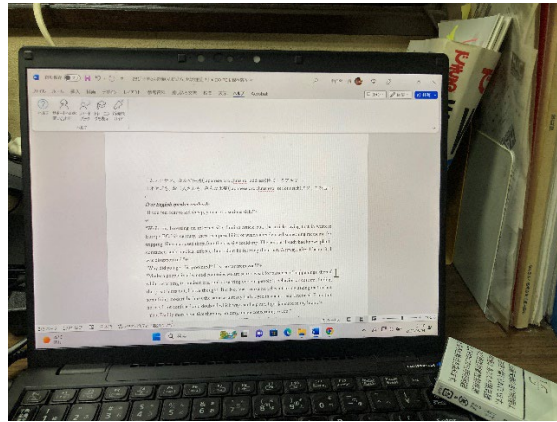
矢張り訳というのは、その時々前後関係や雰囲気、登場キャラクターなどの変数で種々様々にかわりますので、辞書ばかり頼りにしておりますと読み手には何のことだかさっぱりわからない、イメージ形成が出来ないものが出来上がってしまいます。

因みに従業員が言う「ダメ」は、文字通り No でもいいのですが、通常 staff が owner に対してそれ程強い言い方は致しませんので、敢えて少し弱めの NG, No good (よくない) に置き換えました。

又、本編中で adult という単語が出て参りますが、是を代名詞で言うときに they になったり時に we になったりしております。主語が隠されている事が多い日本語ではそのような事はあまり起こらないのですが、英語でははっきり違いが出てしまいます。ではこの場合不統一という事でダメなのかと申せば、adult を、代名詞 they を使って代用させた場合、話者から見て adult を客観視してみている事になり、we を使って代用させた場合は自分の事として主観的に扱う、その時々話者の心理変化を表しておりますので、決して間違いではないのです。此の PC に内蔵されております和英辞書からも間違いを示す赤波線が発動される事は一度も御座いませんでしたし。

そういった英語特有のフレキシビリティを意識しながら可能な限りその場の雰囲気を醸し出せるように今後は訳を進めていきたいと思っております。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」 old generation`s will.



矢張り英文を書くのはかなり疲れます。辞書を引けばもっと早く書けるのかもしれませんが、それではつまんないし、第一 chat GPT なんぞにも負けたくありません。是は旧世代のジジイの意地で御座います。

因みに日本語の「意地」は「意思」又は「意志」（いずれも発音は ishi）が濁って「意地」になったのではないのでしょうか？

意思または意志を力んで言ったら自然と「イジ」という発音になっていたから、とか。つまり「意地」の「地」（発音は jji）は音韻上の当て字。

それでこの教室のタイトルの「意地」に will 意思、又は意志を充ててみた訳で御座います。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」golden week



外国で golden week という謂い方を聞いたことがありません。大抵は vacation と言います。但しこの際の vacation は長期休暇で且つたいていの場合遠くに出かける事を指しているようです。期間は大概 1~2 か月かそれ以上なので、たかだか連続 10 日間ほどの休みに golden なんてつける気にはならないからでしょう。

このあたりが欧米を中心とした外国と我が国の休暇観、勤労観の違いがよく表れている気がします。

因みに自分は離婚して以来ですが、この 17~18 年間ほど golden week は休養週間ではなく仕事週間で御座いました。

会社員時代は残り仕事や頼まれ仕事のお片付け。

起業して初めの 5 年間はプランニング週間。

カレー屋を始めてからの直近 5 年間は書き入れ時。

今年の GW は休み明けの業者支払の金作ばかり。

早く自分も 1~2 か月フランスのカヌとかニースにバカンスに行け、木陰でカンパリソーダなんかをチューチューやりながら、白浜で繰り広げられる出っ尻鳩胸外国人姉ちゃんたちの大胆且つ奔放な有難いお姿を眺めて午後のひと時を過ごせるような身分になりたいものだと思っておりますが、ま、他界後、フランスに化けてでも出ない限り、存命中は無理の様です。

因みにバカンスという謂い方はフランス語なのだ、そうです。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」Never aim the hit chart on, as a target.



回転音、華々しくふかし、電動草刈り機で、庭で伸び放題になっていた草を刈っていたのですが、人間は寄り付かないのに、何故か遥かに体の小さな小鳥が何羽か電柱に止まって「チーチー」盛んに鳴いておりました。

「何で逃げないんだ？ナニをチーチー言っているんだ？」

と不思議に思いました。

それで「そうか、こいつら俺がイジメないのを日頃から見ている寄って来たんだな。意外と鳥には人気あるかも、俺」

と一人悦に入っておりました処、突然黄足長バチが目の前を飛び回り始めました。黄足長バチは以前その「巣が出来ておりますよ」とご近所の方に注意され、業者さん呼んで巣を撤去してもらった経験から「小さいわりに刺されると大事になり易い」ことを聞き知っておりましたので、慌てて家の中に逃げ込みました。

と、その瞬間

「そうか、草刈り序に土を掘り返すもんだから、土の臭いが立って小鳥の嗅覚に届き、そこから餌になる虫が取り易くなる事を連中は本能的に知っているから逃げないんだ。逃げないというより、俺が居なくなるのを待っているんだ。鳴き声は「餌、あるよ。でも未だ人間居るからダメだよ」とでも言っているんだろう。こいつは今、先験偵察隊の役柄なんだ」

と思い当たりました。

小鳥が人間の人格何て見抜くわけがない。餌と言う実利関係だけだったんだ。

と言う訳で、余り人間の目線からだけで、自分にばかり都合よく脚色してはいけないよなあ、と反省いたしました。

偶然にも自分が家の中に引っ込んだので、外ではもう小鳥たちのエサ取り大会がはじまっているかもしれません。出ていくと邪魔になりそうなので、家の中でじっとしております。

(朝 10:30 に記す)

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」Namaste Everybody means Hello Everybody.



Namaste(ナマステ)はネパールやインドで使われている挨拶の言葉です。おはようございます。こんにちは。こんばんは。さようならとなんでも使える万能の挨拶言葉です。

ですので、Namaste Everybody は代表例で言えば「こんにちは、みなさん」という意味です。

何処の国でもそうですが、挨拶って結構大事なのですよ。なにせ親しくなる最初の一步ですから。たかが挨拶ってみんな結構笑いますが、でも是をしない事には、いつまでたっても親しくなれませんのですけど。

お偉いさんや外国人にするだけじゃなくて、全然偉くない一般ピーポーにもした方がいいと思うんですけど、お互いの「袖擦り合うも他生（多少）の縁」のチャンスを見つける為にも。

だってチャンスって、何処に転がっているか人知では計り知れませんから。

チャンスはいつもひょんな事から、瓢箪から駒、で始まる事が大抵ですから。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」 ax, ax.



日本語で言う処の「アワワ」に当たる上手い英語がなかなか見当たらないので取り敢えずいつも ax, ax で済ましておりますが、日本語で「アワワ」と打ち込むと「泡話」と言うのが何故か出て参ります。泡みたいな話。泡沫候補と言うのはよく聴きますが泡沫話と言うのはあまり耳にしません。

しかしよく考えてみれば自分の書いている物は数こそ多いのですが中身は将にこの「泡沫話」ばかり。

耳に痛いやな単語を引き当ててしまいました。

其れは兎も角、この「アワワ」の語源は恐らく「泡を喰う」「慌てふためく」あたりからきているのではなかろうかと思えます。

英語にすれば fall into panic か got panic と言った処でしょうか？

処が将又この panic と言う語。

外国人さんはこの語を余り大袈裟な語だとは思っていない様なのですが、我が国では「パニックに陥る」とか「パニック障害」など、かなり大事（おおごと）な場合に使われる傾向があります。

なんとなく「大混乱」とか「世も末じゃ」「アルマゲドン」みたいな響きです。

仕方がないので、少し和らげたい時は fall into panic mode とか got in panic mode 等 mode を最後に付けて幾分和らげております。

それにしても、英訳するのもいろいろ大変です。それこそ fall into panic mode now です。

でも長年の苦手を解消した快感が忘れられず、その手のタイヘンが余り嫌いじゃなくなってきたのでやってはいるのですが、しかしながらこう迄毎日続くとなると、それはそれなりに嫌気もさしますし疲れもします。

いっそ日本語だけにしようかと何度も思ったのですが、乗り掛かった舟なので致し方なしで御座います。

と申しますのも股割き状態というのは気持ちの上では相当なる負担になるからで御座います。其れを避けるには船に乗るか、岸に残るかの二択しか御座いません。で、いっその事なら船に乗ってしまえ、のエイヤ決めで取り敢えず船出した次第で御座います。

(追記)

因みに今迄「渡りに船」の幸運は、一度たりとも自分には御座いませんでした。

しかし今になってみると運不運の別は世に言われる程、決定的なものではなく、単にやってきたものをやり熟(こな)すだけ、の事の様な気がします。

このフレーズは「成功、失敗があるのではない。唯経験があるだけだ」

とネットに載っていたのと、

自分の親方が「どんなものでも、一つ一つやって行けば、いつかは終わる (=クリアーできる)」と言っておったことにヒントを得たもので御座います。自分一人では到底考えつける代物では御座いません。ハイ。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」 no understandable but funny, then



今でも意味は全然分からないのですが、子供の頃耳にして面白かったので一発で覚えたのが

♪ちんちん、ちなばいば、なしゃりこ、しゃりばいば、あたちゃ、ちなばいば、ちの、ばいばい、ばい♪

と

♪でんでりゅうばー、でてくるばってん、でんでりゅうーばー、でーられんけん、こんこられんけん、こられられんけん、こーん、こん♪

の二つでした。

因みにこれをここで書きましたら意味不明か間違いを示す赤波下線が付きまくっております。

で、自分にも未だに意味のさっぱり分からないこの言葉を外国人の前で唱える？歌う？喋る？と結構な確率で笑いが取れます。

なので、自分は

「語学って、結局は意味よりも音なのかなあ」

とか思ったりもしております。

(注)

上述の「語学」の部分は「コミュニケーション」又は「良好なコミュニケーション」と置き換えてもいいかもしれません。私見ですが。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」haiku, hike.



俳句。是を英訳するのは取っても難しいです。

例えば写真一枚見せられて、17 文字（又は単語）以内でそれを表現せよ、
と言われたようなものです。

日本文学科ではありませんでしたが文学部出身の日本人である自分でさえこうなのですから、外国人さんの気持ちは推して知るべし、でしょう。

下手をすると haiku と聴いて hike 詰り山野周遊の事と勘違いしかねません。

と言う傍らから、そう言えば「旅に病んで、夢は枯野を駆け巡る」と言う辞世の句を残して鬼籍に入った俳聖、松尾芭蕉は旅の途中で亡くなったことを思い出しますとあながち haiku と hike は疎遠でもない様な。

しかし交通事情が悪い江戸時代に芭蕉が行った全国行脚の旅はとても hike と言えるような軽いものではなかったでしょう。

Travel でも trip でもない。ましてや sightseeing でもない。バスで乗り付けて 88 か所巡礼を終えたというお遍路さんでもない。

言えるとすれば精々 journey.

Jour 日々と言う意味のフランス語が語源の journey,

Journal 日々記載にも近い journey.

と言った処が一番自分の納得が許す範囲のもの、なのかも。

一応今回チャレンジはしてみましたが俳句の英訳は自分にとってはほぼ絶望的深淵で御座います。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」 scene and sound.



ここ何十篇か和英併記文で書いてまいりましたが、思うに英語は情景（場面）とリズム感をメイン（主軸）にして書けば大抵の文は出来てしまう様な気がしてまいりました。現にあまり文法を意識しないでも、それ程ベケを食らう事が少ない事が分って来たからです。もう少し端的に申せば「ノリ」です「ノリ」ノリで書くのが一番いいような。

となれば後は如何に「ノリノリ」になれるか、です。

長文読解、英文添削なんかよりこっちの方が遥かに大切に、しかしこの「ノリノリ」になることは今の我々日本人には却って難しいことかもしれません。

ですからクソ真面目な先生に英語を教えさせること自体、逆効果なような。むしろ英国で意外な人気を博したと伝え聞く「やたら明るい安村さん」なんかが英語の先生の方がいいんじゃないでしょうか、ね？

（コメント）

只今、Amazon kindle 撤退後の当社新 HP の大改造を昼夜兼行の突貫工事で行っております。その為皆様には多大なご不便をおかけしている事を深くお詫び申し上げます。

又、誤解されておられる方が何人かいらっしゃるようなのですが、先にも申し上げましたように「大手 SNS と電子ブック出版サイトから徹底する方向で検討に入りました」と述べましたように、電子ブック出版は兎も角も、大手 SNS から即日徹底する訳では御座いません。冒頭で申し上げましたように移行にはそれなりに時間がかかります。又当面の間、移

行する旨の「広報活動」もしなくてはなりませんし。その期間だけはご猶予戴きたく存じます、という意味で「撤退する方向で検討に入りました」と申し上げた訳で御座います。ご理解の程、宜しくお願い申し上げます。

又当方側も舌足らずなご説明、深くお詫び申し上げる次第で御座います。

(本編)

第 2 2 集

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」crush



Crush というのは邦訳すると「押しつぶす」(自動詞)となりますが、其れよりも「グシャ」の方が的確な表現の様な気がします。音韻も英語の「クラッシュ」と邦語の「グシャ」はどこか似ておりますし。

又この crush を使ってカーレースの「クラッシュ事故」以外にも倒産 bankrupt の代わりに crush or crushed を使って倒産を表現できる気がします。いやむしろ倒産に伴うイメージがより明確に伝わる気が致します。

こういう表現を使っても意味が伝わるところが英語の面白い処でしょう。

以前の記事で申し上げましたように英語は scene (場面想起をさせる描写) と sound (リズム感、音感) を軸に成り立っているということの、是もいい例でしょう。

後、マックの CM の話も我が国ではオヤジギャグとしてクサがられますが、外国人さんには結構ウケたりもします。なので、邦文には入れずに英文のみに入れたりすることにもなります。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」～ chan.



我が国では大人が子供を呼ぶときや、親しい間柄では名前に「ちゃん」を付けて呼びます。ですが、外国人さんは「さん」は付けますが「ちゃん」を付けて相手の日本人を読んでいるのを耳にしたことが嘗て一度もありません。

何故なのかは分かりません。

ひょっとしたら「ちゃん」は”Chan”。詰り「張さん」を指す中国語に聞こえているのかもしれない。

言い換えるとそこいら中、本人以外に必ず「張さん」がくっついて歩いている様な。

完全な法螺話です。

こんな話ばかりのべつ幕無しにしておりますので傍からは

「あの人、ココ大丈夫なの？」

と話者がアタマに指をねじ込む様にグリグリしながら、陰で指をねじ込む真似をしている方々からいろいろ囁かれているらしいのです。

追記)

Chan の飾り映像でラーメンどんぶりを検索したら是が出て来ました。

急に昔ながらの、木の蓋の付いた、兄ちゃんが肩に乗せて持ってくる、ほうれん草のお浸しと鳴門巻きとしな竹の入った日本蕎麦屋の出前中華そばが食べたくなりました。



●ミニ「オマケの英語/日本語教室」 off



日本語と言うのは世界に類を見ないほど「擬音」が発達した言語でしょう。

この物語で言えば「プスッ」又は「プスン」がそれにあたります。

我々はこれに慣れているからいいのですが、是を英訳するとなると英語はそれほど擬音の数が多くないので、ハタと困ってしまいます。

辞書を引くのもしゃくなので、今回は“Off”を充ててみました。

さて、外国人さんにはこの感覚が通じるのでしょうか？

それにしても、猿に「千擦り」を教えると死ぬまでやっている、とか、ナニをし過ぎたよく朝の太陽は黄色く見える、とか、千回ナニしてアレのストックがゼロになって打ち弾なしになることを「腎虚」というとか、今の若い方々は知っているのでしょうかねえ？

我々昭和世代には有名だった話の数々を。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」Ingri-Mongri



自分が大学生の頃、弟に教わった♪紀伊国屋文左衛門、大金持ち、大旦那。女の子スキ、色事スキ、元禄花見酒。夜ごと、夜ごとにお女中を、座敷に集めて、膝枕。ヨッ、ポン。イングリ、モングリ、酒池肉林、肉布団〜♪が未だに耳の奥深くにこびりついて離れず、それこそ夜ごと夜ごとに思い出してはニヤニヤ思い出し笑いをこらえておるわけですが、今ではこの何処の検索サイトを探し回っても載っていない名曲アルバム「水鏡」の「この可笑しさ」をどうにか英訳できないものかと散々パラ考えあぐねたのですが、結果「Ingri-Mongri」と表現するしか御座いませんでした。

要するに音の響きでその可笑しみを伝える以外には。と申しますのも、外国人さんは意外にも意味は分からず共この音のリズム自体が持つ可笑しみはある程度理解し、日本人の我々と共有できているみたいなので。

昨日に続いて、日本の擬音文化と言うものは、本当に世界に類を見ない「天上天下唯我独尊」の世界で御座いましょう。

注)

この「水鏡」の歌詞は今では歌詞本が全くないので、自分のうろ覚えで御座います。

どうも紀伊国屋文左衛門と大石内蔵助の歌詞がゴチャ混ぜになっているような気がします。と言うのも紀伊国屋文左衛門が元禄時代に生きていたのか？余り自信がないからで御座います。なので、大石内蔵助を主語にもってくると今度は大金持ち、大旦那が合わなくなり、結局これは自分が頭の中で合成してしまっているんだろうなあ、と結論付けざるを得なかったからで御座います。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」Nope



Nope。邦訳すると自分的には「ダメだ、コリャ」でしょうか。

No + Ups か No option の短縮形、の様な気がしております。

と、勝手に解釈して本編で使ってみました処、間違いや不適切を示す赤波線は付きませんでした。チャンチャン。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」Hello, everybody!! Kon-nichiwa, mina san!!



相手に何かを伝え、それを記憶に残したい場合には「コンセプト（考え方）」優先よりも、相手の連想のし易さに着目して組み立てた方がより効果的、効率的なのではないでしょうか？

例えば、ウチは商売をしているので、広報活動。

具体的に申せば、

私共が常日頃掲げている大上段のお題目の「国際間、世代間、たまたま隣にいる人との交流事業」等と言う、コムツカシイものではなく、あっさりと

「Hello, everybody!! Kon-nichiwa, mina san!!」

と言う何気ない呼びかけで組んだ方がいいのではないかとこの事で御座います。

上が自己満足出自、下がお客様立場出自。上だとピンポイント過ぎてお客様の連想が広がりにくく又お客様は身構えてしまう。しかし、下だと耳に入り易く連想も広がり易い。

これ以上申し上げますと「広報活動」が「宣伝の域」になってしまいますので、止めておくことに致します。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」 mutton vs. lamb meat.

是も以前お話したような気も致しますが、我が国では食べると硬いヒツジの親肉のマトンよりも食べて柔らかい子羊肉のラムの方が好まれます。

しかし、カレーの本場インド出身で、日本で働いておられる方々は、当店にお越しになった場合、マトンが手に入らないので高いけれど臨時にニュージーランド産のラム肉を使ってマトンカレーを提供しますと言ったとたん、ノーと言われました。

理由はマトンに比べてラム、詰り子羊肉の方が乳臭いからだそうでした。

処変われば品替わる。いろんな見方があるものです。

因みにマトンカレーを注文されるお客様は、他のカレーを注文されるお客様に比べてカレーの辛さレベルが高い傾向があるようです。例えば他のカレーを注文される方が高くて精々レベル 3（辛口）なのに対してマトンを注文される方は5（激辛）とかメニューにはない8レベル（日本風に言えば辛さ 20 倍カレーとかでしょうか）の辛さの物などです。

この傾向は不思議とインドの方よりは日本とか中国の方の方が多いようです。男女を問わず。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」erotic talks



艷話、是即交流的潤滑油也。

Erotic talks as a gris make communication smooth all over the world.

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」 topics



欧米諸国以外の人が話す英語は、我が国同様子音を母音に近く発音する 경우가非常に多いので聞き取り易いし、出てくる単語も自分同様、意外に中学までに教わった英単語が多いので読みやすくもあるのですが、欧米諸国人となると子音に母音が混ざることばまずないですし、使う単語も中学迄の知識では足りないものが頻出しておりますので、聞き取りづらく読めない場合が多々あります。

逆に言うと英語に慣れるには先ずは本場欧米諸国以外の English speaker と話すのが、英語に慣れる近道のような気がしております。

今の処まだ自分は、欧米人と英会話をする自信はありませんので御座います。

因みに自分的英語で topics を分解してみますと

Today`s picked up pieces.

からの短縮形で

Topics

となっているような気がしております。

欧米人に理解してもらえるかどうか分かりませんが。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」blue Monday.



うつ病罹患時代、12年間、毎週 blue Monday。

いや正確に申し上げますと、月曜日の前の日、詰り日曜日のお昼を過ぎたあたりから翌朝まで残す処、あと何時間と残時間を数え始めておりましたので、blue Sunday afternoon が的確な表現でしょうか。

兎に角会社に行きたくない。イヤで嫌でしょうがない。出社しなくていい、合理的な理由を考え続ける事が日曜日の午後の習わしになっておりました。

因みに当店でも日曜日のディナータイムはお客様の blue Monday 憂鬱のせいか、ご来店組数がガクンと減ります。特にコロナ明け、出社再開以降は。

ウィークデーに備えてのスタンバイモード醸成の為ならいいのですが。

其れは兎も角、現在自分は、幸か不幸か、今日が日曜、旗日なのかウィークデーなのか分らなくなるような生活をしておりますので、その手の憂鬱はなくなっております。もちろん当店従業員は法定休日、休息时间、有給休暇をとっております。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」 balance sheet and p/l report.



Acc Code	ACC NAME	actual balance	1 netamount	2 netamount	3 netamount	4 netamount	5 netamount
1111	Cash	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
1111	1 Cash	219,956.64	-13,435.45	-22,495.96	217,268.96	-42,268.95	51,000.00
1120	Bank B	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
1120	1 BANK C	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
1143	Account Receivable	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
1150	Inventory	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
1160	Advance Paid	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
1170	Prepaid expense	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
1180	Accounts payable	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
1190	Deferred payment	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
1200	1 Suspense payment	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
1200	1 Total Current asset	219,956.64	-13,435.45	-22,495.96	217,268.96	-42,268.95	51,000.00
1210	1 Building	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
1220	1 Equipment	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
1230	1 Vehicles	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
1240	1 Furniture	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
1250	1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
1340	1 Telephone right	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

文中でも書きましたが、ここ一日、二日作物をアップしていないのは、会社の決算書の提出が迫っており、てんやわんやの騒ぎになっているからです。

当社は設立当初から財源不足で税理士さん、社会保険労務士さん、デザイン会社さん等を雇える資金力がないので、見様見真似ながら何でも自分がやらなくてはならない状況になっているためです。それでも是を毎日少しずつでもやっていればこうまでドタバタせずに済むのでしょうか、兎に角こういった事をするのがイヤでツイツイ後回しにしてきたツケが一気にどっか〜ん、とやってくる訳です。

其れはさて置き、因みに会計年度を英語では fiscal year

暦年の方は historical year

と言います。

しかし自分は決算書という謂い方を知りませんので、取り敢えず自分の知っている単語を並べたてて annual report of fiscal year 22 with balance sheet and p/l report とあらわす事に致しました。

ここで言う balance sheet とは貸借対照表の事で p/l report 正確に書けば profit and loss report は損益計算書の事です。

未だいろいろ書きたいのですが、納期までの時間が余り残されていないので今日は是迄と致します。

● (コメント 1) comment 1

本文中に出て来ますカリフォルニア・セクシーダイナマイツと町田セクシーダイナマイツの対比は価値の優劣に基づくものではなく、単に自分の住まいと「冠したるその地名」との距離の遠近を表しているだけで御座います。

カリフォルニアと町田と書いただけでツッコミを入れられるケースが多いものですから一応。

それにしてもいい加減ウンザリします。ツッコミを入れる相手に対してと言うより、それを想定してこれを書いてしまう小心者の自分に対して、今迄このシリーズを通して縷々申し上げてきたことを自分自身が少しも為し得ていない事実が腹が立って、ウンザリしているので御座います。

(コメント 2) comment 2

本文中で申し述べました理由により、本日の●ミニ「オマケの英語/日本語教室」はお休みさせて戴きます。大変申し訳ございません。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」terrible



大手 SNS から順次的、漸減的に作物掲載の撤退方向を決めたのは「アバターに chat GPT AI 交まったらいったいどういう事になるのよ？もう訳わからん事になるんじゃないの？」と不図想像してゾッとしたからです。

Exactly I feel terrible!! Avatar and chat GPT one binding on SNS site. Just horror!!

(追記)

アバターだ chat GPT だとあれこれ騒いでおりますが、要するに自分を奥へ奥へと隠そうとしている。その為のお手軽簡単便利な手っ取り早いイイ道具を見つけた。なんか自分対しても人に対しても不信、自信の無さの表れ、その裏返しでしかない様な気がしてなりません。

ハンドメイドが好きな爺からすると (from Analog, Handmade craft lover old man)

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」 media meditation



最近、見るもの聞くもの、なんか全部嘘くさく思えて仕方ありません。

しかしそれを伝えるメディアと言うものは何も TV やネット等のバーチャルなものばかりとは限りません。現実世界も実はメディアの一種です。メディアを日本語にしますと「媒体」要するに「媒介するもの」だからです。

処でこの media という単語は meditation と語幹が一緒です。Meditation は確か「瞑想」のことでしたっけ？

だとすれば、この瞑想で思い出されるのが「冥界」詰り「あの世」の事です。

しかしそれでは如何にも物騒なので、今回はこの「瞑想」の「瞑（めい）」の字を一字拝借して考えてみました。

「瞑想」の「瞑」は「目を瞑る（つむる）」事を表します。

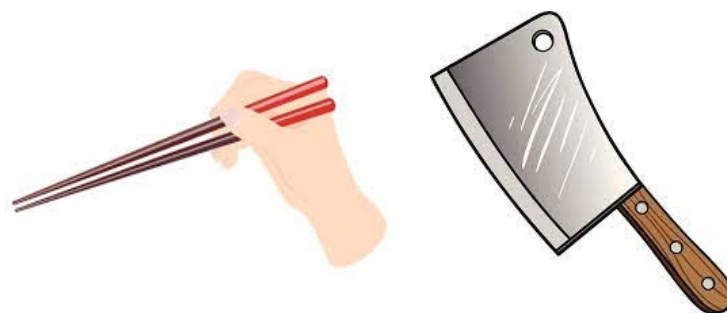
詰まり瞑想とは目を瞑って広がる想像の世界の事です。

となりますと、meditation と語幹を一にする media は是迄の叙述を繋げて訳しますと「目を瞑って想像されるものの媒介者」となりそうです。

要するにメディアと言う語の中には「真実を伝える」等と何処にも書かれていないのです。是にはちょっと驚きましたが、もしそれが真相だとすれば「いい加減嘘くさくて見るもの、聞くものにウンザリしている」とブツブツ言うのは的外れという事なのかもしれません、ね。

だってメディアは「目を瞑っている間に煙に巻く」という本来の任務を忠実に果たしているに過ぎないだけ、みたいだからです。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」 chopstick/pick-tick.



(chopstick). (butcher`s chop knife)



(Abdullah-de-Butcher) (Karate chop)

高校の頃、未だ今の様に手軽に海外と交流できるインターネットのない時代にペンパルで海外文通をしていました。

その折「お箸（おはし）」の事を何というのかわからなくて辞書で引いたところ chopstick と出ておりましたので、文通の手紙上そのまま書きました。

しかし今、国内において外国人さんと接する機会が増えてきておまして、その際このお箸を意味する英語 chopstick を使っても殆どの人の反応は what?でした。むしろ ohashi とか hashi とか言った方が余程通じたくらいです。

話は変わりますが、子供の頃よく見ていたプロレス中継で「空手チョップ」とかアメリカの黒人プロレスラーでアブドラ・ド・ブッチャー、肉屋のブッチャーとかいうレスラーとかが頻繁に出て来た記憶がありました。

そこで chopstick ってひょっとして「ぶった切り棒」って言う意味なの？

とちょっと驚いてしまいました。

我が国で「お箸」と言えば「箸でつまむ」「お箸をそろえる」「箸でとりわける」等、動作としてはとても細かくささやかな印象しかありません。

なのに、お箸の英語を直訳すると「ぶった切り棒」と動作がド派手。肉屋のブッチャーが肉切り包丁で骨付き牛肉をぶった切る様な強烈至極なイメージが湧いてきてしまいます。

ですので、これらを踏まえてもし自分がお箸の事を英訳するとすれば

Picking up stick(stick for picking up)

是だと長すぎるのであれば

Pick stick.

更に短くすれば

Pick-tick

とかにするんですでどねえ。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」 My no lighting rights.



Today I have no idea. No idea come out. Then no write. It`s amateur`s superior rights or as an investor to stock market or as an author to write. We have no final posting day!!

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」 vocabulary, vocabil, vocaru, vocatora, voca voca suruna
...



我が国は文法的約束事に極めてうるさい反面、矢鱈と新語が登場します。少なくとも外国語の中の英語圏ではあまり新語を作らず新語を表す場合には既存の言葉を組み合わせて使う事が多いような気がします。

例えば冒頭言の新語の例で言えば、海外では sexual harassment セクハラが精々ですが、我が国ではセクハラ、マタハラ、モラハラ、ハラハラ（ハラスメントに対するハラスメント）とか矢鱈出て来ますし、就活に始まれば、終活、婚活、妊活、育活、財活、罪活、飛（と）ん活（とんでもない活動）等々雨後の筈の様に節操なく出まくって、おります。

又冒頭言の組み合わせの例で言えば、我が国では麻薬、ヤク、大麻、ハッシッシ、等など事あるたびに新語に置き換わるのに対し、英語圏では既存語の trip（小旅行）とか drag（売薬）とかの既存語の組み合わせで、現在我が国ではニュース性のある毎に麻薬をわざわざ「大麻」等置き換えますが、英語圏では一々置き換えたりせずに全部をひっくるめて汎用性高く表す傾向があります。

是を見ますと、どうも我が国は極端から極端へと走り勝ちで、中抜け。英語圏は新しい物好きなように見えて意外と伝統的、常識的、保守的な傾向がある様に見えます。

そういった点からすると伝統的、常識的、保守的な English speaker が極端から極端に走りがちで、中抜け状態の日本語を学ぶのに、苦勞している事がこの点を見ただけでも推察できます。

文法（古い規範 old custom rule）には異常にウルサク(severe just)、反面かなり現代的(contemporary)な辞書にすら載っていない新語(up to date slang)がやたら多い。確かにタイヘン(troublesome)な感じが致します。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」daggy

Below next page.



文中「おとっつあん」の英訳に Daddy からの音韻的連想で、そんな英単語、あるかどうか
わからない儘取り敢えず Daggy を充ててみた処、なんと間違いを示す赤波線が付きません
でしたので調べてみた処、dog doggy の派生語で daggy というのがあり、意味は「だらし
ない、ダサイ、よれよれの」と言った雰囲気のものでした。

そう言えば以前、同じく doggy の音韻的連想から、おっかなびっくり piggy donkey「ブタ
ロバ」と書いてみました処、コレマタなんと、赤波線が付かなかったのです。

こうしてみると可成りハッターっぽいですが、矢張り語学と言うのは「音へのノリ」の側
面がかなりの比重であるのだな、と言う気が致しております。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」絆 Kizuna. Half and half.



「絆」と言う漢字は「糸」篇に「半」と書きます。糸を「半分半分に分かち持つ」という意味かと思います。

英語で言えば

We share rope half and half holding.

と言った処でしょうか。

こう書いて思い出す英単語が

Compromise

です。我が国では通常「妥協する」、つまり「不満を残しつつその不満に目を瞑る」と訳されますが、別の意味で「お互いセンターまで歩み寄る」と言う、いい意味もあります。東日本大震災直後、この「絆」と言う言葉が盛んに言われましたが、是を英訳するのに単に strings とか rope と言っただけでは伝わらない気がしたので、色々調べたり考えたりした結果、

上記二つの英単語が浮かんできました。

片方は rope にかなり言葉を添えなくてはなりませんでしたし、片方は因子分解すると com + promise 即ち「共に約束する」に行き当たるまでに結構時間を費やしました。

イメージとしては Each one come closer half and half step to center line for each other communicating.

と言った感じでしょうか。

いずれにせよ、英訳するに当たっては先ず「日本語をよく見てみる」事が肝要であることと単に直訳単語を覚えるのではなく「視覚・映像化する検討をしてみる」大切さに気付かされた次第、のお話でした、本日は。

●ミニ「オマケの英語/日本語教室」 Little bit organizing.



(above not claim but complaining from consumer)

英文を書いている「あれ？」と思い、ちょっと混乱していたというか、取り違えていた事に気付きました。

そこで忘備録的に整理。

不平不満を言う。ブツブツ言う。クレームをつける。は claim ではなく complain.

では claim (日本語でしょっちゅう耳にするクレーム) は何かと言うと、実は「主張する、訴えかける」の事なのだ、そうです。我々がよく使う意味での「クレームをつける」という意味は全くないのだとか。

例えば

He claims his innocence on legal court.

と言うと「彼は法廷で無罪を主張する」

となるのだそうです。

是には「え、うっそお～@@!!」で御座いました。

因みにこちらの crime(クライム)の方は「法律上の罪」の事なのだ、そうです。

完全に取り違えておりました。和製英語って怖いですね。

此処で言えばクレーム(claim)の件です。

(著者プロフィール) Writer`s profile.

うときゅう いっき(writer`s name utokyu ikki or Khazu san)

本名 宇都宮一貴 (うつのみや かずたか)

1953 年東京生まれ(was born in 1953 in Japan.)

早稲田大学第 1 文学部露文学科を 2 回留年の後、卒業。

国内電機メーカー家電製品商品企画部に 20 年間勤務。同子会社経理部等に 16 年間勤務。

40 歳から五 52 歳まで 12 年間うつ病を罹患。

左遷、リストラ、降格、離婚、家族崩壊等を経験。

定年後、株式会社 うと Q を設立 (After retirement from Toshiba, established, “utokyu corporation” in 2014)

現在主業はネパールカレー屋。(Now main business Nepali curry restaurant, “Namaste everybody” owner)

趣味は観察すること、考えること、書くこと、盗撮はしないスマホ・カメラの四つの k。

著者名は苗字、宇都宮一貴の音読みで、中学校時代の仇名。

宇宙の「う」

東京都の「と」

宮殿の「きゅう」

数字の「いち」を詰まり音便で「いっ」

貴族の「き」

で、うときゅういっき となります。

漢字表記にしますと、かなり御大層な人物に見え、実態に全くそぐっておりませんので、誤解を招かぬよう音読みひらがなで表記しております。

ホームページ：<http://utokyu.co.jp>

(出版情報)

著 者 うときゅういっき

発行人 宇都宮一貴

発行所：株式会社 うと Q ナマステ別館堂出版部

〒215-0018

神奈川県川崎市麻生区王禅寺東 5 丁目 3 4 番 7 号

電話 (phone)：044 - 989 - 1698

発 売 株式会社 うと Q ナマステ別館堂出版部

編 輯 しばらくの期間「ナマステ別館堂出版部」

カバーデザイン & DTP 製作 当面の間「ナマステ別館堂出版部」及び「ナレッジフォレスト 大竹鉄哉」

©Kazutaka Utsunomiya uploaded in Japan from 2020

発行日：2023 年 6 月 12 日 初版発行 (3rd June 23 released.)

本書の一部または全部について、著作権上、著作権者の承認を得ずに、無断で複写、複製することは禁じられています。All cory rights reserved.

(その他著書)

●多数

●尚、掲載写真は全て google 画像サイトの著作権フリーのものをダウンロードして使用しております。当社には著作権、版權は全くない事を明記させて戴きます。